

## はじめに

これまでも、わが国では、日本人や永住者の配偶者等で在留する外国籍の方のほか、いわゆる EPA 介護福祉士及び候補者の方が、介護保険サービスや障害福祉サービスを提供する施設・事業所、医療機関において、介護人材として活躍されてきました。今後は、新たな在留資格「介護」の枠組みで活躍する介護福祉士のほか、介護分野の技能実習生の受入れがスタートすることが見込まれています。

このうち、技能実習生は、わが国で習得した専門的技能を、母国に移転いただくという目的で入国することになります。その際、移転の対象となる介護の技能については、厚生労働省の「外国人介護人材受入れの在り方に関する検討会」の中間まとめ（平成 27 年 2 月）において、「介護は単なる作業ではなく、利用者の自立支援を実現するための思考過程に基づく行為であることを踏まえ、それに必要な考え方等の理解を含めて、移転の対象と考えることが適当」とされているところです。

そこで、本調査研究事業では、技能実習生のみなさまに、適切に日本の介護の技能を習得していただくため、「人間の尊厳や介護実践の考え方、社会のしくみ・こころとからだのしくみ等の理解に裏付けられた介護の考え方」を学ぶための学習テキストの開発に取り組みました。

本テキストの開発に当たっては、多くの介護サービスの施設・事業所で外国籍介護人材を指導する立場にある方、いわゆる EPA 介護福祉士及び候補者の方、そして日本人や永住者の配偶者等で在留する外国籍の方々からご意見を伺わせていただきました。その過程で実感したことは、多くの外国籍の方々が、日本の介護現場で活躍をされており、かつ、その方々が介護の業務にやりがいを感じておられること、そして、日本の介護を素晴らしいと感じておられること等でした。

これから入国される技能実習生のみなさまにも、同様の感想を抱いていただいたうえで、わが国の介護の技能を身に付け、母国で介護福祉の専門職としてご活躍くださることを期待しています。

平成 29 年 3 月

技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた  
学習支援ツールの開発に関する調査研究事業検討会

委員長 石 本 淳 也

## 目次

はじめに

### I. 調査研究事業の概要

1. 調査研究事業の目的等 ..... 3
2. 調査研究の方法 ..... 4
3. 検討会・部会等の活動実績 ..... 5

### II. 調査研究の成果と今後の課題

1. 学習支援ツール『学んでみよう 日本の介護』 ..... 11
2. 今後の課題 ..... 61

### III. 調査研究の経過

1. 検討会 ..... 65
2. 調査部会 ..... 74
3. 第1回訪問ヒアリング ..... 83
4. 集合ヒアリング ..... 95
5. 第2回訪問ヒアリング ..... 97
6. 教材開発部会 ..... 109
7. 編集会議 ..... 119

### IV. 資料編

- ・事業概要
- ・技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた学習支援ツールの開発
- ・第1回訪問ヒアリング実施概要
- ・第1回訪問ヒアリング実施対象施設・事業所一覧
- ・第1回訪問ヒアリング実施結果
- ・訪問ヒアリングを踏まえた編集方針の整理結果
- ・集合ヒアリング実施概要
- ・集合ヒアリング実施結果（概況）
- ・ヒアリング結果を踏まえた編集方針
- ・集合ヒアリング実施結果
- ・第2回訪問ヒアリング実施概要
- ・第2回訪問ヒアリング実施対象施設・事業所一覧
- ・第2回訪問ヒアリング実施結果

# I

## 調査研究事業の概要



## 1. 調査研究事業の目的等

### (1) 事業名

技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた学習支援ツールの開発に関する調査研究事業

### (2) 事業実施目的

外国人技能実習制度に介護分野を追加することは、制度の趣旨や、今後日本と同様の高齢社会へ向かう諸外国が想定されることから必要なことである。その際、より効果的にわが国の介護を技能移転するためには、入国直後の2ヵ月程度の講習やOJTによる学習に加えて、自己学習が重要である。そのため、技能実習生の自己学習を支援するツールを開発する。

### (3) 事業実施計画

技能実習生の受入先となる施設の代表者や、ともに介護サービスを提供することとなる介護福祉士、EPA 介護福祉士候補者、外国人介護人材の受入れに知見のある学識者等により構成する検討会を設置し、技能実習生が自己学習で活用できる支援として、基礎的な介護技術や、それに留まらない介護過程の展開等に関するよりわかりやすい学習支援ツールの開発について検討する。

その際、現に介護施設等に勤務している外国人介護人材や外国人介護人材を教育する担当者を対象として、より効果的な学習支援ツールとするため、調査部会を設置し、訪問によるヒアリングや、集合による意見交換により、学習支援ツールの在り方について整理を行う。

学習支援ツールについては、教材開発部会を設け、調査部会で整理した学習支援ツールの在り方を踏まえ、具体的な学習支援ツールを開発する。

なお、作成した学習支援ツールについては、技能実習生受入予定施設や、現に外国人介護人材の勤務する施設、さらに関係団体等に対し、ホームページ等も活用して広く提供する。

## 2. 調査研究の方法

### (1) 検討会の設置

技能実習生の受入先となる施設の代表者や、ともに介護サービスを提供することとなる介護福祉士、EPA 介護福祉士候補者、外国人介護人材の受入れに知見のある学識者等により構成する。

検討会を設置し、技能実習生が自己学習で活用できる支援として、基礎的な介護技術や、それに留まらない介護過程の展開等に関するよりわかりやすい学習支援ツールの開発について検討する

### (2) 調査部会の設置

現に介護施設等に勤務している外国人介護人材を対象として、学習支援ツールをどのような内容で設定するか明らかにするため行うヒアリング調査について、質問項目の検討、調査の実施、調査結果の取りまとめ、学習支援ツールに盛り込むべき内容の整理を行う。なお、調査は3段階に分けて実施する。

### (3) 教材開発部会の設置

調査部会で整理された内容を踏まえ、学習支援ツールの構成等について検討したうえで、よりわかりやすい内容のツールを作成する。

### (4) 学習支援ツール及び事業報告書の提供

作成した学習支援ツール及び事業報告書は、技能実習生受入予定施設や、現に外国人介護人材の勤務する施設、さらに関係団体等に対し、ホームページ等も活用して広く提供する。

### 3. 検討会・部会等の活動実績

#### (1) 検討会

<委員>

以下、五十音順

石本 淳也	公益社団法人日本介護福祉士会 会長
内田 千恵子	公益社団法人日本介護福祉士会 理事
北浦 正行	公益財団法人日本生産性本部 参与
久留 善武	一般社団法人シルバーサービス振興会 事務局長
角田 隆	公益社団法人国際厚生事業団 専務理事
橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事
平川 博之	公益社団法人全国老人保健施設協会 副会長

<オブザーバー>

伊藤 優子	厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
-------	--------------------------------------

<事務局>

松下 能万	公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長
照井 言彦	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課 係長
鈴木 涼太	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課

- 第1回……平成28年11月4日(金)  
13:00~15:00  
日本介護福祉士会 会議室
  
- 第2回……平成29年2月1日(水)  
16:00~17:30  
日本介護福祉士会 会議室
  
- 第3回……平成29年3月15日(水)  
16:00~17:30  
日本介護福祉士会 会議室

## (2) 調査部会

<委員>

以下、五十音順

稲垣 喜一	公益社団法人国際厚生事業団 受入支援部長
内田 千恵子	公益社団法人日本介護福祉士会 理事
蔵本 孝治	公益社団法人東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長
橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事

<オブザーバー>

伊藤 優子	厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
-------	--------------------------------------

<事務局>

松下 能万	公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長
照井 言彦	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課 係長
鈴木 涼太	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課

●第1回……平成28年11月8日(火)

9:30~10:45

日本介護福祉士会 会議室

●第2回……平成29年1月17日(火)

16:00~18:00

日本介護福祉士会 会議室

●第3回……平成29年3月8日(水)

16:00~17:30

日本介護福祉士会 会議室



### (3) 教材開発部会

<委 員>

以下、五十音順

岩崎 京子	社会福祉法人足立邦栄会 相談員
内田 千恵子	公益社団法人日本介護福祉士会 理事
白井 孝子	東京福祉専門学校 副学校長
竹田 幸司	田園調布学園大学 講師
橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事

<オブザーバー>

伊藤 優子	厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
-------	--------------------------------------

<事務局>

松下 能万	公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長
照井 言彦	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課 係長
鈴木 涼太	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課

- 第1回……平成28年11月8日(火)  
11:00~12:00  
日本介護福祉士会 会議室
  
- 第2回……平成29年2月6日(月)  
15:00~17:00  
日本介護福祉士会 会議室
  
- 第3回……平成29年3月15日(水)  
13:00~15:00  
日本介護福祉士会 会議室

#### (4) 編集会議

●第1回……平成28年12月21日(水)

17:30～19:30

横浜タイヨウビル 会議室

- <出席者>石本 淳也(公益社団法人日本介護福祉士会 会長)  
内田 千恵子(公益社団法人日本介護福祉士会 理事)  
橋本 由紀江(一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事)  
伊藤 優子(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室  
介護福祉専門官)  
松下 能万(公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長)  
照井 言彦(中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課 係長)  
鈴木 涼太(中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課)

●第2回……平成29年3月8日(水)

13:00～15:30

日本介護福祉士会 会議室

- <出席者>岩崎 京子(社会福祉法人足立邦栄会 相談員)  
内田 千恵子(公益社団法人日本介護福祉士会 理事)  
竹田 幸司(田園調布学園大学 講師)  
橋本 由紀江(一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事)  
伊藤 優子(厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室  
介護福祉専門官)  
松下 能万(公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長)  
照井 言彦(中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課 係長)  
鈴木 涼太(中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課)

# II

## 調査研究の成果と 今後の課題



# 学んでみよう 日本の介護

「技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた  
学習支援ツールの開発に関する調査研究事業」検討会

(事務局：公益社団法人 日本介護福祉士会)



## はじめに

これまでも、わが国では、日本人や永住者の配偶者等で在留する外国籍の方のほか、いわゆる EPA 介護福祉士及び候補者の方が、介護保険サービスや障害福祉サービスを提供する施設・事業所、医療機関において、介護人材として活躍されてきました。今後は、新たな在留資格「介護」の枠組みで活躍する介護福祉士のほか、介護分野の技能実習生の受入れがスタートすることが見込まれています。

このうち、技能実習生は、わが国で習得した専門的スキルを、母国に移転いただくという目的で入国することになります。

その際、移転の対象となる介護のスキルについては、厚生労働省の「外国人介護人材受入れの在り方に関する検討会」の中間まとめ(平成 27 年 2 月)において、「介護は単なる作業ではなく、利用者の自立支援を実現するための思考過程に基づく行為であることを踏まえ、それに必要な考え方等の理解を含めて、移転の対象と考えることが適当」とされているところです。

そこで、本調査研究事業では、技能実習生のみなさまに、適切に日本の介護のスキルを習得していただくため、「人間の尊厳や介護実践の考え方、社会のしくみ、こころとからだのしくみ等の理解に裏付けられた介護の考え方」を学ぶための学習テキストを開発しました。

ぜひこの学習テキストを活用いただき、わが国の介護のスキルを身に付け、母国で介護福祉の専門職としてご活躍くださることを期待しています。

平成 29 年 3 月

技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた  
学習支援ツールの開発に関する調査研究事業検討会

委員長 石本 淳也

## 技能実習生の指導者のみなさまへ

～このテキストを活用するにあたっての留意事項～

### ●このテキストの対象者

このテキストは、技能実習生として、一定程度、介護業務に慣れた方を対象としています。  
具体的には、日本に入国後2年目・3年目の方をイメージして製作しています。

### ●このテキストの目的

このテキストは、日本語を母国語としない技能実習生に、自己学習によって、介護現場で行われている介護が、どのような理由で実施されているか（＝介護過程の考え方）を理解いただくことを目的に製作しています。

介護過程を展開する力を身に付けていただくことを目的としているものではありません。

### ●指導者のみなさまに留意いただきたい事項

#### 日本語の表現

このテキストでは、介護の技能を学ぶ技能実習生にわかりやすくするために、できるだけ平易な日本語で表現する等の工夫をしています。

タイトルで「介護施設」という表現を用いているのは、その一例です。

#### 事例で取り上げている利用者の情報

介護過程の考え方を理解していただくことに焦点を当てているため、事例で取り上げる利用者の情報は、必要最小限にとどめています。

#### 自立の考え方

自立の考え方については、一定の説明は盛り込んでいますが、その考え方のすべてを盛り込んだものにはなっていません。

#### 介護の目標

介護の目標には、長期目標と短期目標がありますが、このテキストでは、二つの区分を明確に示さず、「介護の目標」と表現しています。

#### 支援内容や支援方法

実際の介護現場では、支援内容や支援方法は、日々の利用者の心身の状況に応じて変化するものと承知しています。しかし、このテキストでは、介護職みんなが共有し、同じ支援等を実施することの重要性の説明にとどめています。



## その他

「計画」「目標」「共有」といった言葉は、理解が難しいため、丁寧な解説が必要となる場合が考えられます。

### ●このテキストを活用した学習方法として考えられること

指導者のみなさまにおかれては、日々の業務等でご多忙のこととは思いますが、次のようなご協力をいただければ、技能実習生にとって、より深く介護の考え方を理解することができるようになると考えています。

#### 業務の振り返りの場での活用

実習実施機関では、技能実習生と実習指導者による業務の振り返りの機会があると思います。その振り返りの場でテーマを設定する際、このテキストの項目を参考にいただければと思います。

例えば、このテキストでは、各節の最後に「考えてみよう」というコーナーを設けています。業務の振り返りの一環として、「考えてみよう」を活用していただくことも考えられます。

#### 日常業務を通じた教育・指導における活用

日常業務を通じた教育・指導のなかで、このテキストの内容を取り上げながら、日頃の業務を説明していただく方法が考えられます。

#### 集合学習等における活用

技能実習生が集まる学習会等において、このテキストの「考えてみよう」を活用し、技能実習生がグループで意見交換を行う方法も考えられます。

その際、ファシリテーターを配置すると、より効果的な学習効果が期待できます。



# もくじ

<b>1</b> このテキストで学ぶこと…	
1	自立を支援する介護の流れ……………2
<b>2</b> 高齢者の介護施設で生活する佐藤さんへの介護	
1	佐藤さんの紹介……………3
2	利用者の状況をみてみよう……………4
3	介護の目標って、なんだろう……………6
4	介護計画って、なんだろう……………8
5	介護計画のとおり、みんなで支援する……………10
6	支援をしながら、利用者を観察しよう……………12
7	支援をして気づいた情報を、みんなで共有しよう……………14
8	介護の目標がどのくらい達成できたか確認して、介護計画を見直そう……………16
<b>3</b> 障害者の介護施設で生活する高橋さんへの介護	
1	高橋さんの紹介……………19
2	利用者の状況をみてみよう……………20
3	介護の目標って、なんだろう……………22
4	介護計画って、なんだろう……………24
5	介護計画のとおり、みんなで支援する……………26
6	支援をしながら、利用者を観察しよう……………28
7	支援をして気づいた情報を、みんなで共有しよう……………30
8	介護の目標がどのくらい達成できたか確認して、介護計画を見直そう……………32
<b>4</b> このテキストで学んだことをふり返ろう	
1	自立を支援する介護って、なんだろう……………36
2	自立を支援する介護の流れ……………38

# 1

## このテキストで学ぶこと…

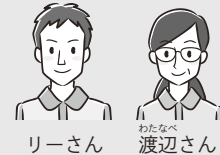


じっしゅうせい リーさんは、にほん かいご しせつ はたら  
実習生のリーさんは、日本の介護施設で働いています。

いちにち しごと なが おぼ  
一日の仕事の流れも覚えました。

しょくじ にゅうよく はいせつ かいじょ ほうほう  
食事や入浴、排泄の介助の方法もわかるようになりました。

しどうしゃ わたなべ かいわ  
指導者の渡辺さんは、リーさんと会話をしています。



しどうしゃ  
指導者



わたなべ  
渡辺さん

かいご しごと な  
介護の仕事は、もう慣れましたか。

はい、りようしゃ はなし しょくいん かた かいご  
はい、利用者さんと話ができるようになりました。職員の方も、介護のやり方を  
かた おし かいご かんが かた むずか  
ていねいに教えてくださいます。でも、介護の考え方は難しいです。

じっしゅうせい  
実習生



リーさん



にほん かいご りようしゃ のぞ せいかつ ささ  
日本の介護は、利用者さんが望んでいる生活を支えることです。

じりつしえん にほん かいご とくちょう  
「自立支援」は日本の介護の特徴です。

### じりつしえん 自立支援

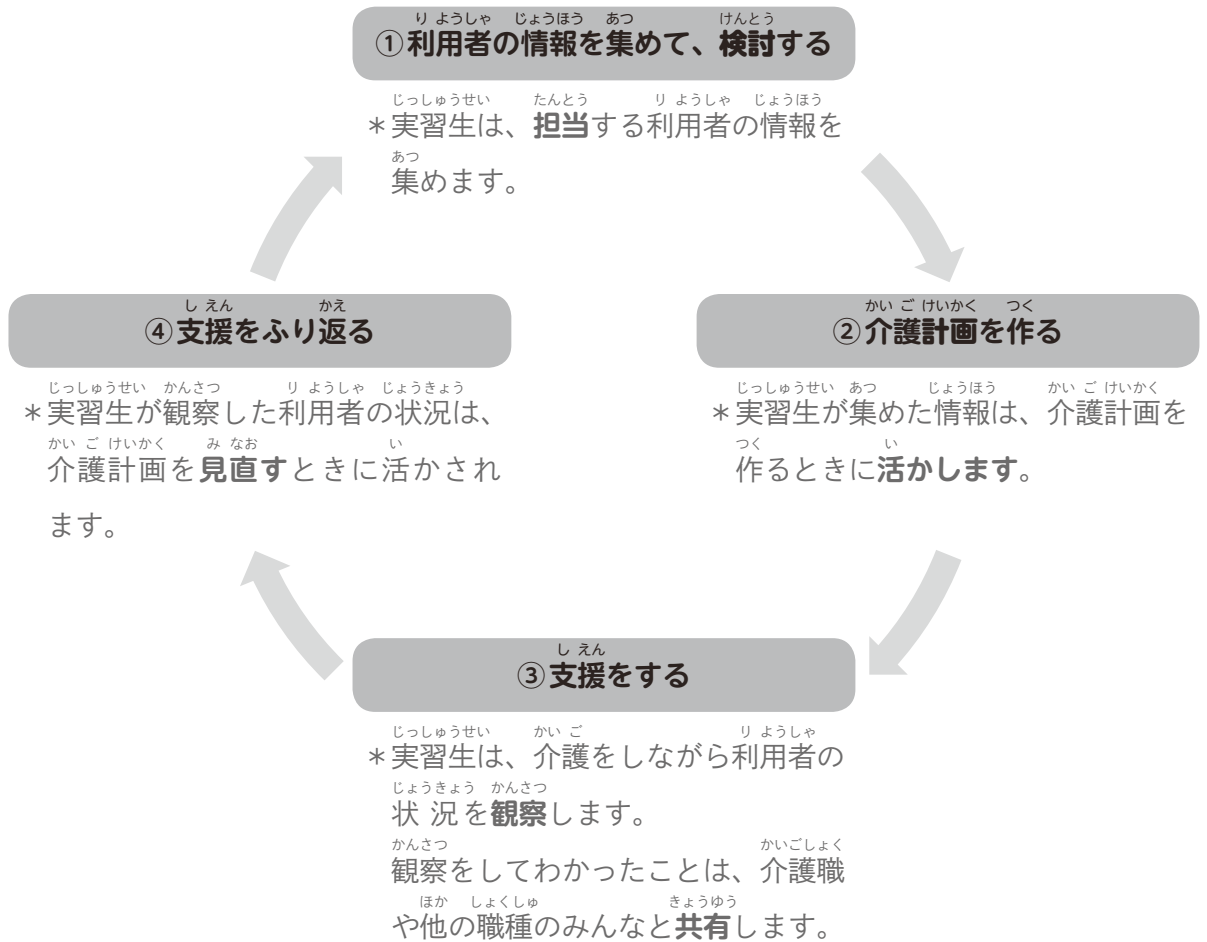
じりつしえん リ  
「自立支援」では、利用者さん一人ひとりの性格やこれまでの生活を大切に、利用者さんができる力を使いながら、自分に合った生活ができるようにします。

### ちから つか できる力を使う

ね にんちしよう  
**寝たきり**や認知症になっても、できることがあります。  
りようしゃ み ちから つか  
利用者さんのできることを見つけて、できる力が使えるように支援します。  
りようしゃ まえ いま  
利用者さんが、前はできていたのに、今はやっていないことがあります。支援をすれば、またできるようになるかもしれません。  
りようしゃ まえ いま み  
利用者さんが前はできていたけど、今はやっていないことも見つけましょう。



## 自立を支援する介護の流れ



- ▶ **特徴**…他と比べて、よくわかるとくちょう ほか くらところ
- ▶ **寝たきり**…病ね気びょうきやけがなどで、ずおっと起かいごきひつようられないで介護が必要な状態
- ▶ **検討**…よく調けんとうべて考しらえること
- ▶ **担当**…ある仕事たんとうを責しごと任せきにんをもっておこなうこと
- ▶ **計画**…する前けいかくに、考まええた方かんが法ほうほうや順じゅんばん番ばんなど
- ▶ **活かす**…じょういずつかに使うこと
- ▶ **観察**…よく見かんさつること
- ▶ **共有**…いっきょうゆうしょもに持もつこと
- ▶ **見直す**…もみなおう一いち度ど最さい初しよから見みること

# 2

## 高齢者の介護施設で生活する 佐藤さんへの介護



### 1

#### 佐藤さんの紹介

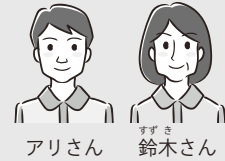


佐藤さんは、高齢者の介護施設で生活することになりました。

佐藤さんの介護の目標や、支援内容を決めた介護計画が作られました。

指導者の鈴木さんは、佐藤さんの介護を担当する実習生のアリさんに、

佐藤さんの介護計画を見ながら介護の流れを説明しています。



アリさん

鈴木さん

#### 佐藤さん



① 79歳 男性

② 3年前に脳梗塞

③ 後遺症で左麻痺

④ 麻痺により、うまく  
発音できない

⑤ 自分の希望を言わない

⑥ 脳梗塞になる前は人と  
交流するのが好きだった

⑦ うまく発音できないのを  
気にして、自分の部屋で過  
ごすことが多い

⑧ 自分から進んで人と交流  
することは少ない

⑨ 音楽クラブに一度だけ参  
加したとき、楽しそうな顔  
をしていた

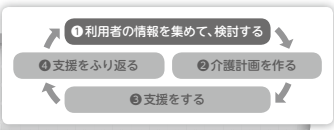
・ 介護の目標「人とかかわる機会がふえ、楽しく生活できるようになる」

・ 支援内容「音楽クラブに参加できるようにする」

・ 支援方法「音楽クラブが始まる前に、佐藤さんの居室へ誘いに行く」など

# 2

## 利用者（りようしゃ）の状況（じょうきょう）をみてみよう



▶ ~方（かた）…「人（ひと）」  
のていねいな言（い）  
ひ方（かた）

▶ 脳（のう）梗（こう）塞（そく）…脳（のう）  
けっかん  
血管（けつえき）がつかまって、  
血液（けつえき）が流（なが）れな  
くなくなった病（びょう）気（き）

▶ 後（こう）遺（い）症（しょう）…病（びょう）気（き）  
のあとで残（のこ）っ  
た症（しょう）状（じょう）

▶ 発（はつ）音（おん）…言（こと）ば  
をこえだ  
し出すこと

▶ ADL (Activities  
of Daily Living) …  
にちじょうせいかつどう  
せいかつ  
生活（せいかつ）して  
いる  
とき（こう）の行（どう）動（どう）  
しよくじ  
食（しょく）事（じ）、排（はい）泄（せつ）、  
いどう  
移（い）動（どう）など

▶ 趣（しゆ）味（み）…楽（たの）しみ  
としてくり返（かえ）し  
おこなうこと

アリさんと鈴木（すずき）さんは、これから佐藤（さとう）さん（か）を介（かい）護（ご）するた（た）めに、佐藤（さとう）さん（か）がど（ど）んな方（か）か確（かく）認（にん）します。

指導者（しどうしゃ）



佐藤（さとう）さん（か）を介（かい）護（ご）するに（に）は、ま（ま）ず、佐藤（さとう）さん（か）がど（ど）んな方（か）か知（し）らな（な）ければなり（なり）ませ（ませ）ん。佐藤（さとう）さん（か）につい（つ）て知（し）って  
いる情（じょう）報（ほう）を教（おし）えてく（く）ださ（さ）い。

実習生（じっしゅうせい）



佐藤（さとう）さん（か）は3（さん）年（ねん）前（まえ）に脳（のう）梗（こう）塞（そく）に（に）な（な）りま（ま）し（し）た（た）。左（ひだり）麻（ま）痺（び）の  
後（こう）遺（い）症（しょう）が（が）あ（あ）り（り）ま（ま）す（す）。麻（ま）痺（び）のた（た）めに（に）う（う）ま（ま）く発（はつ）音（おん）が（が）でき（でき）ま  
せ（せ）ん。



佐藤（さとう）さん（か）の身（しん）体（たい）情（じょう）報（ほう）で（で）す（す）ね（ね）。ほ（ほ）かに（に）ど（ど）んな情（じょう）報（ほう）が（が）必（ひつ）要（よう）  
で（で）す（す）か（か）。

歩（ほ）行（こう）、食（しょく）事（じ）、入（にゅう）浴（よく）、着（ぎ）替（か）え（え）が（が）、自（じ）分（ぶん）一（ひと）人（り）で（で）でき（でき）るか  
ど（ど）う（う）か確（かく）認（にん）し（し）た（た）い（い）で（で）す（す）。



佐藤（さとう）さん（か）のADL（じょうほう）の情（じょう）報（ほう）で（で）す（す）ね（ね）。身（しん）体（たい）情（じょう）報（ほう）やADL（じょうほう）の  
情（じょう）報（ほう）も（も）大（たい）切（せつ）で（で）す（す）が（が）、佐藤（さとう）さん（か）の趣（しゆ）味（み）や生（せい）活（かつ）習（しゅう）慣（かん）な（な）ども、  
大（たい）切（せつ）な情（じょう）報（ほう）に（に）な（な）り（り）ま（ま）す（す）。

さとう じょうほう ひつよう  
佐藤さんについて、いろいろな情報が必要です。

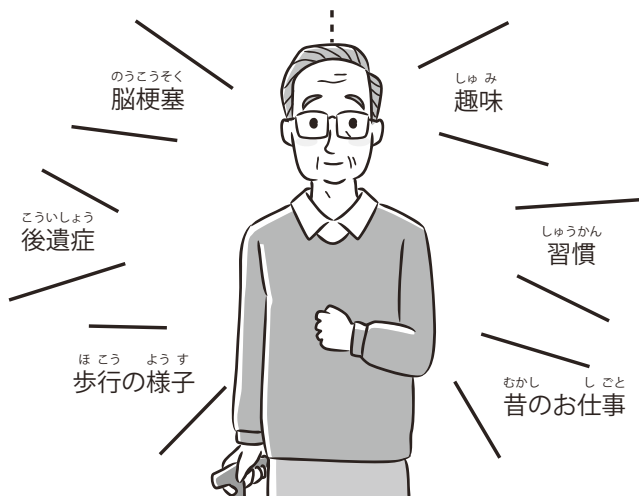


げんざい じょうきよう か こ じょうきよう  
そうです。現在の状況、過去の状況など、いろいろな  
じょうほう あつ たいせつ  
情報を集めることが大切です。



## まとめ

- 1 利用者（りようしゃ）を介護（かいご）するためには、どんな方（かた）か知らなければなりません。
- 2 利用者が（りようしゃ）どんな方（かた）か知るためには、身体情報（しんたいじょうほう）やADL（じょうほう）の情報（じょうほう）だけでなく、生活（せいかつ）の状況（じょうきよう）など、いろいろな情報（じょうほう）を集め（あつ）ます。



## 考えてみよう

あなたなら、担当（たんとう）する利用者（りようしゃ）さんのどんな情報（じょうほう）を集め（あつ）ますか。

---

---

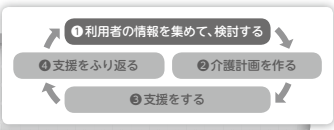
じょうきよう じ かん  
▶状況…時間  
とともに、変  
わっていく様子

じょう  
▶いろいろな情  
報…身体情報  
やADLの情報、  
ねんれい だんせい じょ  
年齢や男性か女  
性かなど基本の  
情報、また、一  
日の過ごし方や  
かぞく かんけい  
家族との関係な  
ど、生活の情報  
あつ  
も集めましよう

たんとう  
▶担当…ある  
仕事を責任を  
もっておこなう  
こと

# 3

## かいご もくひょう 介護の目標って、なんだろう



▶ **かかわる**…かん  
けい係する

さとう かいご もくひょう ひと きかい たの せいかつ  
佐藤さんの介護の目標は「人と**かかわる**機会がふえ、楽しく生活でき  
るようになる」です。

もくひょう き かた すずき かくにん  
この目標の決め方について、アリさんと鈴木さんは確認しています。

じっしゅうせい  
実習生



さとう かいご もくひょう き  
佐藤さんの介護の目標は、どうやって決めましたか。

しどうしゃ  
指導者



すずき  
鈴木さん

さとう せいかつ きぼう い  
佐藤さんは、どんな生活がしたいのか、希望を言いま  
せんね。集めた佐藤さんの情報から、佐藤さんの希望  
する生活を介護職がまとめました。

さとう かいご もくひょう じょうほう き  
佐藤さんの介護の目標は、どんな情報から決めまし  
たか。



さとう のうこうそく まえ ひと こうりゅう す  
佐藤さんは、脳梗塞になる前は人と交流するのが好き  
でした。でも、うまく発音できないことを気にして、  
居室で過ごすことが多いです。積極的に人と交流する  
ことは少ないです。

▶ **積極的**…せつきよくてき じぶん自分  
からどんどん  
やる様子



そうですか。



利用者さんの介護の目標は、介護職が決めてはいけません。佐藤さんにも、介護の目標がよいか、確認しました。



## まとめ

- 1 介護の目標は、利用者が希望していることを基にして作ります。
- 2 介護の目標がよいか、利用者に確認してもらいます。

どんな生活を  
希望されて  
いるのだろう。



## 考えてみよう

あなたが担当している利用者さんの介護の目標は、利用者さんのどんな希望を基に作られていますか。

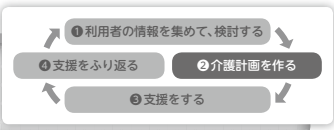
---

---

# 4

かいごけいかく

## 介護計画って、なんだろう



けいかく まえ  
▶計画…する前  
かんばん ほうほう  
に、考えた方法  
じゅんばん  
や順番など

さとう し えんないよう おんがく さん か  
佐藤さんの支援内容は、「音楽クラブに参加できるようにする」です。  
すずき かいごけいかく み し えんないよう し えんほうほう  
アリさんと鈴木さんは、介護計画を見ながら、支援内容と支援方法を  
かくにん  
確認しています。

しどうしゃ  
指導者



し えんないよう かいごけいかく か  
支援内容は介護計画に書いてあります。

すずき  
鈴木さん

さとう し えんないよう おんがく さん か  
佐藤さんの支援内容は「音楽クラブに参加できるよ  
し えんないよう き  
うにする」です。どうやって支援内容を決めましたか。

じっしゅうせい  
実習生



アリさん

たいこ  
▶太鼓…  




さとう いちど おんがく さん か うた  
佐藤さんは一度だけ音楽クラブに参加しました。歌は  
うた たの たいこ  
歌いませんでしたが、楽しそうに太鼓をたたいていま  
した。

そうですね。



おんがく さん か ひと こうりゅう  
音楽クラブに参加すると、人と交流できるようになる  
かんが  
と考えました。

くたいてき  
▶具体的…わか  
りにくいことな  
れい せつめい  
どを例で説明す  
ること

さとう くたいてき し えん  
佐藤さんには、具体的にどんな支援をすればよい  
ですか。





し えんほうほう かい ご けいかく か おんがく  
 支援方法も介護計画に書いてあります。「音楽クラブ  
 はじ まえ さとう きよしつ さそ い さとう  
 が始まる前に、佐藤さんの居室へ誘いに行く」「佐藤  
 さんが山田さんと話せるように支援する」です。

かい ご けいかく み し えんほうほう かくにん  
 介護計画を見ると、支援方法も確認できるんですね。



かい ご けいかく り ようしゃ ひとり つく し えん  
 介護計画は、利用者さん一人ひとりに作ります。支援  
 ないよう し えんほうほう り ようしゃ ひとり ちが  
 内容と支援方法は、利用者さん一人ひとり違います。  
 し えん かい ご けいかく かくにん  
 支援をするときは介護計画を確認します。



やま だ  
 山田さん

おんがく  
 音楽クラブの  
 さん か しゃ  
 参加者。ゆっ  
 はなし き  
 くり話を聞いて  
 くれる人

## まとめ

- 1 介護計画には、介護の目標や支援内容、支援方法が書いてあります。
- 2 介護計画は、利用者一人ひとりに作ります。



## 考えてみよう

あなたの担当する利用者さんの支援内容と支援方法はどやうやって  
 き  
 決まりましたか。

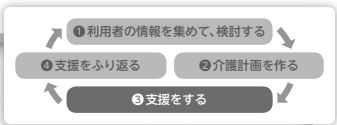
---



---



かい ご けいかく  
**介護計画のとおりに、**  
 し えん  
**みんなで支援する**



きょうゆう  
 ▶ **共有**…いっ  
 も  
 しょに持つこと

たっせい けいかく  
 ▶ **達成**…計画や  
 もくてき お  
 目的をやり終え  
 ること

かい ご けいかく かくにん すず き かい ご けいかく ないよう  
 介護計画を確認しながら、鈴木さんはアリスさんに、介護計画の内容を  
 きょうゆう おな し えん リゆう せつめい  
**共有**してみんなで同じ支援をする理由を説明しています。

し どうしや  
 指導者



すず き  
 鈴木さん

さ どう かい ご もくひょう たっせい さ どう  
 佐藤さんの介護の目標を**達成**するために、佐藤さんに  
 かいごしょく かい ご けいかく ないよう きょうゆう  
 かかわる介護職みんなが、介護計画の内容を共有して、  
 おな し えん  
 同じ支援をします。

じっしゅうせい  
 実習生



アリスさん

かいごしょく おな し えん  
 どうして介護職みんなが同じ支援をしなければなら  
 ないのですか。



し えんほうほう さ どう やま だ はな  
 支援方法は、「佐藤さんが山田さんと話せるように  
 し えん かい ご けいかく し えん  
 支援する」です。介護計画のとおり支援しないと、  
 どうなるでしょうか。

はな ひと おんがく たの  
 話せる人がいないと、音楽クラブが楽しくなくなる  
 かもしれません。



さ どう かいごしょく かい ご けいかく ないよう  
 佐藤さんにかかわる介護職みんなが介護計画の内容を  
 きょうゆう おな し えん ひと き かい  
 共有して、同じ支援をしないと、人とかかわる機会を  
 ふやせなくて、佐藤さんの介護の目標の達成は難しく  
 なります。

かいごけいかく ないよう きょうゆう おな しえん  
 介護計画の内容を共有して、同じ支援をすることが  
 たいせつ  
 大切なんですね。

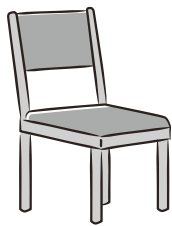


かいごしょく い がい いりよう かん ご せんもんしょく しえん  
 介護職以外の医療や看護の専門職とっしょに支援し  
 ます。介護職が介護計画を共有して、みんなで同じ支  
 えん  
 援をしていることを知ってもらいます。

い がい  
 ▶～以外：～の  
 ほか  
 他のもの

## まとめ

- ① かいごけいかく ないよう かいごしょく きょうゆう おな しえん  
 介護計画の内容を介護職みんなで共有して、同じ支援をします。
- ② かいごしょく い がい ひと かいごしょく かいごけいかく おな しえん  
 介護職以外の人たちにも、介護職が介護計画のとおりと同じ支援をし  
 ていることを知ってもらいます。



あれ。  
 やま だ  
 山田さんは  
 どうしたのだろう。

## 考えてみよう

かいごけいかく きょうゆう しえん たんとう りようしゃ  
 介護計画を共有しないで支援したとき、あなたが担当する利用者  
 さんはどう思いますか。

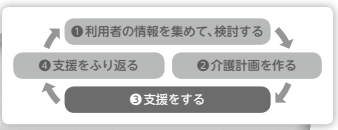
---



---

# 6

## し えん り ようしや かんさつ 支援をしながら、利用者を観察しよう



かんさつ み  
▶ 観察…よく見  
ること

さとう おんがく さん か げつ  
佐藤さんが音楽クラブに参加してから1か月になりました。クラブ  
かつどう おんがく さとう かんさつ  
活動のあと、音楽クラブでの佐藤さんを観察したについて、アリ  
すずき ほうこく  
さんは鈴木さんに報告します。

しどうしや  
指導者



すずき  
鈴木さん

し えん り ようしや ようす かんさつ  
支援をするときは、利用者さんの様子を観察します。  
おんがく まえ きよしつ さそ い さとう  
音楽クラブの前に、居室に誘いに行ったとき、佐藤  
さんはどんな様子でしたか。

どうさ しんたい  
▶ 動作…身体の  
うご  
動き

きよしつ たいこ どうさ  
居室で、太鼓をたたく動作をしているときがあります。

じっしゅうせい  
実習生



アリさん



たの おんがく  
とても楽しみにされているようですね。音楽クラブの  
さとう ひょうじょう  
とき、佐藤さんはどんな表情でしたか。

たいこ やまだ はなし  
太鼓をたたくときと、山田さんと話をしているときは  
たの  
楽しそうでした。



き  
ほかに気になることはありましたか。

やま だ はな  
山田さんがいらっしゃらないときは、だれとも話し  
ませんでした。



たいせつ き さとう ようす かんさつ  
とても大切な**気づき**ですね。佐藤さんの様子を**観察**  
してわかった情報は、佐藤さんの**介護**の**目標**がどのくら  
い達成できたか**確認**するとき大切な情報になります。

き き  
▶ **気づき**…気が  
ついたこと

かくにん しら  
▶ **確認**…調べた  
き  
り聞いたりして、  
はっきりさせる  
こと



## まとめ

- ① 支援をするときは、介助をするだけでなく、利用者の様子を観察します。
- ② 利用者の様子を観察してわかった情報は、介護の目標がどのくらい達成できたか確認するとき大切な情報になります。



さとう  
佐藤さん  
やま だ はなし  
山田さんと話をしている  
たの  
ときは楽しそうだな。



さとう  
佐藤さん  
はな  
だれとも話して  
いないな。

## 考えてみよう

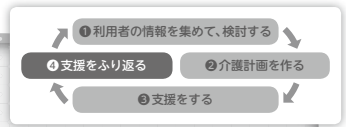
あなたが担当している利用者さんを支援しているとき、観察して  
わかったことはありますか。

---

---



し えん き じょうほう  
支援をして気づいた情報を、  
きょうゆう  
みんなで共有しよう



すずき し えん き じょうほう かいごしょく  
鈴木さんはアリさんに、支援をして気づいた情報を、介護職みんなで  
きょうゆう りゆう せつめい  
共有する理由を説明しています。

しどうしや  
指導者



すずき  
鈴木さん

さとう おんがく はな  
佐藤さんは、音楽クラブで、だれとも話さないときが  
あったそうですね。

やまだ  
はい。山田さんがいらっしゃらないときです。

じっしゅうせい  
実習生



アリさん



やまだ はな ひと  
山田さんのほかに話せる人がいらっしゃらないと、  
これから佐藤さんはどうなってしまいますか。

やまだ おんがく たの  
山田さんがいらっしゃらないと音楽クラブが楽しく  
なくなるかもしれません。



し えん き じょうほう さとう かいご  
支援をして気づいた情報は、佐藤さんにかかわる介護  
しょく きょうゆう  
職みんなで共有しましょう。

し えん もくひょう し えんないよう  
支援をはじめるときに、みんなで目標や支援内容を  
きょうゆう おな  
共有するのと同じですね。







じょうほう きょうゆう ほうほう もう おく きろく ほうこく  
 情報を共有する方法は、申し送り、記録、報告があり  
 ます。いろいろな方法を使って、情報を共有します。  
 し えん き じょうほう かいご もくひょう  
 支援をして気づいた情報は、介護の目標がどのくらい  
 たっせい かくにん ひつよう  
 達成できたかを確認するときになります。



## まとめ

- ① 支援をして気づいた情報は、利用者にかかわる介護職みんなで共有します。
- ② 情報を共有する方法は、申し送り、記録、報告があります。

もう おく  
申し送り



き ろく  
記 録



ほう こく  
報 告



## 考えてみよう

し えん き じょうほう かいごしよく きょうゆう  
 支援をして気づいた情報を介護職みんなで共有しなかったとき、  
 たんとう りようしゃ  
 あなたが担当する利用者さんはどうなりますか。

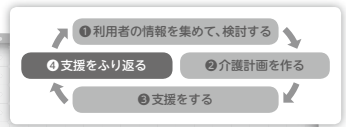
---



---



かいご もくひょう たっせい  
**介護の目標がどのくらい達成できたか**  
 かくにん かいご けいかく みなお  
**確認して、介護計画を見直そう**



みなお  
 ▶ **見直す**…もう  
 いちどさいしょ み  
 一度最初から見  
 ること

いがい  
 ▶ **～以外:～**じゃ  
 ほかに  
 ない他の

しゅうせい なお  
 ▶ **修正**…直すこ  
 と

さとう たの おんがく さんか  
 佐藤さんが、いつでも楽しく音楽クラブに参加していただけるように  
 かいご けいかく みなお おんがく やまだ いがい さんかしゃ  
 介護計画を見直しました。「音楽クラブで、山田さん以外の参加者と  
 もかかわれるよう支援する」という支援方法が加わりました。

しどうしゃ  
 指導者



すずき  
 鈴木さん

やまだ さとう  
 山田さんがいっしょにいないとき、佐藤さんはだれと  
 はな も話しませんでした。佐藤さんの「人とかかわる機会  
 がふえ、楽しく生活できるようになる」という介護の  
 もくひょう たっせい  
 目標が達成できないので、支援方法を修正しました。

じっしゅうせい  
 実習生



アリさん

さとう かいご もくひょう たっせい しゅうせい  
 佐藤さんの介護の目標の達成のために、支援方法を  
 しゅうせい  
 修正したんですね。



やまだ いがい さんかしゃ こえ さとう  
 山田さん以外の参加者にも声をかけて、佐藤さんが  
 さんかしゃ こうりゅう  
 ほかの参加者と交流しやすいようにします。

こうりゅう ひと おんがく かつどう  
 交流する人がふえれば、音楽クラブの活動がもっと  
 たの 楽しくなりますね。佐藤さんの介護の目標も達成し  
 さとう かいご もくひょう たっせい  
 やすくなります。





介護の目標がどのくらい達成できたかどうか、定期的に確認します。佐藤さんを観察してわかった「山田さんがいらっしゃらないとき、だれとも話していなかった」という情報が活かされます。

利用者さんをいつも観察することは、とても大切だとわかりました。



▶定期的…3か月に1回、半年に1回など、同じ期間をあけてすること

▶活かす…じょうずに使うこと

## まとめ

- 1 介護の目標が、どのくらい達成できたか、定期的に確認します。
- 2 利用者を観察してわかった情報は、介護の目標がどのくらい達成できたか確認するときに必要になります。



## 考えてみよう

あなたが担当する利用者さんの介護の目標がどのくらい達成できたか、どうやって確認しますか。



# 3

## しょうがいしゃ かいご しせつ せいかつ 障害者の介護施設で生活する たかはし かいご 高橋さんへの介護



### 1

#### たかはし しょうかい 高橋さんの紹介



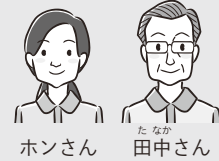
たかはし しょうがいしゃ かいご しせつ せいかつ  
高橋さんは、障害者の介護施設で生活しています。

きのう ころ たかはし かいご けいかく あたら つく  
昨日トイレで転んでしまいました。高橋さんの介護計画が新しく作ら

れました。

じっしゅうせい たかはし かいご たんとう  
実習生のホンさんは、高橋さんの介護を担当することになりました。

しどうしゃ たなか たかはし かいご けいかく み かいご なが せつめい  
指導者の田中さんは、高橋さんの介護計画を見ながら介護の流れを説明しています。



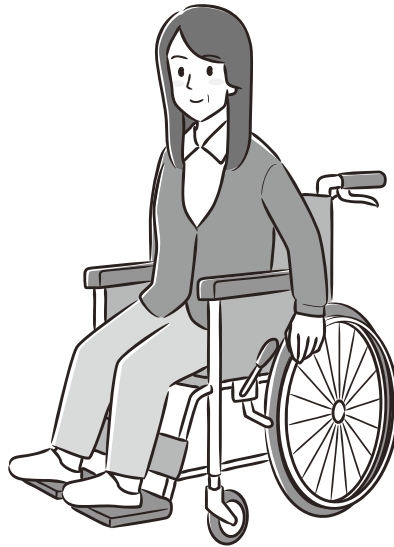
#### たかはし 高橋さん

さい じよせい  
① 45歳 女性

う  
② 生まれたときから  
まひ てあし  
麻痺があって、手足  
うご  
が動かしにくい

じぶん じ  
③ 「自分のことは、自  
ぶん い  
分でしたい」と言う

とく ほか  
④ 「特にトイレは他の  
ひと せわ  
人のお世話になりたく  
ない」と言っている



きのう べん  
⑤ 昨日、トイレで、便  
ざ た したぎ  
座から立って、下着を  
あ ころ  
上げるときに転んだ

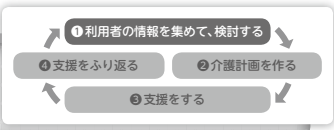
ころ  
⑥ 「またトイレで転ぶの  
てつだ  
がこわいので、手伝って  
ほしい」と言っている

ころ まえ じ  
⑦ 転ぶ前は、トイレで自  
ぶん た ふく したぎ  
分で立って、服や下着の  
あ お  
上げ下ろしをしていた

- かいご もくひょう まえ じぶん はいせつ  
・ 介護の目標 「前のように、トイレで自分で排泄する」
- しえんないよう た あ いちぶかいじょ ふく したぎ あ お ぜんかいじょ  
・ 支援内容 「立ち上がりの一部介助」「服と下着の上げ下ろしの全介助」
- しえんほうほう はいせつちゅう そと ま  
・ 支援方法 「排泄中は、トイレの外で待つ」など

# 2

## 利用者の状況を見てみよう



かた ひと  
▶ ~方...「人」  
のていねいな言  
かた  
い方

たなか たかはし かいご たかはし  
ホンさんと田中さんは、高橋さんの介護をするために、高橋さんがど  
かた かくにん  
んな方が確認します。

しどうしゃ  
指導者



たなか  
田中さん

ころ いま たかはし かいご かんが  
トイレで転んだことから、今の高橋さんの介護を考えま  
たかはし し じょうほう おし  
す。高橋さんについて知っている情報を教えてください。

じっしゅうせい  
実習生



ホンさん

たかはし う てあし まひ  
高橋さんは、生まれたときから手足に麻痺があります。  
てあし うご  
手足が動かしくいです。



たかはし しんたいじょうほう たかはし  
高橋さんの身体情報はわかりました。高橋さんは、  
じぶん た ふく したぎ あ お  
トイレで、自分で立って、服や下着の上げ下ろしを  
していました。

きのう べんざ た したぎ あ  
はい。昨日、トイレで便座から立って、下着を上げる  
ころ  
ときに転びましたね。



たかはし はいせつ おも  
高橋さんは、トイレでの排泄をどう思っているでしょ  
うか。

ほか ひと せ わ い  
「他の人のお世話になりたくない」と言っています。  
でも、「またトイレで転ぶのがこわいので、手伝って  
ほしい」とおっしゃっています。

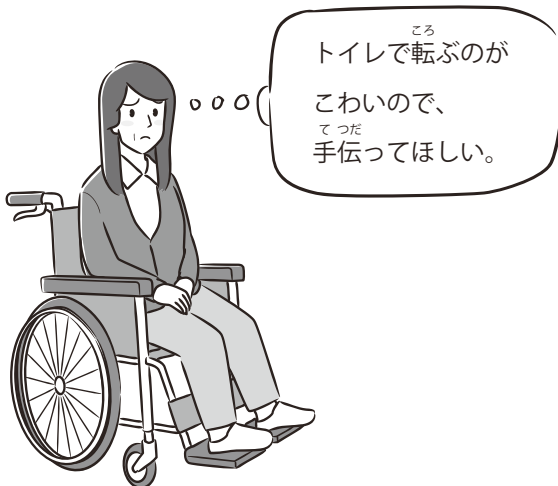


かい ご り ようしゃ しんたいじょうほう り ようしゃ  
介護をするときは、利用者さんの身体情報や、利用者  
さんの希望や今の気持ちなど、いろいろな情報を集めま  
す。今までどうやってトイレで排泄していたか、どんな  
ことができていたか確認する必要もありますね。



## まとめ

- ① 利用者を介護するためには、どんな方が知らなければなりません。
- ② 利用者の情報は、身体のこと、希望や今の気持ちなど、いろいろ集めます。



## 考えてみよう

あなたが担当する利用者さんのどんな情報を集めますか。

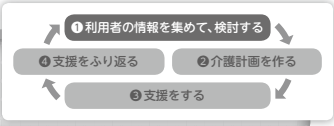
---

---

▶ 担当…ある  
仕事を責任を  
もっておこなう  
こと

# 3

## 介護の目標って、なんだろう



高橋さんの介護の目標は「前のように、トイレで自分で排泄する」です。ホンさんと田中さんは目標の決め方について確認しています。

指導者



田中さん

介護の目標は、利用者さんが希望していることを基にして作ります。

実習生



ホンさん

高橋さんの介護の目標は、「前のように、トイレで自分で排泄する」です。どうやって決めましたか。



高橋さんは、「またトイレで転ぶのがこわい」と言っています。でも、転ぶ前は、トイレで自分で服や下着の上げ下ろしをしていました。「自分のことは自分でやりたい」「特にトイレは他の人のお世話になりたくない」と希望しています。



高橋さんの希望が、介護の目標になるのですか。

▶ 達成…計画や目的をやり終えること



いいえ。介護の目標が達成できるかどうか、高橋さんの生活がよくなるかどうか、今の状態をふまえて、高橋さんと話し合っ決めてます。



介護職と利用者さんが、話し合うことが大切なんです。ね。



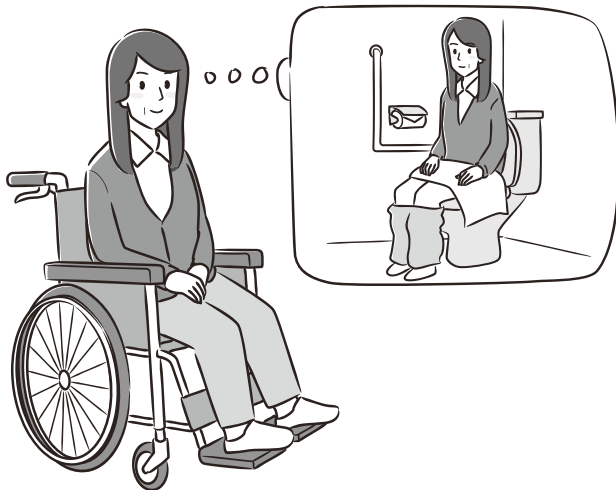


そうです。介護の目標を決めるときは、利用者さんの  
 気持ちを大切にします。でも、希望が利用者さんに  
 よいかどうか、介護職は利用者さんとしっかり話し  
 合っ**て**決めます。



## まとめ

- ① 介護の目標は、利用者が希望していることを基にして作ります。
- ② 介護の目標が達成できるかどうか、利用者の生活がよくなるかどうか、利用者**と**介護職で話し合っ**て**決めます。



## 考えてみよう

あなたが担当している利用者さんの介護の目標は、利用者さんの  
 どのような希望を基に作られていますか。

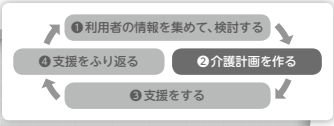
---



---

# 4

## かいごけいかく 介護計画って、なんだろう



▶ **計画**…する前  
に、考えた方法  
や順番など

高橋さんの支援内容は「便座からの立ち上がりの一部介助」「服と下着の上げ下ろしの全介助」です。ホンさんと田中さんは、介護計画を見ながら、支援内容と支援方法を確認しています。

指導者  
田中さん

高橋さんの支援内容はどうやって決めましたか。

実習生  
ホンさん

高橋さんは、自分で立って、服や下着の上げ下ろしをしていました。今は「手伝ってほしい」と言っています。どうしてですか。

便座から立って下着を上げるときに転んだので、また転ぶのが怖いと思っているからです。

介護職

介護職は、利用者さんができるのに、どうしてやらな  
いか考えて、利用者さんが自信を取り戻せるように  
支援します。

自分で立って、服や下着の上げ下ろしができるように  
なれば、高橋さんはトイレでの排泄が自立できるかも  
しれません。

指導者

高橋さんの希望を聞きながら、今までやっていたこと  
を確認して、高橋さんに合った支援内容にします。

▶ **取り戻す**…な  
くしたものを、  
もう一度自分の  
ものにする

たかはし  
高橋さんには、**具体的**にどんな支援をすればよいですか。



ぐたいてき  
▶ **具体的**…わか

りにくいことな  
どを例で説明す  
ること

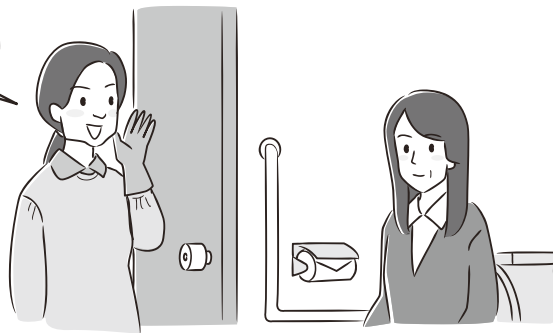


し えんほうほう はいせつちゅう そと ま べん ざ  
支援方法は、「排泄中は、トイレの外で待つ」「便座か  
ら立ち上がるときに腰を支える」「服と下着の上げ下  
ろしは、立ち上がった状態です」「服だけでなく下  
着もしっかり上がっているか確認する」です。支援内  
容と支援方法は介護計画に書いてあります。

## まとめ

- ① 介護計画には、介護の目標や支援内容、支援方法が書いてあります。
- ② 利用者への支援内容と支援方法は、利用者の希望を聞いて、確認しながら決めます。

お  
終わったら  
こえ  
声をかけて  
ください。

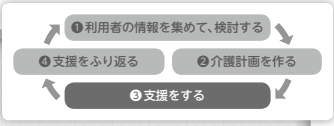


## 考えてみよう

あなたの担当する利用者さんの支援内容と支援方法はどうやって  
決まりましたか。

# 5

## 介護計画のとおり、 みんなで支援する



▶ 共有…いっしょに持つこと

▶ かかわる…関係する

介護計画を確認しながら、田中さんはホンさんに、介護計画の内容を共有してみんなで同じ支援をする理由を説明しています。

指導者



田中さん

高橋さんの介護の目標を達成するためには、高橋さんにかかわる介護職みんなが、介護計画の内容を共有して、同じ支援をします。

実習生



ホンさん

高橋さんの支援内容は、「便座からの立ち上がりの一部介助」と「服と下着の上げ下ろしの全介助」です。どうして介護職みんなが同じ支援をしなければならないのですか。



高橋さんは、服と下着の上げ下ろしを全介助してくれると思っています。でも、介護職の中で、一部介助をする人がいたらどうですか。

高橋さんは、どうすればよいか迷うと思います。



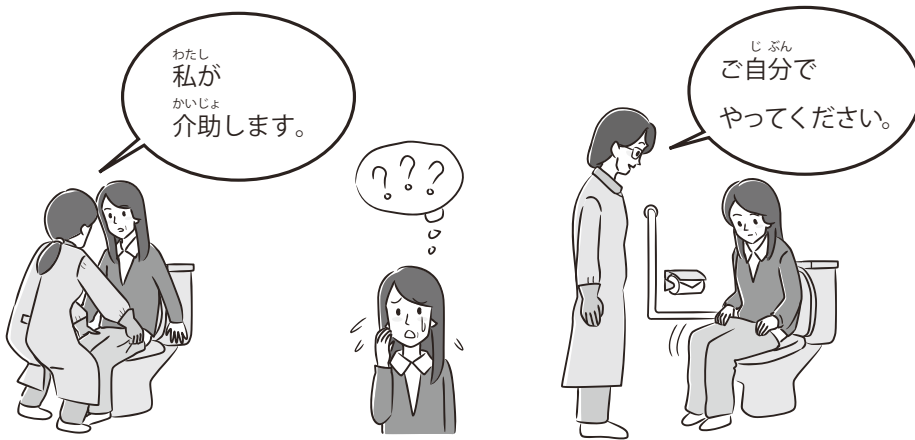


介護計画に書かれている介護の目標や支援内容、支援方法は、利用者さんと介護職が話し合っ  
て決めたことです。介護職みんなが介護計画の内容を共有して、同じ支援をしないと、利用者さんは不安になります。事故が起こることも考えられます。



## まとめ

- ① 介護計画に書かれている介護の目標や支援内容、支援方法は、利用者さんと介護職が話し合っ  
て決めたことです。
- ② 介護職みんなが介護計画の内容を共有して、同じ支援をすることが大事です。



## 考えてみよう

介護計画を共有しないで支援したとき、あなたが担当する利用者さんはどう思いますか。

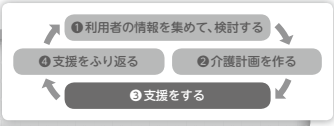
---



---

# 6

## 支援をしながら、利用者を観察しよう



かんさつ  
▶ 観察…よく見  
ること

たかはし はいせつ し えん はじ げつ たかはし  
高橋さんの排泄の支援が始まって、1か月になりました。高橋さんの  
さいきん ようす かんさつ たなか ほうこく  
最近の様子について観察したことを、ホンさんは田中さんに報告します。

しどうしゃ  
指導者



たなか  
田中さん

し えん り ようしゃ ようす かんさつ  
支援をするときは、利用者さんの様子を観察します。  
い たかはし ようす  
トイレに行くとき、高橋さんはどんな様子ですか。

じっしゅうせい  
実習生



ホンさん

かいごしょく ゆうどう  
はじめは、介護職からトイレに誘導していました。  
いま たかはし い い  
今は、高橋さんから「トイレに行きたい」と言って  
くれます。



し えん たかはし  
トイレで支援をしているとき、高橋さんはどんな  
ひょうじょう  
表情をしていますか。



ころ  
はじめは「また転んだらどうしよう」と、こわがって  
いるようでした。でも、さいきん て  
一人で立ち上がれるようになりました。だんだん安心  
ひとり た あ あんしん  
した表情がふえてきました。



たかはし じしん  
高橋さんは、できることがふえて、自信がついてきた  
ようですね。ほかに何か気がついたことはありますか。

かいごしょく ふく したぎ あ お かいじょ たかはし  
介護職が服や下着の上げ下ろしを介助するとき、高橋  
さんもしようとします。

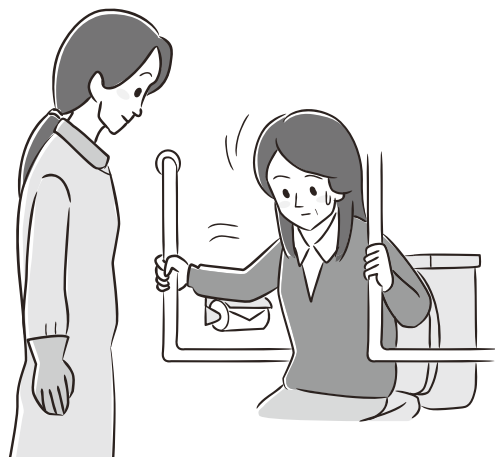


たいせつ き かんさつ じょうほう  
とても大切な気づきですね。観察してわかった情報は、  
かいご もくひょう たっせい かくにん  
介護の目標がどのくらい達成できたか確認するときの  
たいせつ じょうほう  
大切な情報になります。



## まとめ

- ① 支援をするときは、介助するだけでなく、利用者の様子を観察します。  
し えん かいじょ りようしゃ ようす かんさつ
- ② 利用者の様子を観察してわかった情報は、介護の目標がどのくらい達成  
りようしゃ ようす かんさつ じょうほう かいご もくひょう たっせい  
できたか確認するとき大切な情報になります。  
かくにん たいせつ じょうほう



## かんが 考えてみよう

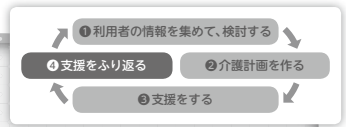
あなたが担当している利用者さんを支援しているとき、観察して  
わかったことはありますか。

---

---

# 7

## 支援をして気づいた情報を、 みんなで共有しよう



支援をして気づいた情報を、介護職みんなで共有します。田中さんは  
ホンさんに理由を説明しています。

指導者  
田中さん

支援をして気づいた情報は、高橋さんにかかわる介護  
職みんなで共有します。

実習生  
ホンさん

どうして、支援をして気づいた情報を共有しなければ  
ならないんですか。

指導者

高橋さんは自分でやろうという気持ちが強くなって、  
自分で服や下着の上げ下ろしをしようとしています。  
高橋さんの気持ちに気がつかないと、介護職はどんな  
支援をするのでしょうか。

実習生

服や下着の上げ下ろしを全部やってしまいます。

指導者

そうですね。高橋さんの状況を共有しないと、介助  
しすぎてしまいます。

実習生

やる気がでてきた高橋さんの希望に合わなくなり  
ますね。





高橋さんの目標は「前のように、トイレで自分で排泄する」です。介助が減ると目標に近づきます。目標を達成するために、支援をして気づいた情報はみんなで共有しましょう。



## まとめ

- ① 目標を達成するために、支援をして気づいた情報は、利用者にかかわる介護職みんなで共有します。

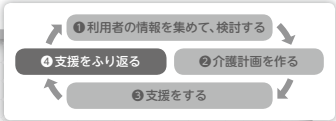


## 考えてみよう

支援をして気づいた情報を介護職みんなで共有しなかったとき、あなたが担当する利用者さんはどうなりますか。

# 8

## 介護の目標がどのくらい達成できたか 確認して、介護計画を見直そう



▶ **自信**がつく…  
自信があるよう  
になる

▶ **修正**…直す

▶ **バランス**をく  
ずす…倒れそ  
うになる

高橋さんはトイレで排泄する**自信**がついてきました。自分でやろうと  
いう気持ちが強くなってきたので、支援内容を**修正**しました。立ち  
上がりの一部介助はやめて、服と下着の上げ下ろしは全介助から一部  
介助にしました。支援内容は高橋さんに確認しました。

指導者



田中さん

便座から立ち上がる時、高橋さんは手すりにつか  
まってしっかり立てるようになりました。

実習生



ホンさん

高橋さんも、立ち上がりの動作は自分一人で大丈夫  
だとおっしゃいます。



服や下着の上げ下ろしは、一人でやると**バランス**をく  
ずしそうで、高橋さんはまだ不安に思っています。  
でも、「自分のことは、自分でしたい」と言っています。

そうですね。高橋さんも服や下着の上げ下ろしをしよう  
としています。



それで、全介助から一部介助にしました。

できることがふえたときは、どこまで支援が必要か、  
高橋さんに確認することが大切ですね。





かいご もくひょう たっせい ていきてき かくにん  
 介護の目標がどのくらい達成できたか、**定期的**に確認  
 します。確認するときは、毎日の支援で気づいたこと  
 を**活か**します。支援内容や支援方法を見直すときには、  
 利用者さんの希望や気持ちを**確認**します。



## まとめ

- ① 介護の目標が、どのくらい達成できたか、**定期的**に確認します。
- ② 支援内容や支援方法を見直すときは、利用者の希望や気持ちを**確認**します。



## 考えてみよう

あなたが担当する利用者さんの介護の目標がどのくらい達成できたか、**どうやって確認**しますか。

---



---

▶ **定期的**…3か月に1回、半年に1回など、同じ期間をあけてすること

▶ **活かす**…じょうずに使うこと

▶ **見直す**…もう一度最初から見ること

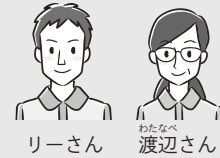


# 4

## このテキストで学んだことを ふり返ろう



このテキストをよんで、よ 実習生じっしゅうせいのリーさんは指導者しどうしゃの  
わたなべ 渡辺さんとじりつ しえん 一緒に、自立を支援する介護かいごについて確認かくにんしています。



はい。  
じりつ しえん  
自立を支援する  
かいご  
介護ですね。



じりつ しえん かいご  
**自立を支援する介護って、なんだろう**



ね  
**▶寝たきり…**  
 びょうき  
 病気やけがで、  
 ずっと起きられ  
 ないで介護が必  
 要な状態

しどうしゃ  
 指導者



わたなべ  
 渡辺さん

わたし くに  
 私の国では、おとしよりの生活はなんでも手伝います。  
 にもん りようしゃ  
 でも、日本では利用者さんができることは自分でやっ  
 ていただきます。

じっしゅうせい  
 実習生



リーさん

ね にんちしよう  
**寝たきり**や認知症になっても、できることはあります。  
 ちから き ぜんぶ しえん  
 できる力があって、やる気もあるのに、全部支援する  
 と、利用者さんの力は弱くなって、やる気もなくなっ  
 てしまいます。

ほ こうれんしゅう ある  
 そうですか。歩行練習をして歩けるようになったり、  
 くるま いどう りようしゃ  
 車いすで移動できるようになったら、利用者  
 さんはうれしそうです。



ちから つか しえん わたし  
 できる力が使えるように支援することも、私たちの  
 しごと  
 仕事ですよ。



わたし たんとう りようしゃ えんげい しゅみ はな そだ  
私が担当する利用者さんは、「園芸が趣味で、花を育  
てたい」と希望しています。

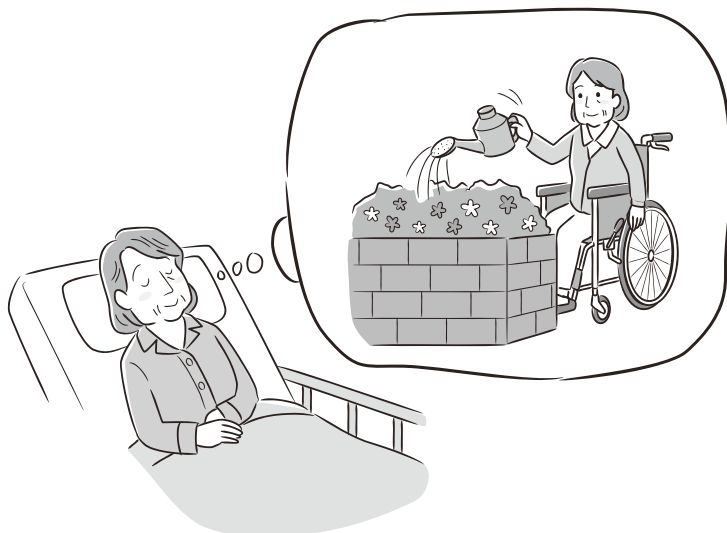


かいごしょく りようしゃ きぼう せいかつ  
介護職は、利用者さんが希望している生活ができるよ  
うに支援します。



かいご う じぶん じぶん き  
介護を受けていても、自分のことは自分で決めること  
も自立です。

じりつ しえん かいごしょく しごと  
自立を支援するのが、介護職の仕事ですね。



たんとう  
▶担当…ある  
しごと せきにん  
仕事を責任を  
もっておこな  
うこと

えんげい しよくぶつ  
▶園芸…植物を  
そだ  
育てること

しゅみ たの  
▶趣味…楽しみ  
としてくり返し  
かえ  
おこなうこと

# 2

## 自立を支援する介護の流れ

しどうしゃ  
指導者



わたなべ  
渡辺さん

りようしゃ しえん  
利用者さんにはどんな支援をしていますか。

くるま いじょう くるま お いどう  
ベッドから車いすへの移乗や、車いすを押して移動  
しえん  
する支援をしています。

じっしゅうせい  
実習生



リーさん

けいかく まえ  
▶計画…する前  
かんが ほうほう  
に、考えた方法  
じゆんばん  
や順番など



いじょう いどう しえん りゆう かいごけいかく  
移乗や移動の支援には理由があります。介護計画には、  
りゆう か み  
理由が書いてあります。見たことがありますか。

み  
はい、見せていただきました。



かた ひと  
▶～方…「人」  
のていねいな言  
かた  
い方



かいごけいかく つく りようしゃ し  
介護計画を作るには、利用者さんをよく知ることが  
たいせつ りようしゃ かた し  
大切です。利用者さんがどんな方かを知るためには、  
しんたい じょうほう せいかつ じょうきょう  
身体やADLの情報、生活の状況など、いろいろな  
じょうほう あつ  
情報を集めます。  
あつ じょうほう けんどう りようしゃ  
集めた情報を検討して、利用者さんといっしょに、  
かいご もくひょう せってい  
介護の目標を設定します。

けんとう しら  
▶検討…よく調  
かんが  
べて考えること

せってい き  
▶設定…決め  
つく  
て、作ること

かいご もくひょう  
介護の目標は、なんですか。







利用者さんが希望していることを基にして作ったもの  
 です。介護計画には、介護の目標や支援内容、支援方  
 法が書かれています。介護計画は、利用者さん一人  
 ひとりに作ります。

私たちは、介護計画の内容を介護職みんなで共有して、  
 同じ支援をしているんですね。



介護職は支援をしながら利用者さんの様子を観察  
 して、気づいたことはみんなで共有します。そして、  
 介護の目標がどのくらい達成できたか確認し、必要な  
 ら、介護計画をもう一度作ります。



技能実習生のみなさんが日本の介護を身につけるためには、自立を支  
 援する介護の流れと、一つひとつの業務をおこなう理由を理解するこ  
 とが必要です。このテキストを活用して、ぜひ、3年目の試験の合格  
 をめざしてください。

▶身につける…  
 自分のものにな  
 なる

▶業務…仕事

① 利用者の情報を集めて、検討する

2 3 ▶ 4～7 ページ

2 3 ▶ 20～23 ページ

② 介護計画を作る

4 ▶ 8～9 ページ

4 ▶ 24～25 ページ

③ 計画のとおり介護をおこなう

5 6 ▶ 10～13 ページ

5 6 ▶ 26～29 ページ

④ おこなった介護を振り返る

7 8 ▶ 14～17 ページ

7 8 ▶ 30～33 ページ

利用者が希望する生活や実現したいこと、実現できることを整理するため、利用者の心身の状況や生活の状況など、いろいろな情報を集めて、まとめます。

※ 実習生は、介護職チームのメンバーの一人として、利用者の情報を集めます。

利用者がいつもしている活動、できるのにしていない活動、心の状況や生活の状況などのいろいろな情報をもとに、「目標」を設定して、目標を達成するために解決しなければならない「課題」を基に、介護計画を作ります。

※ 実習生が集めた情報は、計画を作るときに活用されます。

介護計画を、介護職チームで共有して、目標を達成するために支援をおこないます。支援をしていて気づいたことや新しい課題を集めます。

※ 実習生は、支援をおこないながら利用者の状況を理解して、介護職チームのメンバーと共有します。

介護計画とおりに支援をしたことで、介護の目標がどのくらい達成できたか、ふり返ります。介護をして集めた気づきや課題から、必要に合わせて、目標を設定するなど、介護計画を見直します。

※ 介護をして実習生が把握した利用者の状況は、計画を見直すときに活かされます。

- ▶ 実現…計画や期待のとおりになること
- ▶ 解決…問題になっていることが、うまくいって、問題がなくなること
- ▶ 課題…解決しなければならない問題、しなければならない仕事
- ▶ 気づき…気がついたこと
- ▶ 把握…しっかり理解すること
- ▶ 活かす…しょうずに使うこと

## かんが 考えてみよう

## こた の答えについて

- 「かんが」の答えは、**こた たんとう りようしゃ** 担当する利用者さんによっていろいろです。



- まずは**こた** 答えを、**じぶん** 自分で**かんが** 考えてから、**しどうしゃ** 指導者に**はなし** 話を聞いてください。



- **しどうしゃ** 指導者に話を聞くと**きは** ときは、このテキストも**しどう** 一緒に**指導** 者に見せてください。



- **しどうしゃ** 指導者と**はな** 話し**あ** 合いながら**こた** 答えを**かんが** 考えると、このテキストに**か** 書かれている**ないよう** 内容も、よく**り** 理解**かい** できます。

平成 28 年度社会福祉推進事業

## 「技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた 学習支援ツールの開発に関する調査研究事業」

### ■ 検討会 以下、五十音順（○印は委員長）

〈委員〉

- 石本 淳也 公益社団法人日本介護福祉士会 会長
- 内田 千恵子 公益社団法人日本介護福祉士会 理事
- 北浦 正行 公益財団法人日本生産性本部 参与
- 平川 博之 公益社団法人全国老人保健施設協会 副会長
- 久留 善武 一般社団法人シルバーサービス振興会 事務局長
- 角田 隆 公益社団法人国際厚生事業団 専務理事
- 橋本 由紀江 一般社団法人国際交流 & 日本語支援 Y 代表理事

### ■ 調査部会 以下、五十音順（○印は部会長）

〈委員〉

- 稲垣 喜一 公益社団法人国際厚生事業団 受入支援部長
- 内田 千恵子 公益社団法人日本介護福祉士会 理事
- 蔵本 孝治 公益社団法人東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長
- 橋本 由紀江 一般社団法人国際交流 & 日本語支援 Y 代表理事

### ■ 教材開発部会 以下、五十音順（○印は部会長）

〈委員〉

- 岩崎 京子 社会福祉法人足立邦栄会 相談員
- 内田 千恵子 公益社団法人日本介護福祉士会 理事
- 白井 孝子 東京福祉専門学校 副学校長
- 竹田 幸司 田園調布学園大学 講師
- 橋本 由紀江 一般社団法人国際交流 & 日本語支援 Y 代表理事

### ■ オブザーバー

- 伊藤 優子 厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官

### ■ 事務局

- 松下 能万 公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長

■テキスト作成協力者 以下、順不同

社会福祉法人足立邦栄会 相談員 岩崎 京子

社会福祉法人足立邦栄会 障害者支援施設 みずき 及川 ネミアサリナス

社会福祉法人あぐりす実の会 高齢者福祉施設 大地の丘

社会福祉法人伸こう福祉会 小野 美代子

社会福祉法人伸こう福祉会 金 宇琦

社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢 施設長 上野 由香子

社会福祉法人成光苑 グループ・ホーム舞夢 原田 麻里

社会福祉法人成光苑 グループ・ホーム舞夢 坂根 アメリータ

社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム 浅草ほうらい  
介護係長 草薙 嘉臣

社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム 浅草ほうらい  
スパーディアガ メリー グレース ガルシア

ピーエムシー株式会社 代表取締役 谷 晴夫

ピーエムシー株式会社 小黒 真理亜

ピーエムシー株式会社 稲村 マリア

ピーエムシー株式会社 小柳 リゼル

ピーエムシー株式会社 木津 ジジ

社会福祉法人福祉楽団 サポートセンター コーチ 上野 興治

社会福祉法人福祉楽団 特別養護老人ホーム  
杜の家くりもと ケアサービスワーカー Evi nopiyanti

社会福祉法人福祉楽団 特別養護老人ホーム  
杜の家くりもと ケアサービスワーカー Ria prestia anggraini

特別養護老人ホーム あそか苑 苑長 河原 綾

K & Y コンサルタンツ 日本語講師 ダン 理恵

## 学んでみよう 日本の介護

平成 28 年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業

「技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた  
学習支援ツールの開発に関する調査研究事業」

公益社団法人 日本介護福祉士会

平成 29 年（2017）3 月

## 2. 今後の課題

### (1) 本調査研究事業の成果物の共有

本調査研究事業の成果物については、介護分野の技能実習制度構築に関係されている、厚生労働省関係課室のほか、介護分野の技能実習生を受け入れることが想定される施設や事業所、医療機関等に配付するとともに、一般の方からの求めがある場合にあっては、一定部数までは、無償で成果物を配布させていただくこととします。

また、特に、学習テキストについては、より活用いただくため、誰もが容易に入手できるよう、日本介護福祉士会のホームページからダウンロードできる仕組みを取り入れることとします。

### (2) 技能実習生が本調査研究事業の成果物を活用いただくまでの展開

学習支援ツールは、入国後2年目・3年目の介護分野の技能実習生を対象として製作したため、実際に技能実習生が活用するのは、少し将来のこととなります。

そこで、それまでの間は、日本人や永住者の配偶者等で在留する外国籍の方のほか、いわゆるEPA介護福祉士・候補者等を対象とした学習テキストとして活用いただくことを推進することとします。

その際、学習支援ツールの活用方法や評価等について情報を収集させていただくとともに、内容等にかかる問い合わせにも丁寧に対応させていただくことで、実際に技能実習生に活用いただく段階で、より効果的な活用方法等についてご案内ができるようになることを目指します。

### (3) 本調査研究事業の成果物の更なる活用

学習支援ツールでは、介護現場で行われている介護が、どのような理由で実施されているか（介護過程の考え方）について、極めて分かりやすく解説しています。

そのため、国籍に依らず、例えば、はじめて介護職員として就労する方や、介護過程をはじめて学ぶ方を対象とした学習テキストとして活用することも考えられます。





# III

## 調査研究の経過



## 1. 検討会

### (1) 第1回検討会の議事内容

#### ●開催日時・場所

平成28年11月4日(金) 13:30~15:00  
日本介護福祉士会 会議室

#### ●議 題

- 1 委員長の選出
- 2 事業の進め方について
- 3 学習支援ツールについて
- 4 ヒアリング調査について

#### ●出席者

<委 員> (以下、五十音順)

- ・石本淳也 (日本介護福祉士会 会長/検討会 委員長)
- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事)
- ・北浦正行 (日本生産性本部 参与)
- ・久留善武 (シルバーサービス振興会 事務局長)
- ・角田 隆 (国際厚生事業団 専務理事)
- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)
- ・平川博之 (全国老人保健施設協会 副会長)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

#### ●主な議事内容

<技能実習の意義と学習支援ツールの位置づけ>

- 介護の技能実習を通じて移転すべき中身は何なのかというところが、まさに大事な点となる。
- 移転すべきなのは「介護の技術」ではなく、「介護の技能」であると考えている。つまり、物理的な技術そのものではなく、根拠に基づく介護過程の展開の考え方である。

- 技能実習生に対する適切な業務内容や範囲などについては、その大枠が昨年度示されている。
- 製造や建設などの業種においても、技能実習生側は日本のことを学びたい、教える側も日本のことを教えたいと思っている。そのうえで、習得した技能を実施するかしないかは、母国に帰ったあとに実習生が判断すればよいのではないか。
- ただし、具体的にわが国の技能を教える際に日本の特性（＝文化的・制度的背景）というものがあれば、そこはきちんと教えなければならない。「日本だからこうなのですよ」ということを教えずに、勘違いされたまま技能を習得されることのないように配慮する必要がある。
  - ・例1）技能実習生のなかには、「特養などの施設に入る人は可哀想だ」と考えてしまう人がいる。しかし、わが国では、介護サービスというものが公的なものとして存在しており、社会的に支えているということを教える必要がある。
  - ・例2）医師・看護師は業務独占の資格であり、無資格の職種の人が行ってはならない行為がわが国にはある。母国では行っていることでも、日本では行えないことがあることを教える必要がある。
- 学習支援ツールを用いることによって、どのように課題分析を行い、どのように支援していくかについて学ぶことができ、それを母国に持ち帰ったときに活用できる状況になっていけばよいのと考えている。そのため、一つひとつの介護技術そのものに言及することは想定していない。
- 具体的な介護の技術については、技能実習がスタートして以降、それぞれの受け入れ施設において、OJTを通じて習得していくことになる。

#### <EPAにおける学習の展開>

- EPA の場合、12 か月の日本語研修が終了する直前に 42 時間の導入研修を行っている。これは半分が講義、半分が実習であり、初任者研修と同等レベルの研修内容となっている。また、EPA の受け入れ機関においては独自に学習計画を作成し、その計画を国際厚生事業団に提出することになっている。
- EPA の場合、日本の介護福祉士の資格を取得するための学習が中心となる。つまり、試験に合格するための学習である。試験に合格するための知識として、「自立支援の意義」や「介護過程の展開方法」などを学ぶことになる。

#### <学習支援ツールの編集方針>

- 技能実習生自身が自分の力で学ぼうとするときに活用していただけるテキスト。例えば、自分の時間を使って、自宅などでテキストを開きながら学んでいく。
- 主な対象は入国 2～3 年目の技能実習生とし、設定レベルは初任者研修程度とする。ただし、2 年目に達していない実習生が活用しても、なんら差し支えはないものとする。

- 介護の専門性（例えば「介護過程の展開」や「自立支援を目指した介護」など）について学べる内容とする。
- 日々の業務を淡々と紹介するのではなく、そこにどういう意味合いがあるのかについて解説する。
- 展開方法としては、介護の現場のなかで行われている事象を切り取り、「どうしてこういうことをしているのか？」について、技能実習生と職場の先輩の会話のなかから紐解いていく。
- 【考えてみよう】の欄は、自ら考えることを促すための問い掛けにとどめずに、解答例を示すべきではないかとの意見もあった。

#### <学習支援ツールの編集上の留意事項>

- 入国前後の講習やOJTのなかで教えるべきことと、学習支援ツールを通じて自ら学ぶべきこと、これらの一定の切り分けが必要になる。
  - ・例1) 介護全体がもつ倫理や、わが国の介護システムというものがどうなっているのか。そうした知識はすでに導入研修で教えられているという前提に立つ。
  - ・例2) 専門的用語や医学的用語などについても、導入研修で教えられているという前提に立つ。
- 介護の基本的な知識や技術は基本的には学習し終えているという前提に立ち、そうした技能実習生が、「自分たちが行う介護とは、いったい何なんだろう」ということをより深めるためにテキストとしたい。
- ただし、介護保険制度上、概念として明確に確立されていないと考えられる「リハビリテーション」や「ターミナルケア」、また「福祉用具」などの用語については取り扱う際に注意が必要となる。

#### <ヒアリングの実施にあたって>

- EPAの受け入れ機関においては独自に学習計画を作成し、その計画を国際厚生事業団に提出することになっている。ついては、事前に当該計画をヒアリング先からご提供いただいたうえでヒアリングを実施することが効果的であるとする。

#### <事業の進め方について>

- 本事業においては、検討会のほかに「調査部会」と「教材開発部会」という二つの部会を設定する。なお、両部会は有機的に連携・連動して作業が進められるように配慮することとする。

以上

## (2) 第2回検討会の議事内容

### ●開催日時・場所

平成29年2月1日(水) 16:00~17:30

日本介護福祉士会 会議室

### ●議 題

- 1 学習支援ツール開発の経過報告
- 2 学習支援ツールの開発に係る意見交換
- 3 今後の流れ

### ●出席者

<委 員> (以下、五十音順)

- ・石本淳也 (日本介護福祉士会 会長/検討会 委員長)
- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事)
- ・北浦正行 (日本生産性本部 参与)
- ・久留善武 (シルバーサービス振興会 事務局長)
- ・角田 隆 (国際厚生事業団 専務理事)
- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●主な議事内容

<学習支援ツール開発の経過報告>

○事務局より、第1回検討会開催(平成28年11月4日)から第2回検討会を迎えるまでの経過説明がなされた。主なポイントは次の通り。

- ・検討会および二つの部会を開催後、学習支援ツールの【SAMPLE】をもとに6か所で訪問ヒアリングを実施。そこで、①活用しやすい教材内容とは何か、②活用しやすくするための工夫はあるか、などの意見を聴取。
- ・訪問ヒアリングの意見を踏まえて、学習支援ツールの編集方針等をあらためて整理。
- ・新たな編集方針に則った形で【SAMPLE】を修正し、集合ヒアリングを実施。
- ・集合ヒアリングでの意見をもとに、第2回調査部会、部会長との打合せ、担当者打合せ等を重ね、原稿内容をブラッシュアップ。

## <学習支援ツールの開発に係る意見交換>

### ① 登場人物の名前の明示について

- 学習支援ツールの現行案では、第1章は2名（実習生＋指導者）、第2章は3名（実習生＋指導者＋利用者）、第3章は3名（実習生＋指導者＋利用者）、計8名の人物が登場する。
- 各章の人物は別設定にする必要があることから、名前をつけて、違う人物であることを明確にはどうかとの案が出てきた。
- 読者（特に技能実習生）にとっての負担感も考慮したうえで、①利用者および指導者については、一般的な日本名をつける、②実習生（外国人）については、違う人であることがわかるような形で工夫を試みることにする。
- 作業工程としては、最終回の検討会および各部会で確認できるような状況にしておく。

### ② 学習支援ツールの活用方法の明示について

- 巻末に加えることとしている、実習生の受け入れ施設へのメッセージ（学習支援ツールの活用方法）について、どの程度具体的なものにするか。例えば、①指導者が、実習生と振り返りを行う際に活用する、②施設職員間で、実習生がこの学習支援ツールを使用することを前提とした実習指導を行う、など。
- 今回の学習支援ツールは、介護技術やコミュニケーションスキルを習得するためのテキストではない。自立支援や介護過程の展開のベースとなる、「介護の考え方」を理解してもらうことを目的としている。『中間まとめ』でも、思考過程に基づいた介護を移転することになっている。その意味では、受け入れ施設の「指導者」がいないと完成しない学習形態になるのではないか。
- 介護の考え方をどう伝え、考え方を知ったら現場でどう活かすのか、現場のなかでどう展開させるのかなどを確実に指導者に認識してもらうためには、巻末ではなく、別冊の形でまとめるのも一つの方法ではないか。

### ③ 第1章の内容について

- 現行案①の内容は、論理的にはうまくできているが、相当高度な内容であり、実習生に難しい印象を与えてしまい、テキストに入りにくくなるのではないかと懸念がある。
- 現行案②を先に持ってきて、「自立支援という考え方があるんだ」という簡単なイメージをもってもらい、その後、高齢者と障害者の事例を通じて「介護の理由と流れ」を学んでもらい、最後に原稿案①を置き、全体をふり返る形で、自立支援をはじめとする日本の介護の特徴を理解してもらおう。そういう組み立てにすれば、理解が促進できるのではないか。

<今後の流れ>

○事務局より、今後の流れについて説明がなされた。主なポイントは次の通り。

- ・実習生の理解を高めるという視点から、現行案の第1章～第3章を確定させ、第4章の必要性を検討のうえ、学習支援ツールの全ページの校正刷りを作成。
- ・校正刷りをもとに、7か所で訪問ヒアリングを実施予定。学習支援ツールの使い勝手に関する意見を聴取。
- ・最終の二つの部会で「学習支援ツール案」および「報告書案」を整理したあと、検討会で検討・確認を実施。
- ・成果物について、今年度中に印刷・報告を終える。
- ・報告書については、「調査研究事業の概要」「調査研究の経過」「調査研究の成果と今後の課題」等で構成。

以 上



### (3) 第3回検討会の議事内容

#### ●開催日時・場所

平成29年3月15日(水) 16:00~17:30

日本介護福祉士会 会議室

#### ●議 題

- 1 学習支援ツールについて
  - ・今後の課題
  - ・表紙
  - ・タイトル
- 2 調査研究事業の報告書について
- 3 今後の流れ

#### ●出席者

<委 員> (以下、五十音順)

- ・石本淳也 (日本介護福祉士会 会長/検討会 委員長)
- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事)
- ・北浦正行 (日本生産性本部 参与)
- ・久留善武 (シルバーサービス振興会 事務局長)
- ・角田 隆 (国際厚生事業団 専務理事)
- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

#### ●主な議事内容

<学習支援ツールについて>

##### ① 学習支援ツール案について

○内田部会長より、これまで一定の整理を行ってきた学習支援ツール案に関する説明がなされた。主なポイントは次の通り。

- ・巻頭に、実習指導者のみなさまへのメッセージ(=本学習支援ツールの対象者、目的、活用方法等)を盛り込んだこと
- ・指導者へのメッセージは、本学習支援ツールがもともと技能実習生が自律的に活用す

るものとして製作してきたため、あくまでもお願いベースにならざるを得ないこと

- ・2章と3章は、イラストや表現等について工夫を重ね、外国人技能実習のみなさんに、自立を支援する介護の考え方をよりわかりやすく整理したこと
- ・導入となる1章では、簡潔に介護の考え方を示し、この考え方を少し詳しく解説したものを4章で整理したこと
- ・「考えてみよう」の答えは、一つひとつの答えを設けようと試みたが、部会で意見交換をした結果、自分で考えて、実習指導者に話を聞いてみようというトーンで整理することとしたこと

○各委員からは、次のような意見が出された。

- ・「考えてみよう」は答えを求められると思うが、書き出すと際限がなくなるということも理解できる。
- ・外国人がわかる日本語と日本人が使う日本語は確かに違うと思うが、日本語の表現に関する留意事項はもっと簡潔に記載してもよいと思う。
- ・ADLやOJTなど、略語表記の法則性を統一したほうがよいのではないかと。
- ・「EPA 介護福祉士」という言葉は、書籍や報告書等に用いてよい正式な単語なのかどうか。
- ・技能実習制度は、技能実習生がわが国で習得いただいた技能を「母国で発揮いただく」ことまでが枠組みになるのか。制度の枠組みとしては、技能の移転までではないのか。
- ・テキストを活用した学習方法として考えられることのうち、「その他」の項目は、もう少し具体的に書き記してもよいのではないかと。
- ・p.12の場面設定では、単に報告をしているというだけではなく、観察した内容を報告するという設定にしたほうが、テーマと場面設定が符合すると思う。
- ・製造系や建設系の技能実習においては一般に難しいといわれる言葉がある。それは「計画」「目標」「共有」である。本文中で「共有」は丁寧に解説してあるので、同様に、「計画」や「目標」についても、その意義について何らかの形で解説してもらえればと思う。
- ・日本語が堪能でない人たちが読むことになるので、文節の途中や単語が割れる形で行が変わると読みにくく感じるのではないかと。また、側注の用語解説は、見出し語と解説文を改行して表示したほうが見やすいと思う。
- ・p.9で側注の扱いとして「山田さん」を紹介している。山田さんがどんな人なのかを説明することは必要だが、用語解説と同じ見せ方が適切かどうか。

②表紙とタイトルについて

- タイトルについては、「日本の介護の考え方」「日本の介護の考え方とその進め方」「自立を支援する介護の考え方」「自立を支援する介護の考え方」「自立を支援する介護の考え方とその進め方」など、いくつかの案が事務局から示された。

- 本文内容や表記、デザインなどを見やすく、柔らかくしようという努力がなされている割には、タイトルが固いイメージにとられる。
- 結論として、『学んでみよう 日本の介護』というタイトルで合意に至った。

#### <調査研究事業の報告書について>

- 報告書のなかでも「今後の課題」として、①本調査研究事業の成果物の共有、②技能実習生が本調査研究事業の成果物を活用いただくまでの展開、③本調査研究事業の成果物のさらなる活用、という3点を挙げている。
- 学習支援ツールについては、誰もが容易に入手できるように、日本介護福祉士会のホームページからダウンロードできる仕組みを取り入れることにする。
- 学習支援ツールに値段を付けて販売することは、現段階では考えていない。
- 一定の経過年数の後であれば、作り替えた形で販売も可能になる。
- 将来的には、著作権は日本介護福祉士会が所有するものとする。
- ホームページ上でダウンロードできるのと同時に、テキストの内容に限定した形で質問を受け付ける体制も整備したいと考える。
- 学習支援ツールは成果物として広く普及に努める必要があるが、補助金でつくられるものは部数が限られているので、一つはダウンロードできるという話と、もう一つは実費弁償という考え方がある。利益を目的に売るとは違うが、かかった経費を実費弁償することはできる。

#### <今後の流れ>

- 本日いただいたご意見はできる限り反映させていただく。とは言いつつ、日程の関係もあるため、部会長と委員長ところで整理をさせていただくので、ご理解をいただきたい。
- 成果物としての報告書とテキストは構成委員のみなさまには送らせていただく。また、関係団体には幅広く配布させていただく予定である。

以 上

## 2. 調査部会

### (1) 第1回調査部会の議事内容

#### ●開催日時・場所

平成28年11月8日(火) 09:30～11:00  
日本介護福祉士会 会議室

#### ●議 題

- 1 第1回検討会の概要報告
- 2 ヒアリングについて
- 3 その他
  - ・テキスト開発に向けた留意事項等について
  - ・その他

#### ●出席者

- <委員> (以下、五十音順)
- ・稲垣喜一(国際厚生事業団 受入支援部長)
  - ・内田千恵子(日本介護福祉士会 理事/調査部会 部会長)
  - ・橋本由紀江(国際交流&日本語支援 Y 代表理事)
- <事務局>
- ・松下能万(日本介護福祉士会 事務局次長)
  - ・中央法規出版

#### ●主な議事内容

<第1回検討会の概要報告>

○事務局より、11月4日に開催された「検討会」の議事内容について説明がなされた。主なポイントは次の通り。

- ・技能実習の意義と学習支援ツールの位置づけ
- ・EPAにおける学習の展開
- ・学習支援ツールの編集方針
- ・学習支援ツールの編集上の留意事項
- ・ヒアリングの実施にあたって
- ・事業の進め方について

## <ヒアリングについて>

### ①ヒアリング先について

- ヒアリング先としては、**①**「EPA の介護福祉士関係者」と**②**「身分に基づく在留資格をもつ関係者」の二つを考えている。
- ①**については、EPA 介護福祉士候補者およびその教育指導担当者がある（できれば、EPA 介護福祉士の有資格者もいる）施設・事業所で、ヒアリングに協力的なところを、大都市と地方のそれぞれから、国際厚生事業団から推薦をいただく形で選定していく。
- ②**については、上記と同等の条件をもつ施設・事業所を、厚生労働省とも相談しつつ選定していく。
- また、国際交流&日本語支援 Y が編集した日本語学習テキスト等は無償配布した施設・事業所で、今回のヒアリングに協力くださる可能性のあるところについて、橋本先生より紹介をいただく。
- 身分に基づく在留資格者を派遣する人材派遣会社については、さらに情報を収集したうえで候補先にするかどうか検討する。

### ②ヒアリングの項目立てについて

- 今回のヒアリングは、介護分野の技能実習生に向けた自己学習用のテキストを作成するにあたり、**①**活用しやすい内容のものであるか、**②**活用しやすくするためにはどんな工夫が必要か、という実際の意見を聴取し、知見を得ることを目的としている。
- 上記の目的を果たすためには、質問の仕方をかなり工夫しないと、何を問われているのか見当がつかない、わからない、ということが想定される。例えば、「日本の介護をどう思いますか？」と尋ねるのではなく、「あなたの国ではどんなやり方をしていますか？」「日本と比べると、どんなところが違いますか？」などのように、具体性をもって問わなければ知りたいことが得られない可能性がある。
- 必ずしも「YES/NO」で答えられる設問にする必要はないが、複雑だったり、抽象的だったりすると、相当な日本語能力が求められることになる。したがって、ヒアリング時間も限られていることから、具体的で、明快で、広範でない質問をしたほうがよい。
- 外国人のなかには、「自分は日本の最先端の介護を学ぶために来日したのに、なんだか毎日同じような作業をやらされている」と感じ、当初のイメージとのギャップを抱いている人もいようである。その意味では、「そもそも日本の介護に対してどんなイメージをもっていったか」「実際に日本に来て、どう感じたか」というところをヒアリングの導入にしてもよいかもしれない。

### ③ヒアリングの実施体制について

- 調査部会では、部会を3回、ヒアリングを3回、それぞれ開催・実施することになる。
- 本日の第1回部会をふまえ、まずは1回目のヒアリングを実施する。これは訪問型のヒ

アリングで、3~4 か所の施設・事業所からざっくばらんに意見を伺う。この内容を順次とりまとめて教材開発部会に情報を流していく。

- 1月上旬の2回目のヒアリングは集合形式で行い、教材開発部会で作成したテキストのたたき台に対して意見をもらい、その内容について第2回部会でとりまとめを行う。とりまとめた内容は教材開発部会に流され、再度テキストの修正が図られる。
- 修正されたテキストをもとに3回目のヒアリングが2月上旬に訪問型で実施され、同月中旬の第3回部会でとりまとめがなされて、そのとりまとめ内容をもとに教材開発部会がテキストの最終調整を行う。以上のような段取りを想定している。
- 1回目・3回目のヒアリングの実施者については、日本介護福祉士関係者および中央法規職員を必須メンバーとするほか、都合が合えば厚生労働省専門官や調査部会構成員にも参加いただく。
- 2回目のヒアリングは集合形式であることから、複数のグループをつくってのヒアリングになることが想定されるため、上記必須メンバーのほか、可能な限り厚生労働省専門官や調査部会構成員に参加いただいて実施する。
- 2回目の集合型ヒアリングが実施される1月上旬は介護福祉士国家試験の直前という時期であること、また、実施場所が東京になるということもあるため、あくまで2回目のヒアリングについては可能な範囲で集まっていただくことを前提とする。
- なお、国家試験受験との兼ね合いから、平成25年入国のEPA候補者はヒアリングの対象としないほうがよい。
- 経験の浅い外国人介護人材と指導者へのヒアリング(1時間程度)にあたっては、最初に指導者と20分程度の話をしたあと、EPA候補者に加わってもらい、両者が揃った形で当事者からのヒアリングを行うというスタイルを想定している。ただし、必ずしもこのスタイルにこだわるものではない。
- 同一施設・事業所に複数のEPA候補者がいる場合、施設等によってはそれらの人たちが平等に処遇したいという意向をもっているところもある。その場合には、あらかじめ趣旨をきちんと説明し、人選をお願いする。
- 規定に基づいて謝金の支払うにあたっては、EPA候補者個人に支払われると資格外活動になってしまうため、施設・事業所に対して支払うこととするように先方も確認する。なお、交通費の支払いはこの限りではない。

#### <テキスト開発に向けた留意事項>

- 今回のテキストは介護過程の理解ということを中心に置いているが、外国人にとっては、そもそも介護過程の展開という考え方そのものをもっていない。介護過程はEPA候補者の国家試験対策でも非常に苦勞する科目であり、あまり得点も高くない。
- 外国人の多くは、「次はこれ、次はこれ」というような業務(作業)の流れはわかっている。しかし、その業務をどうして介護の現場で行うのかという点は理解できていない。

- 実際に、なぜ自分たちが「食器を洗わなければならないのか」「ゴミの片づけをしなければいけないのか」「ベッドメイキングをする必要があるのか」と感じている外国人もいる。
- 食器洗いやゴミ捨て、ベッドメイキングなどの業務は、一見すると誰にでもできる作業で、専門性のないものと思うかもしれない。しかし、日本の介護においては、その業務を行うのにはきちんとした意味があるということ（＝一つひとつの業務の意味づけ）を、テキストのなかで説明する必要があるのではないか。

以 上

## (2) 第2回調査部会の議事内容

### ●開催日時・場所

平成29年1月17日(火) 16:30~17:30

日本介護福祉士会 会議室

### ●議 題

- 1 集合ヒアリングの実施結果
- 2 編集方針の再整理
- 3 今後の進め方

### ●出席者

<委 員> (以下、五十音順)

- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事/調査部会 部会長)
- ・蔵本孝治 (東京都介護福祉士会 国際協力委員会)
- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●主な議事内容

<集合ヒアリングの実施結果>

○事務局より、同日の14時から開催された「集合ヒアリング」の実施結果について説明がなされた。主な内容は次の通り。

#### ①指導者グループで出された主な意見

- ・テキストの内容を指導者にきちんと理解していただくことが何より重要。そのためには指導者用マニュアルも作成してほしい。
- ・見開きで解説する本文は、現場で実践している介護業務から説明をしたほうがよい。
- ・利用者のほかに、指導者と実習生の姿もイラストで入れるべき。
- ・1章3節『自立支援をめざす具体的な介護の流れ』のイメージはわかりづらい(文字が多すぎるのに加え、内容も難しい。文字を削除して、図だけにしてもよいのではないか)。
- ・高齢者と障害者の二つの事例で介護過程を解説した後に、介護過程や自立支援の考え方を説明してはどうか(実践を見せた後に理論を説明するほうが、わかりやすいのではな



いか)。

## ②外国人介護人材グループで出された主な意見

- ・ B5 判という大学ノートのサイズは持ち運びが便利でよい。
- ・ できるだけ頁数を厚くしないでほしい。
- ・ 漢字にすべてルビがついているので、とても読みやすい。
- ・ 登場人物（指導者と実習生）の紹介を冒頭に入れてほしい。
- ・ 自立支援の意味を説明すべき
- ・ 会話文のなかの太字（＝重要語句）は色つきにしたほうが、重要であることがよりわかりやすい。
- ・ もう少し、イラストをふやしてほしい。
- ・ 1 章 3 節『自立支援をめざす具体的な介護の流れ』のイメージは、字が多すぎる。
- ・ 「考えてみよう」の欄は、「あなたなら、どうする？」という問いかけにすれば答えやすい（例えば、「高齢者」のテーマ 1 ならば、「あなたなら、担当する利用者のどんな情報を集めますか？」と問いかけ、書き出してもらい、そのうえで、解答例や指導者からのアドバイスをふまえて、「こんな情報が足りなかった」と気づいてもらう）。

### <編集方針の再整理>

- 1 章をしっかりと建て付ける必要がある。具体的には、日本の介護にはどんな特徴があり、その特徴はどんな場面で浮かび上がってくるのかについてまとめる。また、実際の場面を通じて介護過程の流れ（プロセス）がとらえられるようにする。
- 2 章・3 章ともに、読者に伝えるべき内容は現行版から大きく見直す必要はないと考える。つまり、多面的な情報収集、利用者の希望を踏まえた目標の設定、目標達成を目指した計画の作成など、取り上げるべきテーマは変えなくてもよい。ただし、それぞれのテーマについて、日々行っている業務から紐解いていけるような流れにしてみる。
- 2 章と 3 章とで支援の視点に違いを出すために、次のような事例設定にしてみる。
  - ・ 高齢者事例……趣味や嗜好から自立を考える
  - ・ 障害者事例……心身の状況に応じた支援を考える

### <今後の進め方>

- 上記の編集方針に則り、編集委員レベルで再度、原稿内容を見直すこととする。その前段として、事務局にて未完成原稿を形づくる。この作業を 1 月 19 日（木）に実施。
- 1 月中にはすべての原稿を揃えて、校正刷りに仕上げる作業を進める。そのうえで、2 月中旬には 2 回目の訪問ヒアリングが始められるようにする。

以 上

### (3) 第3回調査部会の議事内容

#### ●開催日時・場所

平成29年3月8日(水) 16:00~17:30

日本介護福祉士会 会議室

#### ●議 題

- 1 第2回訪問ヒアリングの実施概要報告
- 2 第2回編集会議の実施概要報告・論点整理
- 3 実習指導者による活用方策の在り方
- 4 学習支援ツールの台割の在り方
- 5 その他
  - ・学習支援ツールの表紙の選定
  - ・今後の流れ

#### ●出席者

<委 員> (以下、五十音順)

- ・稲垣喜一(国際厚生事業団 受入支援部長)
- ・内田千恵子(日本介護福祉士会 理事/調査部会 部会長)
- ・橋本由紀江(国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子(厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万(日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

#### ●主な議事内容

<第2回訪問ヒアリング実施概要について>

- 集合ヒアリング以降、何回か修正を加えた学習支援ツールの校正刷りを持って、2月21日から3月7日にかけて、7か所のヒアリング先に伺った。
- おおむね好評を得ているものの、例えば、細かなところで意見が出された。傾向としては、これまで全体的な印象としての意見であったものが、細部に至る意見に変わってきた。

<編集会議で検討・確認すべき論点の整理について>

- 事務局より、先刻の編集会議で検討・確認がなされた論点について報告があった。なお、この論点は第2回訪問ヒアリングのなかで出てきた論点である。

- ・2章と3章の各節に配置されている「まとめ」の欄を、右頁のもう少し下方に置いてはどうかとの意見があったが、今後、原稿内容が確定したうえでバランスよくレイアウトすることを前提にした場合においては、「まとめ」の位置は大きく見直すことはしない。
- ・イラストの場面がすぐ理解できるように、イラストにキャプション(＝場面を説明する見出し)を入れてはどうかとの意見があったが、そもそもイラストは本文の補足説明でしかないので、そこに場面を説明する考えは馴染まない。逆を言えば、イラストの適正化を図ることで補足説明が必要となる印象を払拭する。
- ・側注の用語解説としていくつかの候補が挙げられたが、第2回訪問ヒアリングでは特段の指摘がなかったので、現段階では改めて追加することはない。
- ・2章と3章に登場する実習生と指導者について、「もくじ」で盛り込んでどうかとの意見があったが、結論としては、その必要はないということになった。また、2章に登場する山田さんは、本文のなかで側注として紹介することとする。
- ・「利用者の自立支援を実現するための」という表現が妥当ではないだろうとの意見があったが、厚労省の「中間まとめ」を引用する際にはこの言葉を用いるが、それ以外のところについては状況に応じて「自立を支援する介護」という言葉で整理する。
- ・2章の介護目標の設定について、「人とかかわる機会をふやす」ではなく、「人とかかわる機会がふえ、楽しく生活が送れるようになる」に見直す。また、長期目標・短期目標をプロフィールのところで表現してはどうかとの意見があったが、今の段階で取り入れるのは困難であるため、そういう考え方があるということについて「実習指導者へのメッセージ」に盛り込む。
- ・2章と3章の利用者紹介頁に「支援方法」も入れてはどうかとの意見があり、検討の結果、文字数が多いことに配慮したうえで入れる工夫をする。
- ・「考えてみよう」の答え(例)については、テキストの巻末に載せるのは馴染まないだろうとの結論に至った。考えた末の答えというものは、そもそも実習生が担当する利用者それぞれに内容が違うため、答えの例を明示するのは難しい。答えは実習施設のなかでしか確認できないので、「自分で考えたうえで実習指導者に確認してください」という旨を解答として用意するという方針をとる。

#### <実習指導者へのメッセージについて>

○事務局側が用意した原稿のたたき台は二つ。「技能実習生の指導者のみなさまへ」(巻頭掲載予定)と「テキストの具体的な活用方策」(巻末掲載予定)を踏まえ、項目の追加や修正等について議論した。主なポイントは次の通り。

- ・先刻の編集会議では、①本文中、自立について端的に解説しているが、実際には簡単に言い切れるものではない、②利用者の状況に応じて支援内容は変化することもあるが、本文では画一的にみんなで実施することになっているので、フォローが必要、③介護の目標には短期と長期があるが、本文ではふれていない、以上3点を追加する話が出た。

- ・「介護現場で行われている介護の実践が、この考え方に基づいて実践されていることは最低限の条件として」とするよりも、「前提として」としたほうが、現場には受け入れられやすいと思われる。
- ・当初は、自己学習支援のツールとして開発したテキストなので、「読んでいただくだけでは十分とはいえません」というメッセージは妥当性に欠ける。「読むことに加え、指導していただくことで、さらに効果が増し、深みが増す」という表現のほうがよいのではないか。
- ・指導者に向けたメッセージであっても、わかりやすく、かみ砕いた表現でまとめたほうがよいと思われる。
- ・巻末掲載予定の内容も「技能実習生の指導者のみなさまへ」に盛り込み、すべて巻頭に一括して掲載することにする。

#### <学習支援ツールの台割の在り方について>

- 「はじめに」をめぐってすぐの「技能実習生の指導者のみなさまへ」は、当初予定していた「テキストの具体的な活用方策」の内容も含めて、2頁で収めるようにする。
- 「考えてみよう」の答えについては、半頁で収まる内容となるため、1頁分でカウント。
- その次の頁に、本推進事業の検討会および各部会、テキスト作成協力者の名前をすべて明記させていただくことを考えている。
- 本テキストのなかに、技能実習生を受け入れるにあたっての覚悟を受け入れ施設がもつことの重要性を明記してはどうかとの意見もあったが、テキスト本来の趣旨から考えると、本テキストとは別の媒体を用いて伝えるべきメッセージであると思われる。

#### <その他>

- 学習支援ツールの表紙のデザイン案については、4案のうち二つにまで絞り込み、最終的には検討会の場で決めていただくこととする。
- 本日の参考資料として、第1回および第2回の調査部会議事録が盛り込まれているが、報告書に掲載するにあたり内容の間違いや過不足があるかどうかご確認をいただきたい。
- 今後の流れとしては、3月15日に開催される最終回の検討会にて、テキストおよび報告書の内容確認を得たうえで、年度内に二つの成果物を仕上げ、関係者に送付する予定である。
- テキストに関しては、すべからく技能実習生に配布することにはなっていない。まずは関係機関に配布するとともに、日本介護福祉士のホームページからいつでもダウンロードして印刷できる仕組みにする。

以上

### 3. 第1回訪問ヒアリング

#### (1) 特別養護老人ホーム あそか苑

##### ●開催日時・場所

平成 28 年 12 月 7 日 (水) 10:00~12:00  
特別養護老人ホーム あそか苑

##### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・河原 綾 (あそか苑 苑長)
- ・ダン理恵 (K&Y コンサルタンツ 日本語講師)
- ・EPA 介護福祉士候補者 1名

<調査員>

- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)
- ・稲垣喜一 (国際厚生事業団 受入支援部長)
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

##### ●指導者に対する主なヒアリング内容

<どのような指導を行っているか>

- 介護技術については、OJT のなかで実際に見せて、それを真似するところから理解してもらっている。
- ある程度の技術を行うなかで、「この人に対して、どうしてそれをしなければならないのか」を、指導者がその都度教えている。
- 1年あれば、おもな介護技術の習得は問題なくできると思う。
- いつの時期から「日本の介護」を教えるというよりは、日頃の業務を通して自然に理解してもらっている。
- 「なぜ、そういう介護を行うのか」を理解するのは、1年ではなかなか難しい。1年目は言われたことを行い、2~3年目で、「この人にはどうしてあげよう」という気持ちが出てくる。
- 現場の仕事と理論とを結びつけるのが、なかなか実際には難しい。

<学習支援ツールの SAMPLE について>

- 会話形式にして読みやすくした点はよい。

- EPA で入国 2 年目の候補者であれば、読むことはできると思う。
- 字が多いと、なかなか自分でテキストを開いて読むことはしない。
- 漫画形式にしたり、一番伝えたい部分にイラストが使われていたり、視覚的にわかるつくりにするとよいと思う。
- 想定されている日本語レベルの実習生にとっては、自己学習は難しいのではないか。
- 日本語レベルに加え、通常の業務がある中で、ただテキストを渡すだけでは読んでもらえないと思う。

#### <その他>

- 言葉の壁はとても大きい。
- スタッフ以外のところで、日本語の面、生活の面、介護の面でサポートしてくれる「学習指導者」の存在は大きい。
- 言葉と行為が結びついて初めて知識は定着する。結びつかなければ、イメージもできないし、理解もできない。

### ●外国籍介護人材に対する主なヒアリング内容

#### <日本の介護に対する理解度>

- 入国前に、現地で DVD などを見て日本の介護を学んだ。そのときの印象は、施設に家庭のような雰囲気があることがすごいと思った。
- 日本に来てから感じたことは、福祉機器が充実していること。例えば、機械浴や、車いすを乗せることのできる福祉車両は、母国にはない。

#### <日本の介護を理解するための学習方法>

- 自分がしてほしいことは、利用者に対してもしない「利用者の状況を把握しながら介護をする」などの基本的な考え方は、施設の指導者や先輩職員が働くなかで教えてくれた。
- 自立支援の考え方は、導入研修の際に初めて学習した。その後、施設で働き始めて、自立支援を意識しながら仕事をするようになった。

#### <学習支援ツールの SAMPLE について>

- 国家試験対策で使われている書籍に比べると読みやすい。

以 上

## (2) 社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム 浅草ほうらい

### ●開催日時・場所

平成 28 年 12 月 9 日 (金) 10:00~12:00

社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム 浅草ほうらい

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・草薙嘉臣 (社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム 浅草ほうらい 介護係長)
- ・EPA 介護福祉士 1 名

<調査員>

- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事)
- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)
- ・中央法規出版

### ●指導者に対する主なヒアリング内容

<どのような指導を行っているか>

- 「学習計画」上、1 年目は生活と日本語に慣れることを第一目標にしている。2 年目は専門日本語と文法・長文の理解、3 年目は受験対策となっている。
- 1 年目の最初の 3 か月で、日本語以外に、徹底的に基本介護技術を学んでもらう。その後、4 か月目以降に利用者に接してもらう。
- 基本介護技術を教えたあと、日本の介護の考え方を教える。そのあとさらに技術に立ち戻る。それを 3 か月の間に 3~4 回くり返すことで、理念と実践を組み合わさり、知識と技術が定着する。
- 「高齢者にはお世話をしてあげなければならない」「高齢者は弱っている人が多い」という意識が強かったため、そうではないところから理解していつてもらった。
- 自立支援という言葉は知っていても、具体的にどんな介護なのかという想像がついていない。ちょっと支えるだけで、あとは本人の力が使えれば自立支援になる。そのことをしっかり教えないと、間違った方向で覚えてしまう。

<学習支援ツールの SAMPLE について>

- 色がついていて見やすい。また、見開き 2 頁で終わるところは、簡潔であり、読みやすいと思う。
- 冒頭の「場面設定」と「基本情報」のデザインが一緒に、どちらが大事なかわからず混乱してしまうと思う。
- 大事な語句は目立たせてほしい。

- 見出しは数字の形をそろえるなど、どの章（節）のレベルの見出しなのかを明確にしてほしい。
- 登場人物は「Aさん」と記号表記にするより、実際の名前を入れたほうがよい。
- 本を開いたときに、親しみやすいストーリーであることが見出しレベルでわかれば、読もうという気になるのではないか。

## ●外国籍介護人材に対する主なヒアリング内容

### <日本の介護に対する理解度>

- 日本に来る前にテキストをたくさんもらい勉強していたので、最初にもった介護のイメージと実際とで大きな違いは感じなかった。
- 日本に来てから言葉がうまく通じなかったため、職員からの指示や利用者からの頼まれごとが理解できず、困ったことはあった。
- 言葉が通じないことでいえば、利用者の情報を収集することがとても難しかった。
- 自立支援や残存能力という言葉は知っていても、いざ利用者を目の前にすると、つい手を出してしまうことがあった。

### <日本の介護を理解するための学習方法>

- 自立支援などの考え方は、①母国での研修、②日本に来てからの導入研修、③配属先の施設、という三段階で学習した。

### <学習支援ツールのSAMPLEについて>

- レイアウトは読みやすい。
- 余白を埋めるためだけの「捨てカット」はいらない。ただし、本文の内容を表すようなイラストがあるとわかりやすいと思う。
- 医療用語や病気の名前は難しい。
- ふりがながあれば読むことはできる。
- 英語（母国語）が併記されているとわかりやすい。
- 用語解説は、別頁にあると探しにくい。できれば同じ頁に入れてほしい。

以上



### (3) 社会福祉法人伸こう福祉会

#### ●開催日時・場所

平成 28 年 12 月 15 日 (木) 14:00~16:00

社会福祉法人伸こう福祉会 特別養護老人ホーム クロスハート幸・川崎

#### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・小野美代子 (社会福祉法人伸こう福祉会)
- ・金 宇琦 (社会福祉法人伸こう福祉会)

<調査員>

- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

#### ●指導者に対する主なヒアリング内容

<どのような指導を行っているか>

- 入職段階の研修ではロールプレイを取り入れて、「いきなり触らない」「見えないところから声をかけない」などの体験をしてもらっている。
- 一定の状況設定のもと、自分でやってみる、やられてみる、感じるという体験を大切にしている。
- 年に 3 回、外国人が定期的に集まり、ざっくばらんな意見交換ができる機会を設けている。それとは別に年に 1 回、集合研修は行っている。そのときには、英語・中国語・スペイン語の通訳をつけるようにしている (=年に一度は、母国の言葉で学習できる機会を設けている)。

<学習支援ツールの SAMPLE について>

- 当施設では約 1200 人の全スタッフのうち、46 名の外国人がいる。そのほとんどが配偶者ビザをもっており、すでに生活の基盤はできている人たちである。そのため、オーラルのやりとりはでき、言葉 (音) で理解することはできる反面、読み書きができない人は多い。そうした人たちにとって、今回の教材は読むのが難しいと思われる。
- 自分にとって身近な言葉や普段日常的に使っている言葉は、他者から難しいと思われる言葉でも、比較的優しく感じるため、そうした言葉を多用してほしい。
- 状況設定があって、自分でやってみる、考えてみるという仕掛けが必要ではないか。
- 今自分がやっていることと、テキストの内容とが結びつかないと理解が難しい。

## ●外国籍介護人材に対する主なヒアリング内容

### <日本の介護に対する理解度>

- 母国の老人ホームは、完全に自立している人が 9 割以上いる。日本は要介護度が高い人が多いため、しなければならない作業も多かった。
- 日本では利用者の希望によって支援の方法を変えていくところはいいと思った。
- 認知症の人に対するケアは難しい。どのように接していいかわからない。どんな言葉かけをすればよいかわからない。
- 利用者さんの気持ちを理解することも難しい。

### <日本の介護を理解するための学習方法>

- 入社前に介護の単語の本を読んで勉強した。
- 施設に入所してからは職員から一つひとつ覚えていった。

### <学習支援ツールの SAMPLE について>

- 重要な言葉が太字になっているところがわかりやすい。
- 文字の大きさはこのままでよい。
- 絵をつけるとすれば、本文に関係のある絵を載せたらわかりやすくなると思う。
- 病気や介護についての専門用語に説明をつけてほしい。

### <その他>

- （指導方法について）最初は日本語を徹底的にやったほうがよいと思う。
- 自立支援の概念・人としての尊厳も、実際の現場だけでは伝わらないので教えたほうがよいと思う。

以 上

## (4) ピーエムシー株式会社

### ●開催日時・場所

平成 28 年 12 月 18 日 (日) 10:00~13:30

ピーエムシー株式会社

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・谷 晴夫 (ピーエムシー株式会社 代表取締役)
- ・稲村マリア (ピーエムシー株式会社)
- ・小黒真理亜 (ピーエムシー株式会社)
- ・小柳リゼル (ピーエムシー株式会社)

<調査員>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●指導者に対する主なヒアリング内容

<どのような指導を行っているか>

- 最初に、「一日の仕事の流れ (= 介護の手順)」と、よく聞く「介護の言葉」を、自社で開発した指導用テキストと DVD を用いて教えている。この導入教育が非常に大切である。
- 介護の現場で 3~4 年勤められれば、そこに磨きをかけていくことができる。
- 業務が忙しいなかで、強制的に勉強会を行っても、参加者は少なくなっている。最終的には、本人のモチベーションは非常に大きい要素。その壁をどう乗り越えるか。
- 初めに日本語や、介護の業務の流れを覚えてもらい、不安感をなくしないと知識は頭に入っていない。介護の手順を一定程度身につけたうえで、少なくとも 4 年目以降でないと、介護の根拠は理解できないのではないか。

<学習支援ツールの SAMPLE について>

- 想定される日本語レベルの方では、このテキストを読むのは難しいのではないか。
- 文章表現は、とにかくかみ砕いたものにすることが重要になる。
- 指導者なしで、一人でこのテキストを読むのは難しいのではないか。
- このテキストを用いて勉強するためのモチベーションとなるものを設けたほうがよい。

<その他>

- 辞めないで済む人を辞めさせないようにするためには、きちんとした新人教育が重要。新人教育は、実は指導者育成にもつながる。

## ●外国籍介護人材に対する主なヒアリング内容

### <日本の介護に対する理解度>

- 日本には一人暮らしの高齢者がいることに驚いた。
- 当初は施設に入所している高齢者を「かわいそう」と感じた。
- 言葉がわからず他の職員とのコミュニケーションが取れないので、うまくチームワークを取ることができなかった。
- 利用者の名前（日本語の名前）を覚えることが難しかった。

### <日本の介護を理解するための学習方法>

- 作業をしながら一つひとつ学んだ。
- 勉強する期間については人それぞれだと思う。

### <学習支援ツールのSAMPLEについて>

- 文字の量は少ないので、ほかのテキストよりは読みやすく、わかりやすい。
- 職場で教わっても、忘れてしまうこともある。その時に振り返るためのツールとしてこのようなテキストは必要だと思う。
- 漢字が多く、わからない言葉はたくさんある。

### <学習支援ツールのSAMPLEについて>

- 周囲に一つ一つ教えてくれる人がいると助かる。
- 住んでいるアパートと一緒に教えてくれる人がほしい。

以 上

## (5) 社会福祉法人福祉楽団

### ●開催日時・場所

平成 28 年 12 月 20 日 (火) 10:00~12:00

社会福祉法人福祉楽団 特別養護老人ホーム 杜の家くりもと

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

・上野興治 (社会福祉法人福祉楽団 サポートセンター コーチ)

・Ria prestia angraini

(社会福祉法人福祉楽団 特別養護老人ホーム 杜の家くりもと ケアサービスワーカー)

・ほか、EPA 介護福祉士候補者 3 名

<調査員>

・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)

・中央法規出版

### ●指導者に対する主なヒアリング内容

<どのような指導を行っているか>

○介護過程を展開する前提となる「あり方」や「志」が大切。PDCA サイクルは日頃やっていることなので、やりながらテキストを読んで理論を学び、知識と理論を結びつけることはたやすいと思う。

○外国人だからということで指導が難しかったことは、あまり感じたことはない。

○法人として「多様性を受け入れる」ことを理念としているので、日本人職員に対しては、外国人への距離の取り方についても、個人として普通に関わることを伝えている。

○外国人の場合、気づけるけれども記録として書くことができないので、記録の量は少ない。

○日本語の習得や資格の取得を至上命題にすることなく、「ケアであなたは何がしたいのか」ということを引き出してあげたい。

<学習支援ツールの SAMPLE について>

○見た目の印象としては、きれいにまとまっていてわかりやすいと思う。

○介護現場では、利用者の気持ちや思いを感じ取り、それをケアという行為に表現できる人はたくさんいると思う。反面、理論を体系化して学ぶということは苦手な人が多い。これら両方向からアプローチできるテキストがあるとありがたい。

○自分が体験したこととテキストの内容とが繋がれば、テキストは如何様にも活用できる。

○五感に訴える意味から、動画をつけてはどうか。例えば、DVD で利用者像を見せるなど。

- リフレクションをしながらテキストにつなげていくということを試験的にでもやっても  
らえればありがたい。
- 多くの外国人は、日本語を学んでも「概念としての日本語」でしかかない。体験したこと  
と日本語がつながれば、より身体に染み込むはずである。

#### <その他>

- OJT を通じて体験を積み重ねたときに、自分たちの言葉（母国語）でリフレクションで  
きるような場を設けることが大切だと思う。リフレクションして自分たちが感じたこと  
を言語化・意識化したうえで、そこに理論がついてくると入りやすい。
- 日本語で日本の理論を覚えることが至上命題になるのはどうか。

### ●外国籍介護人材に対する主なヒアリング内容

#### <日本の介護に対する理解度>

- 日本は施設が多い。インドネシア（母国）では、家族が介護をするため、施設が少ない。
- 毎日お風呂に入るため、家にお風呂がついているなど文化の違いがある。
- ベトナム（母国）では所得が高い人しか施設に入れないところが日本と違う。社会保険の  
有無も影響していると思う。
- 言葉が通じないことで、うまくチームワークがとれないことがあった。
- 日本語の使い方が一番難しい（特に助詞の使い方や方言）。
- 制度や法律を覚えることは大変である（入居者がどの社会保険を利用しているのかなど）。
- 記録を書くこと（また、ケアプランを立てること）は難しい。

#### <日本の介護を理解するための学習方法>

- 日本の介護に慣れるまでには2か月～3か月くらいかかった。
- 自立支援の理解には1か月くらいかかった。

以 上

## (6) 社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢

### ●開催日時・場所

平成 28 年 12 月 26 日 (月) 14:00~17:00

社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・上野由香子 (社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢 施設長)
- ・原田麻里 (社会福祉法人成光苑 グループ・ホーム舞夢)

<調査員>

- ・稲垣喜一 (国際厚生事業団 受入支援部長)
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●指導者に対する主なヒアリング内容

<どのような指導を行っているか>

- 介護の手順については、業務の中で、時間をかけて一つひとつくり返し教えている。その期間は最低でも 1 年程度。介護の根拠を教えるのは 2 年目以降。
- 1 年目に介護の手順を教えてもらうなかで、外国人にも「どうしてこういうやり方なの？」という疑問は出る。その疑問に応えるのが OJT の役割。2 年目になると、ほぼ根拠というものもおぼろげにはできている。
- 受講者の多くは、生活のために介護現場に入ってくる人がほとんどなので、勉強は二の次になってしまうことは否めない。勉強だけをガンガンやっていると、途中で音を上げて続かない。
- 宗教や文化などを背景にして、弱い人を助けるという気持ちは強い人たちなので、介護過多になる傾向はあると思う。その意味で、自立支援は理解しにくい。理解してもらうためには、よかれと思ってやったことは必ずしもそうでないということを、時間をかけて、現場でくり返し教え込んでいくしかない。

<学習支援ツールの SAMPLE について>

- 実習生と指導者を会話をとおして、日々の業務を振り返り、整理することができるスタイルはとてもよいと思う。
- 文章はかみ砕いた表現で、日々使われている言葉を用いることが重要。
- 会話の最後を、何が言いたかったのかがわかるような文章を置いてほしい。その「言いたいこと」を、「まとめ」の内容とリンクさせてほしい。

- このテキストに加えて、指導用の指導マニュアルなどがあれば使いやすく、教えやすい。また、DVD など、視覚からも理解できる仕掛けがあるとありがたい。映像があると、場面設定が理解しやすくなる。
- 目標が明確で、ここまでくれば何かしらそれに見合うフィードバックがあると、非常に頑張る傾向にある。何もなければ勉強はしないし、しなくてもいいと思ってしまう。テキストに関連させて試験やチェックを行うようにすれば、テキストを活用してくれるのではないか。

### ●外国籍介護人材に対する主なヒアリング内容

#### <日本の介護に対する理解度>

- 年を取ったらすぐに施設に入るという印象があった。
- 母国では、家族や地域で介護をしている。施設に入れられて「かわいそう」と思っていたが、今は、かえって幸せになっているのではと感じる。施設ではさまざまな人との交流があるため。

#### <日本の介護を理解するための学習方法>

- 定期的に行われる勉強会で学んでいる。
- わからない言葉は辞書（電子辞書）やインターネットで検索して調べている。

#### <学習支援ツールの SAMPLE について>

- 字の大きさやレイアウトはみやすい。
- 本文の場面を表す具体的な絵があったほうがわかりやすい。
- A さんの全体像について、会話文に入る前にわかるようにしてほしい。
- ふり仮名だけでなく、難しい用語には解説をつけてほしい。

#### <その他>

- 自立支援を理解するためには、実際にできるようになっていく過程を見てもらうのが一番いいと思う。

以 上



## 4. 集合ヒアリング

### ●開催日時・場所

平成 29 年 1 月 17 日（火） 14 : 00～16 : 00  
日本介護福祉士会 会議室

### ●主なヒアリング項目

- ・全体の流れ、構成が妥当か
- ・レイアウトはどうか
- ・言葉の使い方、側注のあり方はどうか
- ・テキストの精度を上げるための課題
- ・テキストを作成するにあたっての留意事項
- ・テキストの活用方法

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・上野興治（社会福祉法人福祉楽団 サポートセンター コーチ）
- ・Ria prestia angraini  
（社会福祉法人福祉楽団 特別養護老人ホーム杜の家くりもと ケアサービスワーカー）
- ・上野由香子（社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢 施設長）
- ・原田麻里（社会福祉法人成光苑 グループ・ホーム舞夢）
- ・坂根アメリータ（社会福祉法人成光苑 グループ・ホーム舞夢）
- ・谷 晴夫（ピーエムシー株式会社 代表取締役）
- ・草薙嘉臣（社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム浅草ほうらい 介護係長）
- ・マギー（社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム浅草ほうらい）
- ・小野美代子（社会福祉法人伸こう福祉会）
- ・金 宇琦（社会福祉法人伸こう福祉会）

<調査部会委員>

- ・内田千恵子（日本介護福祉士会 理事）
- ・蔵本孝治（東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長）
- ・橋本由紀江（国際交流&日本語支援 Y 代表理事）

<オブザーバー>

- ・伊藤優子（厚生労働省 介護福祉専門官）

<事務局>

- ・松下能万（日本介護福祉士会 事務局次長）

- ・中央法規出版

## ●主なヒアリング内容

### <指導者グループ>

- ・指導者にきちんと理解していただくことが何より重要。
- ・指導者用マニュアルも作成してほしい。
- ・現場で実践している介護業務から説明をしたほうがよい。
- ・Aさんのほかに指導者と実習生の姿もイラストで入れるべき。
- ・介護の流れの図（p.5）はわかりづらい。
  - ☛ 文字が多すぎるし、内容も難しい。文字を削除し図だけにしてもよい。
- ・1章2節（p.4）「自立支援」の説明は、p.5の「イメージ」を先にもってきたほうがよい。
- ・二つの事例の後に全体の説明をしてはどうか（反対意見もあり）。
  - ☛ 「理論からではなく、実践を見せた後に理論を説明するほうが、わかりやすいのではないか」との理由から。

### <外国人介護人材グループ>

- ・B5判という大学ノートのサイズは持ち運びができてよい。
- ・できれば頁数を厚くしないでほしい。
- ・漢字にすべてルビがついているので、とても読みやすい。
- ・登場人物（指導者と実習生）の紹介を冒頭に入れてほしい。
- ・自立支援の意味を説明すべき。
- ・会話の太字を色つきにすべき。
- ・もう少し、イラストをふやしてほしい。
  - ☛ Aさんを紹介した1頁分は、とてもわかりやすかった。
- ・1章3節『「自立支援をめざす具体的な介護の流れ」のイメージ』は、字が多すぎる。
- ・「考えてみよう」は、「あなたなら、どうやる？」という問いかけのほうが解答しやすい。
  - ☛ 例えば、「高齢者」のテーマ1ならば、「あなたなら、担当する利用者のどんな情報を集めますか？」と問いかけ、書き出してもらい、そのうえで、解答例や指導者からのアドバイスをふまえて、「こんな情報が足りなかった」と気づいてもらう。

## 5. 第2回訪問ヒアリング

### (1) ピーエムシー株式会社

#### ●開催日時・場所

平成 29 年 2 月 21 日 (火) 16 : 00～18 : 00

特別養護老人ホーム ばんだい桜園

#### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・谷 晴夫 (ピーエムシー株式会社 代表取締役)
- ・小黒真理亜 (ピーエムシー株式会社)

<調査員>

- ・蔵本孝治 (東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長)
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

#### ●主なヒアリング内容

<テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)>

- 集合ヒアリング時に見たものに比べ、とても見やすくなっている。
- 文字が少なく、端的で、表現がとても柔らかくなっており、わかりやすい。
- イラストがたくさんあり、親しみやすい。
- 平仮名の表記を多用するよりも、適度に漢字を用い、そこにルビをふるほうがよい。
  - ☛ 例えば、「～によい」ではなく「～に<sup>よ</sup>い」など。
- 技能実習生にとっては、わかりにくいかもしれない表現がいくつかあった。
  - ☛ 「踏まえて」「希望に沿わなくなる」「目標がよい」など。
- 「介護計画」の呼び方について、テキストでは、一般的な用語である「ケアプラン」を使ったほうがよいのではないか。
  - ☛ 通常業務の中で、介護計画は「ケアプラン」と呼んでいる。
- 会話部分の「指導者」と「実習生」の区別がつくように、何らかの工夫をしてほしい。

<第1章に関する意見>

- 第1章は概念的な説明なので、難しいと思う。具体例を思い浮かべながら読めるため、第2章と第3章を読んでからなら理解できるかもしれない。

<第2章(高齢の佐藤さんの事例)に関する意見>

- 利用者の紹介ページ (p.3) に「支援方法」も入れてほしい。
  - ☛ 本文に突然「支援方法」が出てくる印象がある。
- 「3 介護の目標って、なんだろう」(p.6~7) がわかりづらい。
  - ☛ どうして「人とかかわる機会をふやす」という目標になったのかが、読んでいてわかりづらかった。
- 「5 計画のとおり、みんなで介護する」(p.10~11) がわかりづらい。
  - ☛ 介護計画の内容を共有しない場合、どんなことになるかの例示がわかりにくかった。

<第3章(障害のある高橋さんの事例)に関する意見>

- 利用者の紹介ページ (p.19) に「支援方法」も入れてほしい。
  - ☛ 本文に突然「支援方法」が出てくる印象がある。
- 利用者の目標に対して、どうしてこの支援内容になったのかが、利用者の紹介ページ (p.19) を見ただけではわからなかった。
  - ☛ 「4 介護計画って、なんだろう」(p.24~25) までを読んで初めてわかった。
  - ☛ もっと高橋さんの状態像を具体的に記述したほうがよいか。
- 「身体」のルビは、「からだ」のほうがわかりやすい (p.4、5)。

<テキストの活用方法等に関する意見>

- グループワークにおいて非常に使いやすいテキストだと思う。
- 指導者が多少指導を加えれば、自己学習でも活用できると思う。
- 新卒や中途採用の日本人向けの教育には、現場経験がなければ難しいのではないと思う。
- 「本書の使い方」を指導者向けに1頁くらいのボリュームで掲載してはどうか。

以 上

## (2) 社会福祉法人伸こう福祉会

### ●開催日時・場所

平成 29 年 2 月 23 日 (木) 10 : 00 ~ 11 : 00

社会福祉法人伸こう福祉会 クロスハート幸・川崎

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・小野美代子 (社会福祉法人伸こう福祉会)
- ・金 宇琦 (社会福祉法人伸こう福祉会)

<調査員>

- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●主なヒアリング内容

<テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)>

- 流れがきちんとできていて、とても読みやすく、理解しやすい。
- 単語の説明がわかりやすい。
- 各章の登場人物(特に実習生と指導者)が誰なのか、わかりやすく表示してくれるとよい。
  - ☛ 例えば、登場の初出の部分に名前を入れるなど。
- 2 章と 3 章では、節単位の見出し部分に PDCA のサイクル図を挿入し、各節が PDCA のどの部分に該当するのかをわかるように明示する。
- テキストでは「介護計画」という言葉を使っているが、施設のなかでは「ケアプラン」という言い方をしている。

<第2章(高齢の佐藤さんの事例)に関する意見>

- 太鼓のイメージがつかない(どんな形の、どのくらいの大きさの太鼓なのか)。
  - ☛ イラストで具体的に描き表すようにする。
- 麻痺がある人の衣服の着脱の手順などがコラムとして入っていると役立つと思う。

<第4章に関する意見>

- p.40 の流れ図は、文字量も多く、解説文も難しい。

<テキストの活用方法等に関する意見>

- 一人でテキストを読んでも理解できるし(=個人形式)、グループをつくり、テキストを

用いてディスカッションをすれば、テキストの内容をより深く理解することができると思う（＝集団形式）。

- 介護現場において、「何をやるのか」「どうやるのか」については **OJT** を通じて教えることができると思う。ただし、「なぜ、そうするのか」については教えるのが難しい。そこで、このテキストのなかの「考えてみよう」の欄を活用しながら、「あなたはどう思う？」と実習生に問いかけて考えさせれば、「なぜ、そうするのか」の具体的な指導につながると考える。

以 上

### (3) 特別養護老人ホーム あそか苑

#### ●開催日時・場所

平成 29 年 3 月 2 日 (水) 10:00~12:00

特別養護老人ホーム あそか苑

#### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・河原 綾 (あそか苑 苑長)
- ・ダン理恵 (K&Y コンサルタンツ 日本語講師)

<調査員>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

#### ●主なヒアリング内容

<テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)>

- 全体のボリュームはちょうどよいと思う。
- 文字も多くなく、読みたいと思えるつくりになっている。
- 外国人には、わかりにくいかもしれない表現がいくつかあった。
  - ☛ 「かかわる」「きっかけ」「職」(職と識の区別など)
- 通常、業務のなかで、介護計画は「ケアプラン」と呼んでいる。
- ルビをもう少し大きくできないか。
  - ☛ 本文の文字は大きくて読みやすいが、ルビの文字は小さいと思う。
- 本文の刷り色について、全体が赤であると大事な点がどこかわかりにくくならないか。
  - ☛ 本当に大事なところだけ赤で強調するほうがよいのではないか。

<第1章に関する意見>

- 第1節で、あえて「PDCA」という言葉を使ってもよいのではないか。
  - ☛ 日本人介護職にはなじみのある言葉なので、この言葉を使ったほうが、日本人指導者が理解しやすく、教えやすくなると思われる。

<テキストの活用方法等に関する意見>

- 新卒で、学生時代介護を学んだことのない人に渡して活用したいと思った。

以 上

## (4) 社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢

### ●開催日時・場所

平成 29 年 3 月 3 日 (金) 10:00~12:00

社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・上野由香子 (社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢 施設長)
- ・原田麻里 (社会福祉法人成光苑 グループ・ホーム舞夢)
- ・坂根アメリータ (社会福祉法人成光苑 グループ・ホーム舞夢)

<調査員>

- ・石本淳也 (日本介護福祉士会 会長)
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●主なヒアリング内容

<テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)>

- 第1章が、集合ヒアリング時に見たものに比べ、とてもわかりやすくなっている。
- イラストが多用されていて、絵本のように、とても見やすい。
- 施設でよくある事例が使用されており、実際の業務と結び付けやすく、使いやすいと思う。
- 会話部分の「指導者」と「実習生」の区別がつくように、何らかの工夫をしてほしい。
- イラストを見れば、その場面がイメージできる内容であることが望ましい。
  - ☛ 日本語の意味がわからなくても、イラストを見て理解できれば読もうという気になる。
  - ☛ イラストの場面がすぐ理解できるように、イラストにキャプション(場면을説明する見出し)を入れてはどうか。
- 登場するイラストの人々にもっと笑顔があってもよいと思う。

<第1章に関する意見>

- p.1の色アミ(ピンク色の背景)がかかった導入部で何を言おうとしているか、もっとはっきりさせ、目立つ体裁にしてはどうか。

<第3章(障害のある高橋さんの事例)に関する意見>

- トイレで下半身が描かれていないイラストは、何をしているのかわかりづらい。
  - ☛ 身体全体を描くか、トイレだとわかるマークを入れてほしい。



＜テキストの活用方法等に関する意見＞

- 集合研修時においても使えると思う。
- 指導者が多少指導を加えれば、自己学習でも活用できると思う。
- 新卒や中途採用の日本人向けの教育にも使用できるかもしれない。
- 指導者向けには、以下の内容を載せてはどうか。
  - ・このテキストが何のためにつくられたのか。
  - ・このテキストの目的を実習生にマンツーマンで伝えることが、自己学習に役立つこと。
  - ・受入れ側に準備が必要なこと（教える側の理解と、必要に応じて業務の見直しをすること）。
  - ・制度のなかでこのテキストをうまく活用し、受入れ側と実習生双方が利益を得る関係になれるよう促すこと。

以 上

## (5) 社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム 浅草ほうらい

### ●開催日時・場所

平成 29 年 3 月 3 日 (金) 15:00~16:00

社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム 浅草ほうらい

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・草薙嘉臣 (社会福祉法人清峰会 特別養護老人ホーム浅草ほうらい 介護係長)
- ・EPA 介護福祉士 1 名

<調査員>

- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事)
- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)
- ・中央法規出版

### ●主なヒアリング内容

<テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)>

- 「もくじ」の白抜き数字の部分と同濃度の色になっているので、少し見づらい印象がある。
- 「まとめ」の欄をもう少し下方に位置づけられないか (例えば、イラストとまとめの位置を入れ替えるなど)。
  - 「まとめ」に目が行き過ぎて、会話文を読まない可能性がある。
- 各章の登場人物 (特に実習生と指導者) が誰なのか、わかりやすく表示してくれるとよい。

<第3章(障害のある高橋さんの事例)に関する意見>

- p.23 や p.29 のイラストに、何か吹き出しを入れたらわかりやすくなると思う。
- p.31 のイラストで、報告を受けているのが誰か (職員なのか家族なのか) わかりにくい。

<第4章に関する意見>

- p.36 のイラストで、「やってはいけない」という意味の×印を入れるとわかりやすくなる。
- p.38~40 の会話文や解説文のなかで、介護計画の作成にあたっては、利用者の意向や希望を踏まえ、利用者への説明と同意が必要である旨を書き込んでほしい。

<テキストの活用方法等に関する意見>

- 指導者と実習生が実際に読み合わせができれば、テキストの理解が深まると思う。

以 上

## (6) 社会福祉法人あぐりす実の会 高齢者福祉施設 大地の丘

### ●開催日時・場所

平成 29 年 3 月 7 日 (火) 14:00～

社会福祉法人あぐりす実の会 高齢者福祉施設 大地の丘

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

- ・ EPA 介護福祉士 1 名
- ・ EPA 介護福祉士候補者 2 名

<調査員>

- ・ 稲垣喜一 (国際厚生事業団 受入支援部長)
- ・ 松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・ 中央法規出版

### ●主なヒアリング内容

<テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)>

- 文字と文字が適度に離れていて読みやすい。
- 内容もわかりやすく、読もうと思えるつくりになっている。
- 章のタイトルはもっと簡潔にしてほしい。
- 会話のフリガナは初出のみ入れるだけでよいと思う。
  - ☛ すべてついていると、フリガナに頼って、漢字の練習にならない。
- 解説で抜き出す用語はアスタリスク (\*) を付けるなど、わかるようにするとよい。
  - ☛ 太字だと、重要語句と勘違いする恐れはないか。
- 現場では、介護計画は、「ケアプラン」という言葉を使っている。
- イラストはもっと多くあってもよいと思う。
- 墨文字がもっと濃いほうがよい。

<第1章に関する意見>

- 具体的な例を入れるなどしないと、理解するのは難しいのではないか

<第2章(高齢の佐藤さんの事例)に関する意見>

- 佐藤さんの紹介 (p.3) で、脳梗塞がもたらす後遺症の情報 (発音ができない、左側に麻痺) は「後遺症」として、一括りにしてはどうか。
  - ☛ イメージ:『脳梗塞の後遺症があり～～』ではなく、『脳梗塞の後遺症…発音ができない・左側に麻痺』など

○佐藤さんの紹介（p.3）の紹介文はもっと短く簡潔にしたほうがよい。

以 上

## (7) 社会福祉法人福祉楽団

### ●開催日時・場所

平成 29 年 3 月 7 日 (火) 16:00~18:00

社会福祉法人福祉楽団 杜の家くりもと

### ●出席者

<ヒアリング協力者>

・上野興治 (社会福祉法人福祉楽団 サポートセンター コーチ)

・Evi nopiyanti

(社会福祉法人福祉楽団 特別養護老人ホーム杜の家くりもと ケアサービスワーカー)

<調査員>

・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事)

・蔵本孝治 (東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長)

・中央法規出版

### ●主なヒアリング内容

<テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)>

○登場人物のうち、指導者が誰で、実習生が誰なのか、もっとはっきりわかる形にすると理解が進む。

○利用者の紹介頁 (p.3、p.19) で、主観的情報と客観的情報を色分けして示してはどうか。

<第1章に関する意見>

○「学んでいただきたいこと」と、ここまでへりくだった表現でなくてもよいのではないか。

<第2章(高齢の佐藤さんの事例)に関する意見>

○本人だけではなく、家族から情報を得ることもある旨が記述されているとよいのではないか。

○山田さんの名前の前に「声をかけくれやすい」と付くのが読みにくい。

☛「声をかけてくれやすい」という文章を削除し、山田さんの紹介をどこかですれば、どうして山田さんとマッチングしたのかも理解しやすくなるのではないか。

○p.14 の、実習生の 2 番目の会話文中に、「山田さん以外に、だれかもっと別にかかわってくれる人がいたほうがいいですね」と加えてはどうか。

○p.15 で、「情報の積み重ね」という表現は難しい。

<第3章(障害のある高橋さんの事例)に関する意見>

- 高齢者事例の「鈴木さん」と、障害者事例の「ホンさん」のイラストが似ている。
- p.22～p.23 にかけて、「介護の目標ができるかどうか」「利用者の生活がよくなるかどうか」これらの文章を並列にしてもよいかどうか、また、「目標ができる」という表現はこのままでよいかどうか。
- 介護計画が絶対であると思われてしまってもよいかどうか。毎回観察をして、利用者の意向を踏まえながら支援するという態度が必要になるのではないか。

<テキストの活用方法等に関する意見>

- 外国人の技能実習生に活用してもらうだけでなく、日本人の初任者クラスの介護職員にもこのテキストは活用できると考える。具体的には、ケアの PDCA サイクルを共有したうえで、ある特定の利用者を想定し、このテキストを用いて研修を行うことも可能だと思う。

以 上

## 6. 教材開発部会

### (1) 第1回教材開発部会の議事内容

#### ●開催日時・場所

平成28年11月8日(火) 11:00～12:15  
日本介護福祉士会 会議室

#### ●議 題

- 1 第1回検討会の概要報告
- 2 教材の執筆について
  - ・取り上げるテーマについて
  - ・執筆上の留意事項について
  - ・スケジュールについて
- 3 その他

#### ●出席者

- <委員> (以下、五十音順)
- ・岩崎京子 (社会福祉法人足立邦栄会 相談員)
  - ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事/教材開発部会 部会長)
  - ・竹田幸司 (田園調布学園大学 講師)
  - ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)
- <事務局>
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
  - ・中央法規出版

#### ●主な議事内容

<第1回検討会の概要報告>

○事務局より、11月4日に開催された「検討会」の議事内容について説明がなされた。主なポイントは次の通り。

- ・事業概要の説明
- ・学習支援ツールの趣旨・位置づけの説明
- ・学習支援ツールの項目案・執筆内容の説明
- ・ヒアリングの概要の説明
- ・全体の進行の手順・役割・スケジュールの確認

### <取り上げるテーマについて>

- 取り上げるテーマは、高齢者・障害者ともに八つを想定している。
- 目次は介護過程の展開に沿って構成されているので、介護過程の「評価」も項目に追加する。介護過程の展開は計画・実行の後に評価があることで次のケアにつなげることができる。このことで、日本の介護は「やりっぱなし」ではなく、きちんと循環していることを理解してもらうようにする。
- 『①テーマ：「介護」と「お世話」の違い』は概念の説明であり、介護過程の展開に沿っていないため、項目からは外したほうがよい。なお、全体を読み通し、介護過程の展開の意味を理解してもらうことで「介護」と「お世話」の違いを理解してもらう。
- 『チーム連携の視点』はどの場面でも大切になってくるため、障害分野の項目にも加える。なお、障害分野にあった『⑧テーマ：介護職と倫理』については削除する。
- 外国人のなかには、食器洗いやゴミ捨て、ベッドメイキングなどの業務について、一見すると誰にでもできる作業であって、専門性のないものと感じている方もいる。しかし、そうした業務を行うにはきちんとした意味がある。そのため、日本の介護における一つひとつの業務の意味づけを、テキストのなかで説明する必要がある。

### <執筆上の留意事項について>

#### ①日本語・日本文化の取り扱いについて

- 入国前後の講習内容の詳細が定まっていないのが現状。技能実習生の日本語のレベルについては未知数であるが、学習支援ツールの想定対象者である2～3年目の実習生が習得している日本語検定3級（N3）程度では、介護の現場で実践的に話せるレベルであることは期待できない。
- そのような前提において、自立・尊厳・観察など、難解であったり、概念的であったりする日本語をどのように扱うか。どれも、日本の介護の専門性に結びつく言葉であり、理解することは大事だが、そのままの言葉を用いるのは難しい。
- また、文章は、詳しく書かずにシンプルにしたほうがよい。外国人に説明する場合、解説を詳しくすると、かえってわからなくなってしまうことがある。
- 技能実習生の母国と、日本の文化的な違いからも、説明が難しいケースがある。
  - 例1) 食事の介護で、こぼれた食べ物を「もったいないから」といって食べさせてしまう外国人に、食べさせてはいけないことをどう理解してもらうか。
  - 例2) 足を組みながら利用者に食事を提供しようとする外国人に、どうしてそうしてはいけないかをどのように理解してもらうか。
- 文化的側面のほか、自立支援などの日本における介護の概念について、直接説明することは難しい。そのため、「具体的で日常的な介護場面の解説」というスタイルをとることで、それらの文化や概念も自然と理解ができるようなつくりとしたい。



## ②障害分野のまとめ方について

- 障害分野は、障害種別や介護場面によって対応が大きく異なるため、詳細に書いてしまうと、かえって外国人には伝わりづらくなる。  
例) 聞き取れない・わからない用語があっても、言語障害のある人は何度聞き直しても大丈夫である場合が多いが、精神障害や知的障害のある人の場合、何度も聞くと怒らせてしまうことがある。
- そのため、あまり深く立ち入らず、どのケアにも共通している大元の部分をよりシンプルな書き方で説明する。

## ③側注の取り扱いについて

- 現段階では、日本の介護実践で前提となったり、基盤となったりする文化的・制度的背景などを取り上げ、側注で解説することを想定しているが、原稿執筆にあたっては、特にまとめる必要はない。
- 難解な用語をどうしても使用しなければならない場合は、その説明を側注で行うことも検討する。

## <作業の進め方と今後のスケジュールについて>

- 岩崎京子先生と竹田幸司先生（＝以下、執筆者）には、12月1日までに、事例部分の原稿執筆をお願いします。
- なお、原稿は、仕上がった項目から順次、事務局に提出していただく。また、受領した原稿はその都度、教材開発部会で共有する。
- 橋本由紀江先生には、執筆者による原稿内容を、技能実習生にとってわかりやすい言葉に見直す調整作業をお願いします。期間としては、12月15日までを予定。
- 白井孝子先生には、原稿内容のうちの医療用語について、技能実習生の理解を促すための解説原稿の執筆をお願いします。期間としては、12月15日までを予定。
- 本来であれば、執筆者から受領した原稿を事務局が整理し、その後に橋本先生に日本語の調整に入っていただく工程とすべきであるが、スケジュールの関係上、今回は、受領した原稿の事務局における整理と、橋本先生による調整作業を同時に行うことも検討したい。
- なお、日本語の調整作業を終えた修正原稿について、執筆者に確認をしていただくこととする。
- これら一連の作業を12月20日までに終えて、修正・確認済みの原稿を格拉にする。

以 上

## (2) 第2回教材開発部会の議事内容

### ●開催日時・場所

平成29年2月6日(月) 15:00~17:00

日本介護福祉士会 会議室

### ●議 題

- 1 学習支援ツール開発の経過報告
- 2 学習支援ツールの開発に係る意見交換
  - ・現在の編集方針
  - ・学習支援ツール(現行案)
- 3 今後の流れ

### ●出席者

<委員> (以下、五十音順)

- ・岩崎京子(社会福祉法人足立邦栄会 相談員)
- ・内田千恵子(日本介護福祉士会 理事/教材開発部会 部会長)
- ・竹田幸司(田園調布学園大学 講師)
- ・橋本由紀江(国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子(厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万(日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●主な議事内容

<学習支援ツール開発の経過報告>

○事務局より、学習支援ツール開発に係るこれまでの経過について説明がなされた。主なポイントは次の通り。

- ・11月1日に検討会、8日に教材開発部会をそれぞれ開催。
- ・その際の執筆要項に基づいて原稿のたたき台を提出していただく。
- ・原稿のたたき台に対して、訪問ヒアリングを通じていろいろな意見が出される。
- ・12月21日に編集委員会を開き、編集方針の方向性を事務局が一旦整理する。
- ・集合ヒアリングを実施し、そのなかでの意見を踏まえて編集方針の修正を行う。
- ・部会長との打合せが1月19日、担当者との打合せが1月21日、2月1日に第2回検討会があり、本日お示しする原稿案ができあがる。

### <現在の編集方針について>

- 事務局より、現時点における学習支援ツールの編集方針について、①学習支援ツール全体に関わること、②第1章に関すること、③第2・3章に関すること、という三つの側面から説明がなされた。
- また、第2回検討会を踏まえた検討事項として、次のことが挙げられた。
  - ・第1章の内容は、論理的にはうまくできているが、相当高度な内容であり、実習生に難しい印象を与えてしまい、テキストに入りにくくなるのではないかと懸念がある。
  - ・学習支援ツールの現行案では、第1章は2名、第2章は3名、第3章は3名、計8名の人物が登場する。読者の負担感も考慮したうえで、①利用者および指導者については一般的な日本名をつける、②実習生(外国人)については、違う人であることがわかる工夫を試みる。
  - ・対象者像を巻頭等で示さないと、何年目の方が使うものなのか等のイメージがわからないのではないかと。
  - ・東南アジア圏域については、物理的な介助が「介護」というイメージしかないため、当初案にあった「お世話と介護の違い」を盛り込めないかと。
  - ・巻末に加えることとしている、実習生の受け入れ施設へのメッセージ(学習支援ツールの活用方法)について、どの程度具体的なものにするか。

### <学習支援ツール(現行案)について>

#### ① 1章について

- 介護過程を学んでもらう意味は、介護が決められた手順通りに行くものではなく、利用者を見ながら実施していくものだということを理解してもらうことにある。そのことをより簡単に解釈できるようにするための第1章。
- 「介護には根拠がある」「それをみんなで共有しなければならない」ということが端的な形で伝わればよい。「その過程のなかで、自分たちがやっていることが活かされている」「だからちゃんとやらなければならない」ということを理解してもらえれば。
- 介護過程のサイクル図も、できるだけ簡単にしたい。言葉や表現は正確でなくても、伝わるようにしたい。そして現場に即して学ぶなかで、「ああ、そうか」と確認できる状況にしたい。
- その意味では、技能実習生に理解してもらうために、言葉を簡略化したり、シンプルにしたりしているという注釈を入れる必要がある。

#### ② 2章について

- 「麻痺の後遺症により、うまく話すことができない」という設定。麻痺の後遺症という条件をつけてしまうと、失語症というよりも構音障害になる。麻痺があっても口がうまく閉じられないから、発声が濁るというイメージ。

- 麻痺性の構音障害という設定がよいと思う。言いたいことはたくさんあるし、言葉も持っている。最後の発声のところがかうまくいかないためにイライラしたり、落ち込んだりする。そこで設定としては落ち着くと思う。
- A さんに関する情報をまとめる頁のなかに、発音が明瞭でなく、自信がもてないことが原因で自分の部屋にこもっているということを加える。
- 右片麻痺ではなく、左片麻痺としたほうが、妥当性がある。
- 歌を歌うのではなく、楽器を使って演奏するというストーリーをつくってはどうか。
- 目標が、利用者の希望をまとめたものという表現が気になる。「利用者の希望をもとにしてつくられる」という書き方のほうがよい。
- 介護の目標が「機会を増やす」となると、介護職の目標になる。目標は利用者を主語にしてつくるのが大原則。「〇〇できる」「〇〇になる」という表現がテキスト上は一般的。
- 「話せるときと話せないときがある」という文章があるが、この利用者は話せるのか話せないのか。「どんな生活がしたいのか自分で言えない」という設定にもなっており、言えるのか言えないのかが曖昧になっている。
- 構音障害という設定がハッキリしたので、A さんは自分でうまく言えないという雰囲気は出ると思う。うまく言えないので、介護職が聞き出したという設定。要するに、自分がうまくしゃべれないことについて恥ずかしいと思うために、自らしゃべろうとしない。だから、どんな意思があるのかを掴むことが難しい。

### ③ 3章について

- 45 歳の女性という設定なので、あえてズボンに統一しなかった。スカートをはくこともある。そのために、「服」という表記で統一した。
- どんな状況で転んだのかが後ろの頁にならないと見えてこないなので、洋服とか下着を下ろすときにバランスをくずしたなどの情報を、最初のほうに入れるとわかりやすくなる。
- 四肢麻痺をイラストで描き表すには、車いすが必要になる。そこで、高齢者事例については杖歩行にしてもらえれば、両者の差別化が図れると考える。
- 「できること」と「していること」の考え方は技能実習生に向けては難しい。「できるはずなのに、転んでしまったために怖くなってやっていない」など、言葉を換えてわかりやすい表現にして盛り込む。
- 介護の目標が「安全に気をつけて、自分のことは自分です」となっているが、支援の内容が排泄なので、排泄の自立を目指した目標に書き換える。
- もともと自分で排泄できていた方ではあるが、トイレで転んだ怖さというのは本人にとってかなりのダメージになる。そこで、当面は一時的に心が回復するまで、服と下着の上げ下ろしを全介助するという設定にする。
- B さんに関する情報としては、「トイレで排泄する自信がない」というよりも、「トイレで排泄するのが怖くなっている」としたほうが適切である。

○利用者の希望がそのまま介護の目標になるわけではないことが、会話文からは読み取れる。ただし、「まとめ」の文章が必ずしもそうになっていないので、きちんと書き表したほうがよい。

<今後の流れについて>

- ようやく各事例の大枠や流れが共有できたと思うので、今日の議論を踏まえて事務局側で一旦加筆・修正を行う。修正原稿を岩崎・竹田両委員に送付し、確認していただき、その後橋本委員に再度日本語の整理をしていただく。それを訪問ヒアリングの資料とする。
- 第2回の訪問ヒアリングは2月中旬以降始める予定である。また、3月上旬から中旬にかけて、検討会が開催される前に教材開発部会の最後のとりまとめを行いたい。

以 上

### (3) 第3回教材開発部会の議事内容

#### ●開催日時・場所

平成29年3月15日(水) 13:00~15:00

日本介護福祉士会 会議室

#### ●議 題

- 1 学習支援ツール(案)の最終確認
- 2 今後の流れ
  - ・現在の編集方針
  - ・学習支援ツール(現行案)
- 3 今後の流れ

#### ●出席者

<委員> (以下、五十音順)

- ・岩崎京子(社会福祉法人足立邦栄会 相談員)
- ・内田千恵子(日本介護福祉士会 理事/教材開発部会 部会長)
- ・竹田幸司(田園調布学園大学 講師)
- ・橋本由紀江(国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<事務局>

- ・松下能万(日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

#### ●主な議事内容

<学習支援ツール(案)の最終確認>

○事務局より、第2回編集会議を踏まえて修正を図った学習支援ツール案に関する説明がなされた。その後、各委員から具体的な意見や質問が出された。主な内容は次の通り。

##### ① 本文内容やイラストについて

- ・障害のある利用者(高橋さん)が乗っている車いすのイラストは見直したほうがよい。
- ・「脳梗塞」や「取り戻す」の用語解説文は見直す。
- ・p.1の「日本の介護」の説明文については、「利用者さんが望む生活を支えること」と明記する。
- ・2章と3章の各8節の標題について、「介護の目標がどのくらい達成できたか確認して、計画を見直そう」となっているものを、「介護計画を見直そう」として用語を統一する。標題が長くなるが、用語の統一を優先させる。
- ・p.19以降に出てくる「排泄」という漢字。以前は「排せつ」と表記することもあったが、

本学習支援ツールのなかでは「排泄」という表記で統一する。

- あえて「障害者の介護施設」という言葉を使っている。前回の編集会議でも、障害分野では介護という言葉を使わない傾向にあるという話があった。ただし、制度として「介護の技能移転」をうたっているため、介護という言葉を使うことが望ましい。果たして「障害者の介護施設」という表記のままで差し支えないかどうか。
  - ☛ 結論としては、表現したいことを並べた形で、法令等にも拠らずに、「介護施設」という表記のままとする。そのうえで、巻頭の留意事項の欄に、「技能実習性が勤める施設は介護がある施設になる。ここで介護施設という言葉を使っているのは、そういう意味合いである」「大前提として、日本語が堪能でない外国籍の方たちに向けてつくっている」ということを記載する。
- p.9の「考えてみよう」は、支援内容と支援方法を定める方法（決め方）を問いかけているのか、どうしてそうした支援内容・支援方法に決まったのかという理由を問いかけているのか、わかりにくい。
  - ☛ 結論としては、「どうやって決められましたか」ではなく、「どうやって決められましたか」と文章を見直す。
- p.13のイラストについては、左右の場面が違う曜日・時間であることがわかるように工夫してはどうか。
- p.17のイラストについては、電球マークを入れるのがあまり効果的でない。実習生が佐藤さんに「今日はこちらの〇〇さんとお話をしませんか」「今日は〇〇さんのとなりに座りませんか」などと声をかける吹き出しにすれば、場面がすぐ想像できる。
- p.27のイラストについては、全介助と一部介助、それぞれ介助をしている介護職を変える。そのうえで、中央の高橋さんは1人だけ置いたほうがわかりやすいのではないか。
- p.37のイラストについては、ベッド柵の位置を描き直したほうがリアル感が出るのではないか。

## ②自立の考え方について

- 自立とは、自分で自分の身の回りのことをすべてできるようになることを目指すわけではなく、望む生活の決定権はその人にあるということさえ理解できていれば、それで十分なのではないか。
- 「自分のことは自分の意思で決めて」というだけのほうがしっくりくる感じがある。
- 例えば自立の考え方として、「自立とは、自分の力で生活することだけではありません。介護を受けていても、自分のことを自分の意思で決めて（自己決定）生活することも自立です」とまとめることはどうか。
- ただし、あまり自立のとらえ方を限定しすぎても理解が深まらないと思われる。

### ③「考えてみよう」について

- 職場ごとに、どういう利用者がいて、どういう方を担当するかによって、出てくる答えもまったく違うので、テキストで示すのは難しい。
- そのため、指導者と話し合いながら、自分が担当する利用者の話に置き換えて考えるという「考え方」を示す形とした。

### ④タイトルについて

- タイトルについては、「日本の介護の考え方」「日本の介護の考え方とその進め方」「自立を支援する介護の考え方」「自立を支援する介護の考え方」「自立を支援する介護の考え方とその進め方」など、いくつかの案が事務局から示された。
- 「進め方」という言葉を盛り込んだときに、介護過程の展開の仕方や実践力まで問われてしまうととらえる人がいるとすれば、「介護の考え方」止まりでもよいのではないか。そのときに強調するのは、日本か、自立を支援する介護か、どちらかになる。
- 結論として、『日本の介護の考え方』というシンプルなタイトルがよいとの合意に至り、検討会で諮ってもらったこととした。

### <その他>

- 養成施設の留学生にも読んでもらえるテキストだと思う。介護過程の理論から入るのは難しいので、導入段階のテキストとして使用すれば、理解してもらいやすくなると思う。
- 学部の学生にも有効に使用できる。理解してもらいやすい内容と構成だと思う。

以 上



## 7. 編集会議

### (1) 第1回編集会議の議事内容

#### ●開催日時・場所

平成28年12月21日(木) 17:30～19:30  
横浜タイヨウビル 会議室

#### ●議 題

- 1 第1回検討会における確認事項
- 2 ヒアリングを通じての検討事項
  - ・学習支援ツール活用の前提について
  - ・今回検討すべき事項について
  - ・今後検討すべき事項について
- 3 原稿作成にあたっての再検討事項
  - ・目的を明確にするための工夫について
  - ・本文内容・表現上の工夫について
  - ・理解を促すための編集上の工夫について
  - ・その他

#### ●出席者

- <委員> (以下、五十音順)
- ・石本淳也 (日本介護福祉士会 会長/検討会 委員長)
  - ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事/教材開発部会 部会長)
  - ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)
- <オブザーバー>
- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)
- <事務局>
- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
  - ・中央法規出版

#### ●主な議事内容

##### <第1回検討会における確認事項>

- 事務局より、平成28年11月4日に開催された検討会で確認された事項を再度確認するなかで、改めて、今回の学習支援ツールが「介護過程の考え方の理解」を手助けすること

を目的として作成するものであることが共有された。

#### <ヒアリングを通じての検討事項>

##### ① 学習支援ツール活用の前提について

- 入国 1 年目の外国人が不安やストレスを抱えることなく日々の業務にあたるためには、入国前後の講習や OJT において、(日本語の習得のほかに)「一日の介護の仕事の流れや手順」を知っておくことが大切になると考えられる。
- 例えば、技能実習生が 5 年という期間、日本において施設等で介護業務を行うにあたっては、「1 年目に介護の流れや手順を理解する」⇒「2～3 年目のところで、介護過程による根拠に基づいた介護の考え方にふれる」⇒「4 年目以降、そこに磨きをかける」といった整理ができれば理想的である。
- 入国後に技能実習生や、実習生受入れ機関の指導者が使用する学習テキストが、別途作成されることになっている。
- その学習テキストにおいて、介護の専門用語や業務の大まかな流れなどが整理され、OJT などを通じて活用されれば、介護に関する基礎的な知識の担保が図れるものとする。
- こうした介護に関する基礎的な知識の学習を、学習支援ツールを活用した「根拠に基づく介護」を学ぶことの前提と位置づけたい。

##### ② 今後検討すべき事項について

- 学習支援ツールの活用を通じて、技能実習生が日々の仕事をふり返ったり、自分の体験を意識化・言語化したりできれば、大きな学習効果が得られるものとする。
- また、学習支援ツールを活用しながら、受け入れ機関が自職場のなかで、日頃の自分たちの仕事を見直すことも大いに意義あるものとする。
- 「介護の技能」について理解を促進するためには、例えば、外国人を指導・教育する講師の育成や、定期的な学習会の開催など、何らかの仕掛けを検討することも必要ではないかと考える。

#### <原稿作成にあたっての再検討事項>

##### ① 目的を明確にするための工夫について

- 学習支援ツールの「導入」部分で、技能実習生に身に付けてほしい「介護の技能とは何か」について解説する(=自立支援をめざす「介護の考え方」を身に付けてもらう)。
- 併せて、自立支援をめざす具体的な流れ(=介護過程)と、その流れのなかで技能実習生の日常の業務がどのように位置づいているのかも解説する。
- 技能実習生が 3 年目の試験に合格するためには、具体的な介護の流れと、業務を行う理由を理解している必要があり、学習支援ツールがその理解を促進させるものであることを明示する。

## ② 編集上の留意点について

- 本文は平易な言葉で、一文を短く簡潔にし、かみくだいた文章にする（その際、会話文においては敬語の使い方に注意）。
- 場面設定がイメージしやすいように、必要に応じてイラストを入れ込んでいく。
- 用語解説は巻末に一括するのではなく、該当する用語と同じページに掲載して一覧できるようにする。
- 二つの事例に登場する「利用者」がどんな人なのかを、本文に入る前に、イラスト入りで提示する。

以 上

## (2) 第2回編集会議の議事内容

### ●開催日時・場所

平成29年3月8日(水) 13:00~15:30

日本介護福祉士会 会議室

### ●議 題

- 1 第2回訪問ヒアリングの実施概要報告
- 2 論点整理
- 3 今後の流れ

### ●出席者

<委 員> (以下、五十音順)

- ・岩崎京子 (社会福祉法人足立邦栄会 相談員)
- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事/教材開発部会 部会長)
- ・竹田幸司 (田園調布学園大学 講師)
- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・中央法規出版

### ●主な議事内容

<第2回訪問ヒアリングの実施概要報告>

○事務局より、第2回訪問ヒアリングの実施概要について説明がなされた。主なポイントは次の通り。

- ・第2回訪問ヒアリングの目的
- ・訪問先、訪問日程
- ・ヒアリング内容 (テキストの感想・改善点)
- ・ヒアリングで出た意見及び各部会の委員等からの意見を受けて、テキストの議論すべき論点の説明

<論点整理>

#### ① レイアウトについて

○「まとめ」が目立ちすぎるため、読者はそれを先に読んでしまい、本文を読まないのでは

ないかとの懸念があり「2章と3章の各節に配置している「まとめ」の欄を、右頁のもう少し下方に置いてはどうか」との意見があった。

- しかし、逆に「まとめ」を先に読んでから本文を読むほうが、本文で言いたいことが先になり、理解が深まるという側面があることや、イラストが「まとめ」に対応して作成されている部分もあるため、「まとめ」よりも先にイラストがあることに違和感が生じる。
- そのため、掲載位置は変更せず、吹き出しの間にゆとりを持たせるなどして、極力「まとめ」が下部に来るように配慮する。

## ② イラストについて

- 「イラストの場面がすぐ理解できるよう、イラストにキャプション（＝場面を説明する見出し）を入れてはどうか」との意見があった。
- しかし、イラストは本文を補足するためにあるもので、キャプションをつけなければ内容が分からないイラストでは意味がない。そのため、イラストを書き換えたり、セリフを入れたりして、イラストが本文の内容を表していることが、よりわかりやすく読み取れる内容とすることで対応する。
- 排泄介助の場面では、介助者がエプロンや予防着のようなものを着ていたほうがよい。
- その他、現場で通常しているであろう格好等について、編集委員と相談のうえ、必要に応じて変更を加える。

## ③ 用語解説について

- 側注の用語解説として、取り上げる必要性のある用語の指摘がいくつかあったが、ヒアリング先で、そのような意見は出なかったため、特に解説を加えることは考えない。

## ④ 登場人物の紹介について

- 登場人物の区別がしにくい、もくじに登場人物の紹介があれば、親しみがわき読んでみようと思えるのではないかとの理由から、「2章と3章に登場する実習生と指導者を、もくじにイラストを置く形で簡単な紹介をしてはどうか」との意見があった。
- 本文で登場する事例は、特に登場人物の紹介がなくても影響がなく、逆に登場人物のプロフィールを覚えることに意識が向き、本文の理解を妨げる可能性もあるため、もくじに何かしらの変更を加えることはせず、登場人物のイラストをより特徴のある人に変更し、区別をつきやすくすることで対応する。
- また、2章に登場する山田さんの初登場頁において、側注で山田さんのイラストと、簡単なプロフィールを掲載する。

## ⑤ 「自立支援」という概念の位置づけについて

- 1章において、『自立支援をめざす介護』という見出しを立てているが、この表現をどの

ように解釈し、本テキストのなかでどのように位置づけるか議論がなされた。

- 「自立支援」というのは、利用者の尊厳を確保し、自立をめざすための手段であるため、「自立支援をめざす」と表現するのには違和感がある。
- 利用者が「自立した生活」を営めるよう支援するのが介護職の役割であるため、テキストでは「自立を支援する介護」という表現を使用することとする。

#### ⑥ 介護目標の設定について

- 佐藤さんの介護目標が「人とかかわる機会をふやす」でよいかどうか意見が出された。
- 人とかかわる機会をふやすこと自体が目標なのではなく、「ふえることによって、どのような生活を送れるようになるのか」が本来の目標の意義ではないか。
- そこで、事務局から例示として挙げられていた、「人とかかわる機会がふえ、楽しく生活を送れるようになる」という表現を採用することとする。
- また、長期目標・短期目標をプロフィールのところで表現してはどうかとの意見があったが、今の段階で取り入れるのは困難であるため、そういう考え方があるということについて「実習指導者へのメッセージ」に盛り込む。

#### ⑦ 本文内容について

- 2章と3章の利用者紹介ページ（p.3、19）に「支援方法」も入れてはどうかとの意見があり、検討の結果、文字数が多いことに配慮したうえで入れる工夫をする。
- 介護計画という言葉について、ヒアリング先では「ケアプラン」という表現を一般的に使っているとのことであった。しかし、「介護計画」と「施設サービス計画書」とは違うことを明確にするため、「介護計画」に統一する。

#### ⑧ 「考えてみよう」の答え（例）について

- 「考えてみよう」の答え（例）については、そもそも実習生が担当する利用者それぞれに内容が違うため、答えの例を明示するのは難しい。
- 答えは実習施設のなかでしか確認できないので、「自分で考えたうえで実習指導者に確認してください」という旨を解答として用意するという方針をとる。

#### <今後の流れ>

- 学習支援ツールの表紙のデザイン案については、調査部会・検討会の場で決めていただくこととする。
- 事務局から本日の編集会議とこの後の調査部会、そして3月15日の検討会・教材開発部会を受け、内容の間違いや過不足がある場合、事務局から連絡をし、対応をしていただきたい旨の連絡があった。

以上

# IV

## 資料編





## 事業概要（案）

### 1 趣旨

技能実習制度が介護分野に追加された際、実習生に自立支援等の視点に基づいた介護過程の展開等の考え方を確実に習得いただくため、実習生が自己学習で活用いただける教材を開発する

### 2 教材作成の方針

#### (1) 設定レベル

入国2・3年目の実習生（一定期間、わが国の介護実践のある者）で、初任者研修程度のレベルを想定

#### (2) 構成案

わが国で実施する介護が、自立支援等の視点に基づいた介護過程の展開等の考え方であることを理解いただくことに焦点化させ、次の内容で構成する。

- ・ 介護に係る専門的な知識や技術を項目立てて解説するものではなく、
- ・ 設定した事例（介護現場で行われている介護）の一場面を切り取り、それぞれの介護がどのような根拠で展開されているのか等を、実習生と実習指導者の対談形式で解説するものとする
- ・ 解説する内容には、人間の尊厳、自立支援、倫理等の視点を盛り込むこととする
- ・ 事例は、高齢者施設と障害者施設の2つを用いることとする

#### (3) 体裁

B5判 50頁程度

### 3 検討会の設置

#### (1) 検討会

全体の統括する役割を担う

#### (2) 調査部会

EPA 介護福祉士候補者等の外国籍の介護職やその指導者に対してヒアリングを実施・整理する役割を担う

※ ヒアリングは、作成前（訪問）、作成途中（集合）、作成後（訪問）で実施を想定

#### (3) 教材開発部会

検討会の方針に従い、調査部会で実施したヒアリング結果等を踏まえ、実際に教材の執筆を行う役割を担う

以上

平成 28 年 12 月 21 日

打合せ用資料

### 技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた学習支援ツールの開発

#### (1) 第1回検討会(平成28年11月4日)における確認事項

- ・ 今回の学習支援ツールは、「介護過程の考え方の理解」を手助けすることを目的として、作成するものである。
- ・ その背景の一つとして、技能実習制度において移転すべきなのは「介護の技術」ではなく、「介護の技能」であるという制度の建て付けがある。つまり、「介護の技能」とは、物理的な技術そのものではなく、根拠に基づく介護過程の展開の考え方である。
- ・ 学習支援ツールの作成にあたっては、介護過程の展開を通じて、「尊厳の保持」や「自立支援」といった日本の介護の特徴にふれられる内容とする。
- ・ また、日本の介護というものは、淡々と日々の業務をこなすものではなく、きちんとした意味や根拠があって行われているものであるということを理解してもらえる内容とする。
- ・ 以上の内容を伝えるために、テキストの紙面構成としては、介護現場で行われている事象を切り取り、「どうしてこういうことをしているのか」について、技能実習生と先輩介護職員との会話から紐解いていく。
- ・ テキストの主な対象者は入国 2～3 年目の技能実習生とし、設定レベルは初任者研修程度とする。
- ・ テキストの活用方法としては、技能実習生自身が自宅などで自己学習することを想定している。

#### (2) ヒアリングを通じての検討事項

##### ① 学習支援ツール活用の前提について

- ・ 入国 1 年目の外国人が不安やストレスを抱えることなく日々の業務にあたるためには、入国前後の講習や OJT において、(日本語の習得のほかに)「一日の介護の仕事の流れや手順」を知っておくことが大切になると考えられる。
- ・ 例えば、技能実習生が 5 年という期間、日本において施設等で介護業務を行うにあたっては、「1 年目に介護の流れや手順を理解する」⇒「2～3 年目のところで、介護過程による根拠に基づいた介護の考え方にふれる」⇒「4 年目以降、そこに磨きをかける」といった整理ができれば理想的である。
- ・ また、入国後に技能実習生や実習生の受け入れ機関の指導者が使用する学習テキストが、別途作成されることになっている。

## 資料2

- ・その学習テキストにおいて、介護の専門用語や業務の大まかな流れなどが整理され、当該テキストが OJT などを通じて活用されれば、介護に関する基礎的な知識の担保が図れるものとする。
- ・こうした介護に関する基礎的な知識の学習を、学習支援ツールを活用した「根拠に基づく介護」を学ぶことの前提と位置づけたい。

### ② 今回検討すべき事項について

- ・ヒアリングを通じて得られた意見をもとに、学習支援ツールの編集作業を進めるにあたり現段階において検討すべき事項としては、次の4点が挙げられる。
  - ① 目的を明確にするための工夫
  - ② 本文内容・表現上の工夫
  - ③ 理解を促すための編集上の工夫
  - ④ その他

### ③ 今後検討すべき事項について

- ・学習支援ツールの活用を通じて、技能実習生が日々の仕事を振り返ったり、自分の体験を意識化・言語化したりできれば、大きな学習効果が得られるものとする。
- ・また、学習支援ツールを活用しながら、受け入れ機関が自職場のなかで、日頃の自分たちの仕事を見直すことも大いに意義あるものとする。
- ・「介護の技能」について理解を促進するためには、例えば、外国人を指導・教育する講師の育成や、定期的な学習会の開催など、何らかの仕掛けを検討することも必要ではないかと考える。

## (3) 原稿作成にあたっての再検討事項

### ① 目的を明確にするための工夫について

- ・介護過程の流れに沿って話を進めていくのであれば、介護過程の展開プロセスそのものを冒頭でわかりやすく説明する必要があるのではないかと考える。
- ・技能実習生にとって、日々の自分の仕事とテキストの内容とがどのようにつながっているのか、意識できるようにしたほうがよい。そのためにはどんな工夫が必要かと考える。

### ② 本文内容・表現上の工夫について

- ・技能実習生と先輩介護職との会話を簡潔にすることで、話の流れが飛躍する恐れがある。その一方で、丁寧で細かな会話にすると、紙面上の文字の量が多くなってしまふ。どこに落とすところをつくるか。

## 資料2

- ・実際には、技能実習生が1人で介護過程の展開を行うわけではない。そのため、テキストの場面設定における行為の主体を誰にするか、再度確認してはどうか。  
具体的には、情報を収集するのは誰か、課題を分析するのは誰か、介護計画を作成するのは誰か、介護計画に基づいて援助を実施するのは誰か、実施した援助を評価するのは誰かなど。

### ③ 理解を促すための編集上の工夫について

- ・今以上に、場面設定がイメージしやすい形でイラストを掲載することは可能か。
- ・各事例に登場する「利用者」がどんな人なのかを、本文に入る前に、イラスト入りで提示してもよいのではないか。
- ・各事例に登場する「実習生」と「先輩職員」に、それぞれ名前をつけることは可能か。
- ・「用語解説は、巻末に一括するのではなく、該当する用語と同じページにあるほうがよい」との意見あり。
- ・『「まとめ」の箇所を強調したデザインとして、そこだけを見ても容易に理解できるような工夫をしてはどうか」との意見あり。

### ④ その他

- ・学習支援ツールの具体的な活用方法をどこかに明示することで、活用の促進が図れるのではないか。

## 資料3

### 第1回訪問ヒアリング実施概要

#### 1. 実施目的

調査研究事業を通じて、自立支援等の視点に基づいた「介護過程の展開」の考え方を確実に技能実習生に習得していただくために、実習生が自己学習で活用いただける教材を開発したいと考えています。

そこで、訪問ヒアリング（1回目）では、そうした教材開発にあたって、①活用しやすい教材内容とは何か、②活用しやすくするためにはどんな工夫が必要かというご意見を、すでに日本で介護について学んでいる外国籍の方、また、その教育指導担当の方からお聞きすることを目的としています。

#### 2. 実施方法

- 3名程度の調査員が各施設・事業所等を訪問し、「EPA 介護福祉士候補者（就労2年くらいまで）」または「身分に基づく在留資格をもつ介護職員」（以下、「EPA 候補者等」）、その教育指導担当者（以下、「指導者」）等に、1時間程度、お話を伺った。
- 具体的には、最初に指導者とお話をし、その後、EPA 候補者等に加わっていただいて、両者が揃った形で当事者からのヒアリングを行った。
- 「日本の介護に対する理解度」「日本の介護を理解するための学習方法」、また「開発するテキストのあり方」などについて、忌憚のないご意見をお聞きした。
- ヒアリング終了後、可能な範囲で、EPA 候補者等が現場で働いている様子を見学させていただいた。

#### 3. 実施実績

別添資料参照

## 第1回訪問ヒアリング実施対象施設・事業所一覧

実施日 (平成28年)	12月7日(水)	12月9日(金)	12月15日(木)	12月18日(日)	12月20日(火)	12月26日(月)
実施施設 (所在地／主な施設形態)	あそか苑 (兵庫県伊丹市／特別養護老人ホーム)	社会福祉法人清峰会 浅草ほうらい (東京都台東区／特別養護老人ホーム)	社会福祉法人伸こう クロスハート幸・川崎 (神奈川県川崎市／特別養護老人ホーム)	ピーエムシー株式会社 (新潟県三条市／人材育成・派遣会社)	社会福祉法人福祉楽 団 杜の家くりもと (千葉県香取市／特別養護老人ホーム)	社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞 夢 (京都府舞鶴市／地域密着型介護老人福祉施設)
協力者(指導者)	・河原 綾氏(苑長) ・ダン理恵氏(日本語講師)	・草薨嘉臣氏 (介護係長)	・小野美代子氏	・谷 晴夫氏 (代表取締役)	・上野興治氏 (サポートセンター コーチ)	・上野由香子氏 (施設長)
協力者(外国人)	平成26年 (2年経過したところ)	平成22年 (6年目)	平成18年 (職歴は2年目)	全員5～6年程度	①平成27年、②平成24年・25年	来日30年
在留資格等／母国	いわゆるEPA介護福祉士候補者／フィリピン	いわゆるEPA介護福祉士／フィリピン	身分に基づく在留資格／中国	身分に基づく在留資格／フィリピン	いわゆるEPA介護福祉士候補者／①ベトナム、②インドネシア	身分に基づく在留資格／
調査部会／事務局 参加者 (オブザーバー)	稲垣委員、橋本委員 ＜事務局＞松下、中央法規	内田部会長 ＜事務局＞中央法規 (伊藤介護福祉専門官)	橋本委員 ＜事務局＞松下、中央法規	＜事務局＞松下、中央法規	＜事務局＞松下、中央法規 * NHKの取材同行	稲垣委員 ＜事務局＞松下、中央法規

## 第1回訪問ヒアリング実施結果

### 1. 訪問ヒアリング（1回目）のおもなヒアリング項目

#### (1) EPA 候補者等にお聞きしたこと

- 日本の介護に対する理解度
- 日本の介護を理解するための学習方法
- 日本の介護を理解することの難易度
- 自己学習におけるテキスト活用の有効性
- 特にサポートが必要な学習内容

#### (2) 指導者にお聞きしたこと

- 日本の介護に対する理解度
- 日本の介護を教えるための方法
- 日本の介護を教えることの難易度
- 自己学習におけるテキスト活用の有効性
- 特にサポートが必要な学習内容
- 学習会におけるテキスト活用の有効性

### 2. ヒアリングで出されたおもな意見

別添資料参照

ヒアリングで出された主な意見(指導者)

質問項目 協力施設 (会社・法人)	介護全体について		よいと思う点
	普段、どのような指導を行っているか	指導が難しかった内容 理解が難しかった内容について	
あそか苑 (兵庫県伊丹市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護技術については、OJTのなかで実際に見せて、それを真似するところから理解してもらっている</li> <li>ある程度の技術を行うなかで、「この人に対して、どうしてそれをしなければならぬのか」を、指導者がその都度教えている</li> <li>1年あれば、おんな介護技術の習得は問題なくできると思う</li> <li>いつの時期から「日本の介護」を教えるというよりは、日頃の業務を通して自然に理解してもらっている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「なぜ、そういう介護を行うのか」を理解するのは、1年ではなかなか難しい。1年目は言われたことを行い、2～3年目で、「この人にはどうしてあげよう」という気持ちが出てくる</li> <li>現場の仕事と理論とを結びつけるのが、なかなか実際には難しい</li> <li>例えば、自立支援をしようと思うと時間がかかる場合がある。しかし、就業時間は決められている。その時間内にどれだけ自分が自立支援に関われるかというところで、ジレンマに陥ることがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話形式にして読みやすくなった点はよい</li> <li>EPAで入国2年目の候補者であれば、読むことはできると思う</li> </ul>
浅草ほうらい (東京都台東区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習計画」上、1年目は生活と日本語に慣れることを第一目標にしている。2年目は専門日本語と文法・長文の理解、3年目は受験対策となっている</li> <li>1年目の最初の3か月で、日本語以外に、徹底的に基本介護技術を学んでもらう。その後、4か月目以降に利用者に接してもらい</li> <li>基本介護技術を教えたあと、日本の介護の考え方を教える。そのあとさらに技術に立ち戻る。それを3か月の間に3～4回繰り返すことで、理念と実践を組み合わさり、知識と技術が定着する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者にはお世話をしてあげなければならない」「高齢者は弱っている人が多い」という意識が強かったため、そうではないところから理解していった</li> <li>上記のような意識は、母国の文化的背景も大きな要因だと思われる</li> <li>例えば、コップが持てるかどうかは、実際に利用者にやらせるところから始まる。自ら先に手を出すのではなく、「介護は我慢だ」というところから教えた</li> <li>自立支援という言葉は知っていても、具体的にどんな介護なのかという想像がついていない。ちょっと支えるだけで、あとは本人の力が使えれば自立支援になる。そのことをしっかり教えないと、間違った方向で覚えてしまう</li> <li>日本人独特の「あんばい」「よい加減」という感性や感覚は理解しづらいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>色がついていて見やすい</li> <li>見開き2頁で終わるところは、簡潔であり、読みやすいと思う</li> </ul>
クロスハート幸 (神奈川県川崎市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入職段階の研修ではロールプレイを取り入れて、「いきなり触らない」「見えないところから声をかけない」などの体験してもらっている</li> <li>一定の状況設定のもと、自分でやってみる、やらせてみる、感じるという体験を大切にしている</li> <li>年に3回、外国人が定期的集まり、ざっくばらんな意見交換ができる機会を設けている。それとは別に年に1回、集合研修は行っている。集合研修の内容としては、拘束をしない介護、日本の文化の説明、法規的な理解などを取り上げている。そのときには、英語・中国語・スペイン語の通訳をつけるようにしている(=年に一度は、母国の言葉で学習できる機会を設けている)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活で用いる言葉ではなく、理論的に考えていく言葉についてはなかなか理解が難しい</li> <li>利用者の名前(日本語の名前)を覚えてもらうことが最初のハードルになっている</li> <li>利用者を自分の家族のように思い、馴れ馴れしく接していることが、必ずしもよいことではないこと、つまり、日本の介護では人権や尊厳というものを大切にしているということをきちんと説得力をもって説明するのは簡単ではない(文化的な背景も要因か?)</li> </ul>	
ピーエムシー (新潟県三条市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>まず最初に、「一日の仕事の流れ(=介護の手順)」と、よく聞く「介護の言葉」を、自社で開発した指導用テキストとDVDを用いて教えている。この導入教育が非常に大切</li> <li>介護の現場で3～4年勤められれば、そこに磨きをかけていくことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務が忙しいなかで、強制的に勉強会を行っても、参加者は少なくなってきた。最終的には、本人のモチベーションは非常に大きい要素。その壁をどう乗り越えるか</li> <li>初めに日本語や、介護の業務の流れを覚えてもらい、不安感をなくさない知識は頭に入っていない。介護の手順を一定程度身につけたうえで、少なくとも4年目以降でないと、介護の根拠は理解できないのではないかと</li> </ul>	
社の家くりもと (千葉県香取市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程を展開する前提となる「あり方」や「志」が大切。PDCAサイクルは日頃やっていることなので、やりながらテキストを読んで理論を学び、知識と理論を結びつけることはたやすいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人だからということで指導が難しかったことは、あまり感じることはない</li> <li>法人として「多様性を受け入れる」ことを理念としているので、日本人職員に対しては、外国人への距離の取り方についても、個人として普通に接することを伝えている</li> <li>外国人の場合、気づけるけれども記録として書くことができないので、記録の量は少ない</li> <li>日本語の習得や資格の取得を至上命題にすることなく、「ケアであなただけが何をしたいのか」ということを引き出してあげたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ぱっと見た感じでは、きれいにまとまっていてわかりやすいと思う</li> </ul>
ライブ・ステージ 舞夢 (京都府舞鶴市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>舞鶴はもともと在日外国人が多い土地柄であった。その人たちは、地域のなかのマイノリティな存在として生きにくさを抱えていると思われた。その人たちに法人主催のヘルパー養成研修を受講してもらい、日本人同等の資格をとり、就業してもらい、自立した生活を送ってもらおうようにしたのが発端(=その意味では、介護分野の就労支援を目的とした取組み)</li> <li>介護の手順については、業務の中で、時間をかけて一つひとつくり返し教えている。その期間は最低でも1年程度。介護の根拠を教えるのは2年目以降</li> <li>1年目に介護の手順を教えてもらうなかで、外国人にも「どうしてこういうやり方なの?」という疑問は出る。その疑問に答えるのがOJTの役割。2年目になると、ほぼ根拠というものもおぼろげにはできている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受講者の多くは、生活のために介護現場に入ってくる人がほとんどなので、勉強は二の次になってしまうことは否めない。勉強だけをガンガンやっていると、途中で音を立てて続かない</li> <li>宗教や文化などを背景にして、弱い人を助けるという気持ちは強い人たちなので、介護過多になる傾向はあると思う。その意味で、自立支援は理解しにくい。理解してもらうためには、よかれと思ってやったことは必ずしもそうでないということを、時間をかけて、現場でくり返し教え込んでいくしかない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習生と指導者を会話をとおして、日々の業務を振り返り、整理することができるスタイルはとてもよいと思う</li> </ul>



テキストについて		その他
悪い点(気になる点)と改善点 その他読みやすさへの提案	このツールで自己学習は可能か	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・字が多いと、なかなか自分でテキストを開いて読むことはしない</li> <li>・漫画形式にしたり、一番伝えたい部分にイラストが使われていたり、視覚的にわかるつくりにするとういと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定されている日本語レベルの実習生にとっては、自己学習は難しいのではない</li> <li>・日本語レベルに加え、通常の業務がある中で、ただテキストを渡すだけでは読んでもらえないと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の壁はとても大きい</li> <li>・スタッフ以外のところで、日本語の面、生活の面、介護の面でサポートしてくれる「学習指導者」の存在は大きい</li> <li>・「最初に座学 → 現場で技術の習得 → さらに座学でフィードバック」という形式が効果的である</li> <li>・言葉と行為が結びついて初めて知識は定着する。結びつかなければ、イメージもできないし、理解もできない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭の「場面設定」と「基本情報」のデザインが一緒に、どちらが大事なかわからず混乱してしまうと思う</li> <li>・大事な語句は目立たせてほしい</li> <li>・見出しは数字の形をそろえるなど、どの章(節)のレベルの見出しなのかを明確にしてほしい</li> <li>・登場人物は「Aさん」と記号表記にするより、実際の名前を入れたほうがよい</li> <li>・子ども向けの漫画学習教材のよう、絵があるほうが読みやすいし、一人でも読む気が起こると思う</li> <li>・本を開いたときに、親しみやすいストーリーであることが見出しレベルでわかれば、読もうという気になるのではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れ施設側の体制にもよる面が大きいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字は読めても、カタカナがわからないというケースが意外と多い</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当施設では約1200人の全スタッフのうち、46名の外国人がいる。そのほとんどが配偶者ビザをもっており、すでに生活の基盤はできている人たちである。そのため、オーラルのやりとりはできたり、言葉(音)で理解することはできる反面、読み書きができない人は多い。そうした人たちにとって、今回の教材は読むのが難しいと思われる</li> <li>・自分にとって身近な言葉や普段日常的に使っている言葉は、他者から難しいと思われる言葉でも、比較的優しく感じるため、そうした言葉を多用してほしい</li> <li>・状況設定があって、自分でやってみる、考えてみるという仕掛けが必要ではないか</li> <li>・今自分がやっていることと、テキストの内容とが結びつかないと理解が難しい</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の共有はiPadを活用している</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定される日本語レベルの方では、このテキストを読むのは難しいのではない</li> <li>・文章表現は、とにかくかみくだいたものにするのが重要になる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者なしで、一人でこのテキストを読むのは難しいのではない</li> <li>・このテキストを用いて勉強するためのモチベーションとなるものを設けたほうがよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辞めないで済む人を辞めさせないようにするためには、きちんとした新人教育が重要。新人教育は、実は指導者育成にもつながる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場では、利用者の気持ちや思いを感じ取り、それをケアという行為に表現できる人はたくさんいると思う。反面、理論を体系化して学ぶことは苦手な人が多い。これら両方向からアプローチできるテキストがあるとありがたい</li> <li>・自分が体験したこととテキストの内容とが繋がれば、テキストは如何にも活用できる</li> <li>・五感に訴える意味から、動画をつけてはどうか。例えば、DVDで利用者像を見せるなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフレクションをしながらテキストにつなげていくということを試験的にでもやってもらえれば…。多くの外国人は、日本語を学んでも「概念としての日本語」でしかない。体験したことと日本語が繋がれば、より身体に染み込むはずである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OJTを通じて体験を積み重ねたときに、自分たちの言葉(母国語)でリフレクションできるような場を設けることが大切だと思う。リフレクションして自分たちが感じたことを言語化・意識化したうえで、そこに理論がついてくると入りやすい</li> <li>・日本語で日本の理論を覚えることが至上命題になるのはどうか</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば「褥瘡」という言葉も、「じょくそう」という音を聞けばわかる。しかし、字面だけを見るとそれが結びつかない</li> <li>・文章はかみくだいた表現で、日々使われている言葉を用いることが重要。専門的な熟語は苦手。例えば、「服薬介助」といわれても理解できないが、「薬を飲んでもらうための介助」とすれば日頃の業務と結びつく</li> <li>・会話の最後を、何が言いたかったのかが分かるような文章を置いてほしい。その「言いたいこと」を、「まとめ」の内容とリンクさせてほしい</li> <li>・このテキストに加えて、指導用の指導マニュアルなどあれば使いやすく、教えやすい。また、DVDなど、視覚からも理解できる仕掛けがあるとありがたい。映像があると、場面設定が理解しやすくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が明確で、ここまでくれば何かしらそれに見合うフィードバックがあると、非常に頑張る傾向にある。何もなければ勉強はしないし、しなくてもいいと思ってしまう。テキストに関連させて試験やチェックを行うようにすれば、テキストを活用してくれるのではない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受け入れる側の日本人スタッフの教育も大切である</li> </ul>

ヒアリングで出された主な意見(外国人)

質問項目 協力施設 (会社・法人)	日本の介護について		
	日本の「介護」のイメージ 母国の「介護」との違い	介護の専門性(根拠のある介護)を いつごろ、どうやって知ったか	日本の介護で「難しい」と思ったこと は何か
あそか苑 (兵庫県伊丹市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>入国前に、現地でDVDなどを見て日本の介護を学んだ。そのときの印象は、施設に家庭のような雰囲気があることがすごいと思った</li> <li>日本に来てから感じたことは、福祉機器が充実していること。例えば、機械浴や、車いすを乗せることのできる福祉車両は、母国にはない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分がしてほしくないことは、利用者に対してもしない」「利用者の状況を把握しながら介護をする」などの基本的な考え方は、施設の指導者や先輩職員が働くなかで教えてくれた</li> <li>自立支援の考え方は、導入研修の際に初めて学習した。その後、施設で働き始めて、自立支援を意識しながら仕事をするようになった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>勤務するフロアにはショートステイがあり、そこでは毎日「どんな対応が必要か」を考えなければ適切な対応ができないこと</li> <li>2年経過しても、介護の全部を理解しているわけではない。わからないときは、ほかの職員に聞くようにしている</li> <li>「ここまですたら虐待になる」など、やってはいけないことの基準が難しいと思った</li> <li>EPA候補者によっては、専門用語がわからなかったり、漢字が読めなかったりするために情報が集められず、うまく対応できないこともある</li> </ul>
浅草ほうらい (東京都台東区)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本に来る前にテキストをたくさんもらい勉強していたので、最初にもった介護のイメージと実際とで大きな違いは感じなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援などの考え方は、①母国での研修、②日本に来てからの導入研修、③配属先の施設、という三段階で学習した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本に来てから言葉がうまく通じなかったため、職員からの指示や利用者からの頼まれごとが理解できず、困ったことはあった</li> <li>言葉が通じないことでいえば、利用者の情報を収集することがとても難しかった</li> <li>自立支援や残存能力という言葉は知っていても、いざ利用者を目の前にすると、つい手を出してしまうことがあった</li> </ul>
クロスハート幸 (神奈川県川崎市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国(母国)の老人ホームは、完全に自立している人が9割以上いる。日本は要介護度が高い人が多いため、しなければならぬ作業も多かった</li> <li>日本では利用者の希望によって支援の方法を変えていくところはいいと思った</li> <li>中国の施設は、職員の言葉遣いが少し乱暴なところがあった(TVを見て)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入社前に介護の単語の本を読んで勉強した</li> <li>施設に入所してからは職員から一つ一つ覚えていった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬の名前を覚えること</li> <li>認知症の人に対するケア。どういふ風に接していいかわからない。どんな言葉かけをすればよいかかわからない</li> <li>利用者さんの気持ちを理解すること</li> <li>*食べたくないという利用者に対して何なら食べてくれるかを考えることは難しい</li> </ul>
ピーエムシー (新潟県三条市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本には一人暮らしの高齢者がいることに驚いた</li> <li>当初は施設に入所している高齢者を「かわいそう」と感じた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業をしながら一つ一つ学んだ</li> <li>期間については人それぞれだと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉がわからず他の職員とのコミュニケーションが取れないので、うまくチームワークを取ることができなかったこと</li> <li>利用者の名前(日本語の名前)を覚えること</li> </ul>
杜の家くりもと (千葉県香取市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本は施設が多い。インドネシア(母国)では、家族が介護をするため、施設が少ない</li> <li>毎日お風呂に入るため、家にお風呂がついているなど文化の違いがある</li> <li>ベトナム(母国)では所得が高い人しか施設に入れないところが日本と違う。社会保険の有無も影響していると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の介護になれるまでには2か月～3か月くらいかかった</li> <li>自立支援の理解には1か月くらいかかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉が通じないことで、うまくチームワークがとれないこと</li> <li>日本語の使い方が一番難しい</li> <li>*特に助詞の使い方や方言</li> <li>制度や法律を覚えることや、利用者などの社会保険を利用しているか</li> <li>*記録を書くこと(また、ケアプランを立てること)</li> </ul>
ライフ・ステージ 舞夢 (京都府舞鶴市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>年を取ったらすぐに施設に入るという印象があった</li> <li>施設に入れられて「かわいそう」と思っていたが、今は、かえって幸せになっているのではと感じる。施設では様々な人との交流があるため</li> <li>母国では、家族や地域で介護をしている</li> <li>リフト浴(機械浴)などの設備があることはすごいと思った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に行われる勉強会で学んでいる</li> <li>わからない言葉は辞書(電子辞書)やインターネットで検索して調べている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉が通じないこと</li> <li>やってあげるのではなく、なぜ利用者自身にやってもらうのかということを最初は理解できなかったこと</li> <li>*母国の考え方や文化が影響していると思う。「かわいそう」と思う。私たちがやればいいのに、と思う</li> <li>*最初は私もそう思っていたが、ヘルパーの資格を取り、長く経験しているのでわかるようになった</li> </ul>

テキストについて		その他
全体の感想・見やすさ等について	漢字や専門用語などの難易度 また、どうすれば改善すると思うか	
<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験対策で使われている書籍に比べると読みやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私は読むことができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人によって違うと思うが、自分の場合は、グループ学習よりも個人学習のほうが好きである</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>レイアウトは読みやすい</li> <li>余白を埋めるためだけの「捨てカット」は少ない</li> <li>ただし、本文の内容を表すようなイラストは、あるとわかりやすいと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療用語や病気の名前は難しい</li> <li>ふりがながあれば読むことはできる</li> <li>英語(母国語)が併記されているとわかりやすい</li> <li>用語解説は、別頁にあると探しにくい。できれば同じ頁に入れてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の勤務先が福島だったので、方言がわからずに困った</li> <li>食事のときの配膳(箸や茶碗を置く位置)など、日本の文化はわからなかった</li> <li>国家試験の問題すべてにふりがながふってあると、文字がたくさんあって、かえってわかりにくい(大事な言葉だけで十分)</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な言葉が太字になっているところがわかりやすい</li> <li>文字の大きさはこのままでよい</li> <li>絵をつけるとすれば、本文に関係のある絵を載せたらわかりやすくなると思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(中国語と共通なので)意味は分かるが、読み方が分からない時がある</li> <li>病気や介護についての専門用語に説明をつけてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(指導方法について)最初は日本語を徹底的にやったほうがよいと思う</li> <li>自立支援の概念・人としての尊厳も、実際の現場だけでは伝わらないので教えたほうがよいと思う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>文字の量は少ないので、ほかのテキストよりは読みやすく、わかりやすい</li> <li>職場で教わっても、忘れてしまうこともある。その時に振り返るためのツールとしてこのようなテキストは必要だと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字が多く、わからない言葉はたくさんある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周囲に一つ一つ教えてくれる人がいると助かる</li> <li>住んでいるアパートと一緒に教えてくれる人がほしい</li> <li>母国で自分の親をうまく介護できなかったため、利用者を自分の親だと思って介護をしている</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者とのやり取りが楽しい</li> <li>自国の祖父母に介護をしているようで楽しい</li> <li>言葉の勉強を最初にやるべきだと思う</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>字の大きさやレイアウトはみやすい</li> <li>本文の場面を表す具体的な絵があったほうがわかりやすい</li> <li>Aさんの全体像について、会話文に入る前にわかるようにしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふりが名だけでなく、難しい用語には解説をつけてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立支援を理解するためには実際にできるようになっていく過程を見たらうのが一番いいと思う</li> <li>利用者や家族が外国人に対して感じているイメージがよくないことがあり、その時は傷つく</li> </ul>

### 訪問ヒアリングを踏まえた編集方針の整理結果

訪問ヒアリングを通じてみえた、学習支援ツールに関する検討事項の整理・解決を目的として、下記のように「編集会議」を開催した。

- 日 時：平成 28 年 12 月 21 日（水） 17 時 30 分～
- 会 場：横浜タイヨウビル会議室
- 出席者：石本淳也（検討会 委員長）  
内田千恵子（調査部会／教材開発部会 部会長）  
橋本由紀江（調査部会／教材開発部会 委員）  
伊藤優子（オブザーバー）  
松下能万（事務局）  
中央法規出版（同 上）

「編集会議」では、第 1 回検討会において確認された学習支援ツールの目的や使用方法、おもな対象者について再度確認したうえで、①学習支援ツールを活用する前提、②学習支援ツールの編集方針（編集上の留意点を含む）、③学習支援ツールの活用に向けて今後検討すべき事項、について整理した。

#### 1. 第 1 回検討会（平成 28 年 11 月 4 日）における確認事項

- ・ 今回の学習支援ツールは、「介護過程の考え方の理解」を手助けすることを目的として、作成するものである。
- ・ その背景の一つとして、技能実習制度において移転すべきなのは「介護の技術」ではなく、「介護の技能」であるという制度の建て付けがある。つまり、「介護の技能」とは、物理的な技術そのものではなく、「根拠に基づく介護過程の展開」という考え方である。
- ・ 学習支援ツールの作成にあたっては、介護過程の展開を通じて、「尊厳の保持」や「自立支援」といった日本の介護の特徴にふれられる内容とする。
- ・ また、日本の介護というものは、淡々と日々の業務をこなすものではなく、きちんとした意味や根拠があって行われているものであるということを理解してもらえる内容とする。
- ・ 以上の内容を伝えるため、学習支援ツールの紙面構成としては、介護現場で行われている事象を切り取り、「どうしてこういうことをしているのか」について、技能実習生と実習指導者との会話から紐解いていく。
- ・ 学習支援ツールのおもな対象者は入国 2～3 年目の技能実習生とし、設定レベルは初任者

## 資料6

研修程度とする。

- ・学習支援ツールの活用方法としては、技能実習生が自宅等で自己学習することを想定している。

## 2. ヒアリングを通じてみえた検討事項と、その検討結果

### (1) 学習支援ツール活用の前提について

#### <ヒアリングで出された意見>

- 入国段階で、どこまでの日本語を習得しているかが大きな要素になる。
- 介護に必要な言葉や技術は、日常の業務を通じて身に付けてもらえるようにしている。
- 入国間もない段階では、一日の介護の仕事の流れや手順を知ってもらうことが大切である。
- 「介護を行う根拠」が理解できるようになるには、就労してから一定程度の時間が必要である。

- ・入国 1 年目の外国人が不安やストレスを抱えることなく日々の業務にあたるためには、入国前後の講習や OJT において、(日本語の習得のほかに)「一日の介護の仕事の流れや手順」を知っておくことが大切になると考えられる。
- ・例えば、技能実習生が 5 年という期間、日本において施設等で介護業務を行うにあたっては、「1 年目に介護の流れや手順を理解する」⇒「2~3 年目のところで、介護過程による根拠に基づいた介護の考え方にふれる」⇒「4 年目以降、そこに磨きをかける」といった整理ができれば理想的である。
- ・入国後に技能実習生や、実習生受入れ機関の指導者が使用する学習テキストが、別途作成されることになっている。
- ・その学習テキストにおいて、介護の専門用語や業務の大まかな流れなどが整理され、OJT などを通じて活用されれば、介護に関する基礎的な知識の担保が図れるものとする。
- ・こうした介護に関する基礎的な知識の学習を、学習支援ツールを活用した「根拠に基づく介護」を学ぶことの前提と位置づけたい。

### (2) 学習支援ツールの編集方針（編集上の留意点を含む）

#### <ヒアリングで出された意見>

- 勉強をするためのモチベーションとなるものを設けたほうがよい。
- 学習支援ツールの内容が、技能実習生の日常業務と結びつくものにしたほうがよい。
- 文章はかみくだいた表現で、日々使われている言葉を用いたほうがよい。
- 必要に応じてイラストを入れるなど、ビジュアル的にも工夫してほしい。

## 資料6

### ① 学習支援ツールの目的を明確にするための工夫

- ・学習支援ツールの「導入」部分で、技能実習生に身に付けてほしい「介護の技能とは何か」について解説する（＝自立支援をめざす「介護の考え方」を身に付けてもらう）。
- ・併せて、自立支援をめざす具体的な流れ（＝介護過程）と、その流れのなかで技能実習生の日常の業務がどのように位置づいているのかも解説する。
- ・技能実習生が3年目の試験に合格するためには、具体的な介護の流れと、業務を行う理由を理解している必要があり、学習支援ツールがその理解を促進させるものであることを明示する。

### ② 編集上の留意点

- ・本文は平易な言葉で、一文を短く簡潔にし、かみくだいた文章にする（その際、会話文においては敬語の使い方に注意）。
- ・場面設定がイメージしやすいように、必要に応じてイラストを入れ込んでいく。
- ・用語解説は巻末に一括するのではなく、該当する用語と同じページに掲載して一覧できるようにする。
- ・二つの事例に登場する「利用者」がどんな人なのかを、本文に入る前に、イラスト入りで提示する。

### (3) 今後検討すべき事項について

#### <ヒアリングで出された意見>

- 通常の業務があるなかで、学習支援ツールをただ渡すだけでは読んでもらえない恐れがある。
- 自分たちが職場で実践したことをふり返る場を設け、理論と実践を結びつける機会をつくったほうがよい。
- 技能実習生を受け入れる側の日本人のスタッフの教育も重要になってくる。

- ・学習支援ツールの活用を通じて、技能実習生が日々の仕事をふり返ったり、自分の体験を意識化・言語化したりできれば、大きな学習効果が得られるものと考える。
- ・また、学習支援ツールを活用しながら、受け入れ機関が自職場のなかで、日頃の自分たちの仕事を見直すことも大いに意義あるものと考える。
- ・「介護の技能」について理解を促進するためには、例えば、外国人を指導・教育する講師の育成や、定期的な学習会の開催など、何らかの仕掛けを検討することも必要ではないかと考える。

## 資料7

### 集合ヒアリング実施概要

#### 1. 実施日時

平成29年1月17日(火) 14:00~16:00

#### 2. 実施場所

日本介護福祉士会 2階会議室

#### 3. 実施内容

- ・訪問ヒアリングを踏まえた編集方針の確認
- ・編集中のテキスト案に対する意見交換
- ・その他、テキストの活用方法等に対する意見交換

#### 4. ヒアリング参加者

訪問ヒアリングで伺った施設・事業所の指導者及び外国人介護人材等

上野 興治	社会福祉法人福祉楽団 杜の家くりもと
リア プレスティア アングライニ	
上野 由香子	社会福祉法人成光苑 ライフ・ステージ舞夢
原田 麻里	
坂根 アメリータ	
谷 晴夫	ピーエムシー株式会社
草薙 嘉臣	社会福祉法人清峰会 浅草ほうらい
マギー	
小野 美代子	社会福祉法人伸こう福祉会 クロスハート幸・川崎
金 宇琦	

(合計10名・順不同)

#### 5. 実施体制

指導者グループと外国人介護人材グループの2グループに分かれて実施

- ・指導者グループ進行役 内田部会長
- ・外国人介護人材グループ 橋本委員

## 資料7

(参考)

参加者一覧

### ○ 調査部会

内田 千恵子	公益社団法人日本介護福祉士会 理事
蔵本 孝治	公益社団法人東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長
橋本 由紀江	一般社団法人国際交流&日本語支援 Y 代表理事

(合計3名・五十音順)

### ○ オブザーバー

伊藤 優子	厚生労働省社会・援護局福祉基盤課福祉人材確保対策室 介護福祉専門官
-------	--------------------------------------

### ○ 事務局

松下 能万	公益社団法人日本介護福祉士会 事務局次長
照井 言彦	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課 係長
鈴木 涼太	中央法規出版株式会社 第1編集部編集第1課



## 資料8

### 集合ヒアリング実施結果(概況)

#### (指導者グループ)

- ・指導者にきちんと理解していただくことが何より重要
- ・指導者用マニュアルも作成してほしい
- ・現場で実践している介護業務から説明をしたほうがよい
- ・Aさんのほかに指導者と実習生の姿もイラストで入れるべき
- ・介護の流れの図(P.5)はわかりづらい
- ・2つの事例の後に全体の説明をしてはどうか(反対意見もあり)

#### (外国人介護人材グループ)

- ・自立支援の意味を説明すべき
- ・会話の太字を色つきにすべき
- ・考えてみよう＝「あなたならどうやる？」のほうが回答しやすい

以上

## ヒアリング結果を踏まえた編集方針

### 【学習支援ツール全体に関わること】

- 見開きに1つの割合で、イラストを掲載する。
- すべての漢字にルビをふる。
- 重要語句については、色文字・ゴシック体（強調書体）で表示する。
- 医学用語や難解な日本語については、言葉が出てくる同じページに「側注」として用語の解説をする。
- 全三章構成のうち、2章と3章は各7節立てとしているが、特に章や節という表示はしていない。そのため、見出しのデザインを差別化し、視覚的変化をもたせる。
- 本文に入る前に、丁寧は何を学んでほしいのか等について説明する章を設ける。
- できる限り概念的な内容の説明からではなく、日ごろ実習生が携わる業務から話を始めるような工夫をする。
- 実習生の受け入れ施設へのメッセージ（本書の活用方法）を巻末に盛り込む。
- 実習生にわかりやすい日本語を使用すると、日本語の微妙なニュアンスが伝わらなくなる可能性があるため、その点に留意いただきたい旨を巻頭に盛り込む。

### 【第1章に関すること】

- このツールを読んで、何を学んでほしいのか（「テキストを読んで学んでほしいこと」という項目を1章とする。
- その際に、このテキストを読むためのモチベーションにつながるような内容を盛り込む。

### 【第2・3章に関すること】

- 各章の冒頭で、指導者と実習生の紹介コーナーを設ける。同様に、事例に登場する利用者の情報もイラスト入りで整理する。
- 2章と3章で取り上げる事例については、それぞれ特徴が出るように設定する。

2章……79歳の男性、Aさん。

脳梗塞による右片麻痺、麻痺の後遺症により上手に話すことができない

- ☛ 自分の意思をうまく表出できない利用者への自立支援  
同職種および他職種の連携  
個別援助の視点

3章……48歳の女性、Bさん。

先天性の四肢麻痺、意思決定能力はあり、自立への意識も高い

- ☛ 自己決定能力が高い利用者への自立支援  
プライバシーの配慮

## 資料9

ICF的な視点(心身機能としてどこまではできる、できるはずでも、ここまでしかできていない)

### 【検討事項】

○巻末、もしくは「4章」という形で、本テキストのまとめとなる詳しい解説の項目を加えたほうがよいか。

- ☛ 本テキストが自立支援を目指した具体的な介護の流れ(介護過程)を説明するものであること、など。

○巻末に加えることとしている、実習生の受け入れ施設へのメッセージ(本書の活用方法)についてもどの程度具体的なものにするか。

- ☛ 実際の活用場面等を盛り込むのかどうか
  - ・ 実習指導者が、実習生と振り返りを行う際に活用する
  - ・ 施設職員間で、実習生がこの学習支援ツールを使用することを前提とした指導を行う

○登場人物の名前をどうするか。

- ・ 利用者 (A さん、B さん)
  - ☛ ヒアリングにおいて「登場人物の名前があったほうが親しみやすい」という意見もあった一方、「日本語の名前を覚えるのが難しい」という意見もあるなかで、どのように整理すればよいか
- ・ 指導者、実習生
  - ☛ 名前をつける場合、実習生の名前は国籍の違い等も考慮しなければならない

### 【検討の視点】

○介護過程の考え方を理解することができる内容となっているか

○より実習生の理解を深めるためには、どのような工夫が考えられるか

## 外国人技能実習生向け「学習支援ツール」

### 目次構成案

#### 1 このテキストを読んで学んでほしいこと…

- 1 日本の介護の特徴
- 2 自立支援をめざす介護
- 3 自立支援をめざす、具体的な介護の流れ

#### 2 高齢者の介護施設で生活するAさんへの介護

……79歳の男性、Aさん。

脳梗塞による右片麻痺、麻痺の後遺症により上手に話すことができない。

- 自分の意思をうまく表出できない利用者への自立支援

同職種および他職種の連携

個別援助の視点

##### 1 利用者の状況をいろいろな角度からみてみよう

- 利用者を介護するためには、その方がどんな方かを知ることから始める。
- 利用者がどんな方かを知るためには、心身の状況だけでなく、生活の状況も含めたいろいろな角度からの情報を集める。

##### 2 介護の「目標」ってなんだろう

- 利用者がどんな生活を希望しているのかをまとめたものが、介護の目標である。
- 介護職が利用者に代わってまとめた目標の内容を、利用者に確認する。

##### 3 「目標」をめざして介護計画は立てられる

- 介護計画には、目標を実現するための支援内容と支援方法が書かれている。
- 介護計画は、利用者一人ひとりに個別につくられる。

##### 4 計画に沿って、みんなで介護する

- 目標と、目標を実現するための支援目標を、介護職みんなで共有し、介護計画に沿った同じ支援を行う。
- 介護職以外の人にも、介護職が介護計画に沿った支援を行っていることを知ってもらう。

## 資料9

### 5 介護をしながら、利用者を観察しよう

- 支援を行うときは、たんに業務を行うのではなく、利用者がどんな様子かを観察する。
- 利用者の様子を観察して得られた情報は、介護の目標が実現できたかどうかを確認するときに大切になる。

### 6 観察して気づいたことを、みんなで共有しよう

- 観察して気づいたことは、利用者にかかわる介護職みんなで共有する。
- 情報を共有する方法は、申し送り、記録、報告がある。

### 7 「目標」が達成されたかどうか、確認する

- 利用者の目標は、達成できるかどうか定期的に確認される。
- 利用者を観察して得られた情報は、目標が達成できたかどうか確認するときに必要になる。

## 3 障害者の介護施設で生活するBさんへの介護

……48歳の女性、Bさん。

先天性の四肢麻痺、意思決定能力はあり、自立への意識も高い

#### ☛ 自己決定能力が高い利用者への自立支援

プライバシーの配慮

ICF的な視点(心身機能としてどこまではできる、できるはずでも、ここまでしかできていない)

- 1 利用者の状況をいろいろな角度からみてみよう
- 2 介護の「目標」ってなんだろう
- 3 「目標」をめざして介護計画は立てられる
- 4 計画に沿って、みんなで介護する
- 5 介護をしながら、利用者を観察しよう
- 6 観察して気づいたことを、みんなで共有しよう
- 7 「目標」が達成されたかどうか、確認する

\*AさんとBさんの事例ともに、これから実習生が支援にかかわるという設定。介護計画はすでに作成されており、指導者が実習生に対して、計画がつくられた理由や経緯などを解き明かしていくというスタイル。

\*基本的に、Aさん事例もBさん事例も、七つのテーマの置き方や流れは同じにする。

## 集合ヒアリング実施結果

### ●開催日時・場所

平成 29 年 1 月 17 日（火） 14 : 30～16 : 00  
日本介護福祉士会 会議室

### ●主なヒアリング内容

- ・全体の流れ、構成が妥当か
- ・レイアウトはどうか
- ・言葉の使い方、側注のあり方はどうか
- ・テキストの精度を上げるための課題
- ・テキストを作成するにあたっての留意事項
- ・テキストの活用方法

### ●出席者

<調査部会委員> (以下、五十音順)

- ・内田千恵子 (日本介護福祉士会 理事/調査部会 部長)
- ・蔵本孝治 (東京都介護福祉士会 国際協力委員会 副委員長)
- ・橋本由紀江 (国際交流&日本語支援 Y 代表理事)

<ヒアリング参加者> (以下、順不同)

- ・上野興治 (社会福祉法人福祉楽団 杜の家くりもと)
- ・リア プレスティア アングライニ (同 上)
- ・上野由香子 (社会福祉法人成光苑 ライフステージ舞夢)
- ・原田麻里 (同 上)
- ・坂根アメリータ (同 上)
- ・谷 晴夫 (株式会社ピーエムシー)
- ・草薙嘉臣 (社会福祉法人清峰会 浅草ほうらい)
- ・マギー (同 上)
- ・小野美代子 (社会福祉法人伸こう福祉会 クロスハート幸・川崎)
- ・金 宇琦 (同 上)

<オブザーバー>

- ・伊藤優子 (厚生労働省 介護福祉専門官)

<事務局>

- ・松下能万 (日本介護福祉士会 事務局次長)
- ・照井言彦 (中央法規出版)

## 資料 10

・鈴木涼太（同 上）

### ●ヒアリング結果

#### 【学習支援ツール全体の感想】

##### <指導者グループより>

- 言葉づかいに違和感はなく、訪問ヒアリング時に提示されたものよりも読みやすくなっている。
- 最大 5 年しか滞在できない実習生に介護計画を作成させることは難しいが、計画作成と実施の意義を理解してもらい、自らの業務に活かしてもらうことはできると思う。
- 介護の根拠が何かを理解するのは難しいかもしれないが、介護に根拠があるということを理解してもらうことはできると思う。

#### 【学習支援ツールの編集上の意見】

##### <指導者グループより>

- イラストを増やしてほしい。
  - ・視覚的にもわかりやすく、楽しく、安心して、気楽に読めるものにしてほしい。
  - ・指導者と実習生についてもイラストをつけて紹介してほしい。
- 「高齢者」と「障害者」の 2 つの事例を取り上げるならば、それぞれに違いをもたせてはどうか。
  - ・介護過程の流れは同じでも、それぞれ内容に違いを出したほうがよい。
  - ・利用者も男性と女性に分けるなど、違いがわかるほうがよい。
- 章ごとに、小見出しのデザインに違いをもたせてはどうか。
  - ・見た目も印象が変わると、指導者もページを指示する際に伝えやすい。
- 高齢者と障害者の 2 つの事例を展開したあと、「このテキストを読んで学んでほしいこと」を示してほしい。
  - ・事例を最初にみせて、その後に理論の説明をしたほうがよい。つまり、現場で実践している介護業務から説明をしたほうがよいのではないか。
  - ・外国人への指導法として、①まずやってみる（やってみせる）、②その後に理論や根拠を教える、という方法をとることが多い（そのほうが理解しやすく、実践と理論を結びつけやすい）。
- 「1-3 自立支援をめざす具体的な介護の流れのイメージ」（5 頁）をもっと簡略化してほしい。
  - ・5 頁の図版は文字が多すぎて、日本語に不慣れな実習生は読む気になれないのではないかと。

##### <外国人介護人材グループより>

- B5 判という大学ノートのサイズは持ち運びがしやすいのでよい。

## 資料 10

- ページ数は厚くしないほしい。
- 文字の大きさ、文字と文字の間隔などはちょうどよく、見やすい。
- 漢字にすべて振り仮名がついているので、とても読みやすい。
- 会話文の中の太文字には色を付けてもらったほうが、大事だという意味が伝わる。
- イラストを増やしてほしい。
  - ・登場人物（実習生と指導者）の紹介を冒頭に入れてほしい。
- 利用者 A さんを紹介するページは、とても読みやすく、わかりやすい。
  - ・短文や単語で表現されているため。
  - ・日々かかわっている利用者に置き換えて、イメージすることができるため。
- 敬語については、利用者がしたことを話すときに使用する程度でよいのではないか。
- 「考えてみよう」のコーナーは、「あなたならどうする？（どうやる？）」と聞かれたほうが答えやすい。

### 【学習支援ツールのより有効な活用方法に関する意見】

#### ＜指導者グループより＞

- 学習支援ツールを読むためのモチベーションとなるような目標や試験を設けてはどうか。
  - ・日本で勉強したという証となるようなもの。
  - ・何かの資格取得に結びつくようなもの。

### 【今後の課題として挙げられた意見】

#### ＜指導者グループより＞

- 指導者向けの教材を作成してほしい。
  - ・実習生にきちんと「介護の技能」を理解してもらうためには、指導者が何を教えるべきか、実習生にどうなってほしいかを、きちんと指導者がもっているべき。
  - ・指導者が実習生にどう指導していくかわかるもの（講師用マニュアルのようなもの）が必要。



### ●ヒアリング結果をふまえた調査部会の意見

- 「学習支援ツールの作成にあたっては、介護過程の展開を通じて、尊厳の保持や自立支援といった日本の介護の特徴にふれられる内容とする」という以前にまとめた編集方針は大きく見直すことはしない。
- ただし、日本の介護の考え方を理論として学ぶだけでなく、日々の介護業務とうまく結び付けられるような編集上の工夫が求められる。具体的には、現場で行われている介護業務（介護場面）から話が展開できるようにする。
- 1章の建付けを再度見直し、日本の介護の特徴である「自立支援の考え方」と、自立支援を目指した具体的な介護の流れ（＝「介護過程」）を実習生にイメージしてもらいやすくする。
- 2章と3章それぞれの事例については、事例の特徴および支援の視点を明確にしたうえで、原稿内容を確定させる。
- 「介護の技能」について理解を促進するためには、例えば、外国人を指導・教育する講師の育成や、定期的な学習会の開催など、何らかの仕掛けが求められる。この点については今後の検討課題とする。

### ●今後の流れ

- 学習支援ツールの本文内容を再度整理・見直しのうえ、1月中に原稿を確定させる。
  - ☛ 「原稿」については、別添資料参照。
- 原稿内容を教材開発部会等で確認のうえ、校正刷りに仕上げ、2月中旬以降、第2回訪問ヒアリングを実施する。
- 3月上旬までには第2回訪問ヒアリングを終え、そこでの意見等を集約のうえ、3月中旬までには学習支援ツールの内容を固める。
- 同時並行で、本調査研究事業全体のとりまとめを行い、3月中旬までに各検討会・部会において確認をとり、報告書の内容を固める。

## 第2回訪問ヒアリング実施概要

### 1. 実施目的

訪問ヒアリング（1回目）では、「介護過程の展開」の考え方を確実に技能実習生に習得していただくための学習支援ツール開発にあたって、①活用しやすい教材内容とは何か、②活用しやすくするためにはどんな工夫が必要かという意見を、すでに日本で介護について学んでいる外国籍の方、また、その教育指導担当の方からお聞きした。

また、集合ヒアリングでは、1回目のヒアリング以降に修正した **SAMPLE** 原稿をもとに、さらなるご意見をいただいて、学習支援ツールのブラッシュアップを図った。

そこで、訪問ヒアリング（2回目）では、学習支援ツールの校正刷り（本文部分の全頁）を素材として、本文内容のほか、イラストやデザイン等に関する意見聴取と最終的な確認を目的とした。

### 2. 実施方法

- 1回目の訪問ヒアリングと同様に、3名程度の調査員が各施設・事業所等を訪問し、「EPA 介護福祉士候補者（就労2年くらいまで）」または「身分に基づく在留資格をもつ介護職員」（以下、「EPA 候補者等」）、その教育指導担当者（以下、「指導者」）等に、1時間程度、話を伺った。
- 学習支援ツールの校正刷りを事前に各施設・事業所等に送付しておき、あらかじめ中身を見ていただく工程とした。そのうえで訪問時に、本文内容のほか、イラストやデザインの仕上がりに関する意見、また、学習支援ツールの活用方法に関する意見などをヒアリングした。

### 3. 実施実績

別添資料参照

## 第2回訪問ヒアリング実施対象施設・事業所一覧

実施日 (平成29年)	3月2日(木)	3月3日(金)	3月3日(金)	3月7日(火)	3月7日(火)	3月7日(火)	3月
実施施設 (所在地・主な施設形態)	あそか苑 (兵庫県伊丹市／ 特別養護老人ホーム)	社会福祉法人成光 苑 ライフ・ステージ 舞夢 (京都府舞鶴市／ 地域密着型介護老 人福祉施設)	社会福祉法人清峰 会 浅草ほうらい (東京都台東区／ 特別養護老人ホーム)	社会福祉法人福祉 楽団 社の家くりもと (千葉県香取市／ 特別養護老人ホーム)	社会福祉法人あぐ りす実の丘 大地の丘 (愛知県知多郡南 知多町／高齢者福 祉施設)	社会福祉法人足立 邦栄会 みずき (東京都府中市／ 障害者支援施設)	
協力者(指導者)	・河原 綾氏 (苑長) ・ダン理恵氏 (日本語講師)	・上野由香子氏 (施設長)	・草薙嘉臣氏 (介護係長)	・上野興治氏 (サポーターセン ター コーチ)		・岩崎京子 (相談員)	
入国年次 (介護職歴(当 時))	平成18年 (職歴は2年目)	来日30年、ほか		平成27年			
在留資格等/ 母国	身分に基づく在留 資格/ 中国	身分に基づく在留 資格	いわゆるEPA候 補者/ 規	いわゆるEPA候 補者/ 規	いわゆるEPA介 護福祉士=1名 いわゆるEPA候 補者=2名	身分に基づく在留 資格/ 規	
調査部会/事務局 参加者 (オプザーバー)	橋本委員 <事務局>松下、 中央法規	石本委員長 <事務局>松下、 中央法規	内田部会長 <事務局>中央法 規 (伊藤介護福祉専 門官)	内田部会長、蔵本 委員 <事務局>中央法 規	稲垣委員 <事務局>松下、 中央法規	<事務局>松下、 中央法規	

## 第2回訪問ヒアリング実施結果

### ① テキスト全体に関する意見(各章に共通する意見)

#### <用語および文章表現に関する意見>

- ① 平仮名の表記を多用するよりも、適度に漢字を用い、そこにルビをふるほうがよい。
  - ☛ 例えば、「～によい」ではなく「～に<sup>よ</sup>い」など。
- ② 側注の用語解説として、【麻痺】(p.4、20)、【確認】(p.4、20)、【状況】(p.5、30)、【目標】(p.6、22)【支援】(p.8、24)【不安】(p.27)、【検討】(p.38)、【設定】(p.38)等を取り上げる必要はないか。
  - ☛ 現在、側注の用語解説で取り上げている言葉は次の通り。  
【特徴】【担当】【寝たきり】【計画】【活かす】【観察】【見直す】【共有】【脳梗塞】【後遺症】【発音】【ADL】【趣味】【かかわる】【具体的】【達成】【申し送り】【修正】【定期的】  
【取り戻す】【バランスをくずす】【園芸】

#### <デザインおよびイラストに関する意見>

- ① 「もくじ」の白抜き数字の部分が同濃度の色になっており、少し見づらい印象がある。
- ② 会話部分の「指導者」と「実習生」の区別がつくように、何らかの工夫をしてほしい。
- ③ イラストを見れば、その場面がイメージできる内容であることが望ましい。
  - ☛ 日本語の意味がわからなくても、イラストを見て理解できれば読もうという気になる。
  - ☛ イラストの場面がすぐ理解できるように、イラストにキャプション(場面を説明する見出し)を入れてはどうか。
- ④ 「まとめ」の欄をもう少し下方に位置づけられないか(例えば、イラストとまとめの位置を入れ替えるなど)。
  - ☛ 「まとめ」に目が行き過ぎて、会話文を読まない可能性がある。

### ② 第1章に関する意見

- ① 「自立支援をめざす介護」という表現が適切かどうか。
  - ☛ 自立支援は介護の目的であって、めざすべき方向や到達点なのかどうか。
- ② p.1 の色アミ(ピンク色の背景)がかかった導入部で何を言おうとしているか、もっとはっきりさせ、目立つ体裁にしてはどうか。
- ③ 第1節で、あえて「PDCA」という言葉を使ってもよいのではないか。
  - ☛ 日本人介護職にはなじみのある言葉なので、この言葉を使ったほうが、日本人指導者が理解しやすく、教えやすくなると思われる。

### ③ 第2章(高齢の佐藤さんの事例)に関する意見

#### <本文内容に関する意見>

- ① 利用者の紹介ページ (p.3) に「支援方法」も入れてほしい。
  - ☛ 本文に突然「支援方法」が出てくる印象がある。
- ② 利用者の紹介ページ (p.3) の「左側に麻痺」を見直してはどうか。
  - ☛ 「左半身に麻痺」もしくは「身体の左側に麻痺」など。
- ③ 利用者の紹介ページ (p.3) で、脳梗塞がもたらす後遺症を一括りにしてはどうか。
  - ☛ イメージ：脳梗塞の後遺症…発音できない、左側に麻痺
- ④ 利用者の紹介ページ (p.3) で、主観的情報と客観的情報を色分けして示してはどうか。
- ⑤ 利用者の紹介ページ (p.3) の介護目標が「ふやす」という表現でよいかどうか。
  - ☛ 介護職側の視点ということだけでなく、人とかかわる機会をふやすこと自体が目標なのではなく、「ふえることによって、どのような生活を送れるようになるのか」が本来の目標の意義ではないか。  
例えば、「人とかかわる機会がふえ、楽しく生活が送れるようになる」など。
- ⑥ 「2 利用者の状況をみてみよう」(p.4~5) で、本人だけでなく家族からも情報を得ることもある旨が記述されているとよいのではないか。
- ⑦ 「3 介護の目標って、なんだろう」(p.6~7) がわかりづらい。
  - ☛ どうして「人とかかわる機会をふやす」という目標になったのかが、読んでいてわかりづらかった。
- ⑧ 「4 介護計画って、なんだろう」(p.8~9) の本文や「まとめ」のなかで、介護計画には目標も記載されている旨を示したほうがよいのではないか。
- ⑨ 「5 計画のとおり、みんなで介護する」(p.10~11) がわかりづらい。
  - ☛ 介護計画の内容を共有しない場合、どんなことになるかの例示がわかりにくかった。
- ⑩ 山田さんの名前の前に「声をかけくれやすい」と付くのが読みにくい。
  - ☛ 「声をかけてくれやすい」という文章を削除し、山田さんの紹介をどこかですれば、どうして山田さんとマッチングしたのかも理解しやすくなるのではないか。

#### <イラストに関する意見>

- ① p.9 のイラストおよびイラスト内の文字は、もっと大きいほうがよいのではないか。

### ④ 第3章(障害のある高橋さんの事例)に関する意見

#### <本文内容に関する意見>

- ① 利用者の紹介ページ (p.19) に「支援方法」も入れてほしい。

## 資料 13

- ☛ 本文に突然「支援方法」が出てくる印象がある。
- ② 利用者の紹介ページ (p.3) で、主観的情報と客観的情報を色分けして示してはどうか。
- ③ 利用者の目標に対して、どうしてこの支援内容になったのかが、利用者の紹介ページ (p.19) を見ただけではわからなかった。
  - ☛ 「4 介護計画って、なんだろう」(p.24~25) までを読んで初めてわかった。
  - ☛ もっと高橋さんの状態像を具体的に記述したほうがよいか。
- ④ 「4 介護計画って、なんだろう」(p.24~25) の本文や「まとめ」のなかで、介護計画には目標も記載されている旨を示したほうがよいのではないか。

### <用語および文章表現に関する意見>

- ① 「身体」のルビは、「からだ」のほうがわかりやすい (p.4、5)。

### <イラストに関する意見>

- ① トイレで下半身が描かれていないイラストは、何をしているのかがわかりづらい。
  - ☛ 身体全体を描くか、トイレだとわかるマークを入れてほしい。
- ② p.31 のイラストは、報告されているのが職員なのか、家族なのか、伝わりにくい。

## ⑤ テキストの活用方法等に関する意見

### <テキストの活用の仕方について>

- ① グループワークにおいて非常に使いやすいテキストだと思う。
- ② 集合研修時においても使えると思う。
- ③ 指導者が多少指導を加えれば、自己学習でも活用できると思う。
- ④ 新卒や初任者、中途採用の日本人向けの教育にも使用できるかもしれない。
  - ☛ 一方で、「現場経験のない人には難しいのでは難しいかもしれない」との意見もあり。

### <指導者へのメッセージについて>

- ① 「本書の使い方」を指導者向けに1ページくらいのボリュームで掲載してはどうか。
- ② 指導者向けには、以下の内容を載せてはどうか。
  - ・このテキストが何のためにつくられたのか。
  - ・このテキストの目的を実習生にマンツーマンで伝えることが、自己学習に役立つこと。
  - ・受入れ側に準備が必要なこと(教える側の理解と、必要に応じて業務の見直しをすること)。
  - ・制度のなかでこのテキストをうまく活用し、受入れ側と実習生双方が利益を得る関係になれるよう促すこと。

「技能実習制度における介護サービスの質の担保に向けた  
学習支援ツールの開発に関する調査研究事業」報告書

(平成 28 年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業)

平成 29 年 (2017) 3 月 発行

公益社団法人 日本介護福祉士会